

タルトキハ之ヲ鎮守府司令長官ニ授ク  
命名書ハ左ノ例ニ依ル

明治何年何月此ノ何種艦ノ構造ヲ始メ今ヤ艦體ノ成ルヲ告ケ何ヤト命名セラル  
明治何年何月何日

海軍大臣 某

第二條中「造船部長」ヲ「造船廠長」ニ改ム

第五條ノ次ニ左ノ二條ヲ追加ス

第六條 進水ノ式場ニ參列スヘキ諸官ハ本手續書ニ明文アルモノ、外左ノ如シ

海軍省軍務局長及同局第二課長

海軍艦政本部長

海軍艦政本部第三部長及同第四部長

當該鎮守府艦政部長

第七條 場合ニ依リ海軍大臣ハ海軍省軍務局長若ハ當該鎮守府司令長官ヲシテ其ノ代理ヲラシム  
ルコトアルヘシ

〔參照〕

海軍省達第四十四號軍艦進水手續(明治二十八年五月十九日)抄録

第一條 新造軍艦ヲ進水セシメラル、トキハ海軍大臣本艦ノ前面ニ立テ進水命令書ヲ朗讀ス朗讀終リタルトキハ之ヲ鎮守  
府司令長官ニ授ク

進水命令書ハ左ノ例ニ依ル

明治何年何月軍艦何々ノ構造ヲ始メ今ヤ艦體ノ成ルヲ告ケ依テ茲ニ之ヲ進水セシム  
明治 年 月 日

第二條 鎮守府司令長官進水命令書ヲ受ケタルトキハ直ニ造船部長ニ令シテ本艦ヲ進水セシム  
○海軍省達第八十四號  
海軍服裝規則中左ノ通改正ス

明治三十三年五月二十四日

海軍大臣山本權兵衛

第二條二號ヲ削除ス

第三條二號八號ヲ左ノ通改ム

二 臨御ノ式場ニ參列スルトキ

八 鎮守府要港部艦團若ハ勤務ノ廳ニ臨御ノトキ

第四條九號十號ヲ左ノ通改ム

九 臨御ノ場所ニ參會スルトキ

十 學術卒業證書授與式又ハ進水式ニ參列若ハ參會スルトキ但臨御ノトキハ參列者ノミ禮服

〔參照〕

海軍省達第百二號海軍服裝規則(明治二十九年十二月二十日)抄録

第二條 正服用ノ場合ハ概ネ左ノ如シ

三 鎮守府要港部艦團若クハ勤務ノ廳ニ臨御ノトキ

第三條 禮服用ノ場合ハ概ネ左ノ如シ

二 臨御ノ場所ニ參會スルトキ

八 進水式ニ參列スルトキ但臨御ノトキハ正服

第四條 軍服用ノ場合ハ概ネ左ノ如シ

九 進水式ニ參會スルトキ但臨御ノトキハ禮服

十 學術卒業證書授與式ニ參列若クハ參會スルトキ但臨御ノトキハ禮服

○海軍省達第八十五號

海軍大臣山本權兵衛

第二條 削除

第三條 鎮守府兵事官ハ毎月一日海軍下士卒服役條例第十三條第二項ノ通知ニ基キ別紙様式ニ依リ再服役許可人員調ヲ作り海軍省人事局ニ報告スヘシ

第六條中「本人ノ籍ヲ管スル」ヲ「本人在籍鎮守府」ニ改ム

第七條第一項及第二項中「人事課長」ヲ「人事局長」ニ改ム

第八條中「賞罰」ノ次ニ「及證書證狀ノ授與」ヲ加ヘ「本人ノ籍ヲ管スル海兵團」ヲ「本人在籍鎮守府ノ兵事官」ニ改ム

第十四條第一項中「入團セシムル」ニ際シテハ「ノ次ニ」海兵團長ハ其ノ部下下士卒ノ割註ヲ加ヘ「之ヲ海兵團長ニ移スヘシ海兵團長ハ其ノ部下下士卒ノ成績書並ニ所見ト共ニ」ヲ「之ヲ鎮守府兵事官ニ移スヘシ兵事官」ニ改ム

第十五條中「海兵團」ヲ「兵事官」ニ「人事課」ヲ「人事局」ニ改ム

第十六條中「本人ノ籍ヲ管スル海兵團」ヲ「本人在籍鎮守府ノ兵事官」ニ改ム

〔参照〕

海軍省達第九十七號海軍下士卒身上取扱規則(明治三十一年六月二十三日)抄録

第二條 艦團長其ノ他下士卒ヲ直轄スル各部ノ長ハ毎月再服役許可シタル下士卒ノ官(職)氏名(姓名)ノ上ニ取纏メ各其ノ本人ノ籍ヲ管スル海兵團ニ通知スヘシ

第三條 海兵團ニ於テハ前條ノ通知ニ基キ別紙様式ニ依リ再服役許可人員調ヲ作り所管鎮守府ヲ經テ海軍省軍務局ニ報告スヘシ

第六條 下士卒ヲ退院者ハ出獄セシムルトキ其ノ乘組艦船艇運隔ノ地ニ在ルカ或ハ其ノ所在不明ナルトキハ之ヲ本人ノ籍ヲ管スル海兵團ニ送ルヘシ但シ事故アリテ出獄セシムルコト能ハサルトキハ一時其ノ地ノ海兵團ニ入團セシムヘシ

第七條 艦團長其ノ他各部ノ長ハ部下下士卒中敘位敘勳ヲ至當ト認ムル者アルトキハ敘位者ニ在テハ其ノ都度敘勳者ニ在テ

ハ毎年四月三十日迄ニ資格ヲ有スヘキ者ハ其ノ前年十二月十五日限り十月三十一日迄ニ資格ヲ有スヘキ者ハ其ノ年六月十五日限り所管長官ヲ經テ其ノ履歴書ヲ各其ノ在籍鎮守府司令長官ニ呈シ鎮守府司令長官ハ一月十五日及七月十五日迄ニ之ヲ海軍省人事課長ニ送附スヘシ

前項ニ依リ履歴書ヲ送附シタル後敘位敘勳以前ニ於テ轉免離陸其ノ他兵籍上ノ異動アルトキ若ハ敘位敘勳ノ推選ヲ取消サントスルトキハ前項ノ順序ヲ經テ速ニ海軍省人事課長ニ通知スヘシ

第八條 下士卒ノ進級俸轉獎勵入院退院死亡逃亡懲罰其ノ他兵籍上ノ異動ニ係ルモノハ總テ其ノ所轄長ヨリ本人ノ籍ヲ管スル海兵團ニ通知スヘシ但シ懲罰ニ限り每一箇月取纏メ翌月頭ニ通知スヘシ

第十四條 艦團長其ノ他各部ノ長ハ現役ヲ離ルヘキ部下下士卒若ハ兵役ヲ免セラルヘキ部下下士卒ヲ海兵團ニ入團セシムルニ際シテハ服役中ノ成績ヲ考査シ其ノ成績良好ノ者ナルトキハ別紙様式ニ依リ服役成績書ニ通テ作り且別ニ其ノ所見ヲ附シ之ヲ海兵團長ニ移スヘシ海兵團長ハ其ノ部下下士卒ノ成績書並ニ所見ト共ニ其ノ一通ヲ地方廳ニ移シ其ノ家族ニ下渡方ヲ依頼シ他ノ一通ヲ保存スヘシ

第十五條 一等下士卒ニシテ現役ヲ離レタル者アルトキハ海兵團ヨリ其ノ人名ヲ速カニ人事課ニ通知スヘシ

第十六條第二項 現役豫備役後備役滿期又ハ事故ニ由リ現役豫備役後備役者ハ兵役ヲ免セラレタル者アルトキハ本人ノ籍ヲ管スル海兵團ヨリ地方廳ヲ經テ本人在籍地ノ郡市長ニ通知スヘシ

○海軍省達第八十六號

糧食經理規程中左ノ通改正ス

明治三十三年五月二十九日

海軍大臣山本權兵衛

第二十條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ追加ス

軍港内ニ在ル糧食取扱主任生糧品ノ受込ヲ要スルトキハ其ノ量額ヲ前日其ノ地ノ兵備品會計官吏ニ請求シ兵備品會計官吏ハ適宜其ノ品種ヲ定メ供給ノ手續ヲ爲スヘシ

第一表第二表ヲ左ノ通り改ム

第一表 糧食品日常表

上陸(乙)										食糧船艦海航(甲)											
水	火	月	日	合	小	調理	土	金	木	水	火	月	日	合	小	調理	土	金	木	包麵乾	麵包
噸	噸	噸	噸	計	計	週額	日	日	日	噸	噸	噸	噸	計	計	週額	日	日	日	包麵生	貯藏
六五	六五	五〇	六五	三五〇	二八〇	二八〇	五〇	五〇	五〇	六五	六五	五〇	六五	三五〇	二八〇	二八〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇
六〇	六〇	四〇	六〇	五六〇	七〇〇	二四五	一〇〇	一〇〇	一〇〇	六〇	六〇	四〇	六〇	五六〇	七〇〇	二四五	一〇〇	一〇〇	一〇〇	四〇	四〇
四〇	四〇	一〇〇	四〇	九八五	一一五	一一五	二五	二五	二五	四〇	四〇	一〇〇	四〇	九八五	一一五	一一五	二五	二五	二五	一〇〇	一〇〇
一〇〇	一〇〇	三五	一〇〇	一四〇	八四〇	三三五	一一〇	一一〇	一一〇	一〇〇	一〇〇	三五	一〇〇	一四〇	八四〇	三三五	一一〇	一一〇	一一〇	二〇	二〇
三五	三五	三五	三五	一〇〇	七〇	七〇	一〇	一〇	一〇	三五	三五	三五	三五	一〇〇	七〇	七〇	一〇	一〇	一〇	五	五
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六	六	六	六	七〇	二八	二八	六	六	六	六	六	六	六	七〇	二八	二八	六	六	六	六	六
				三	〇	〇								三	〇	〇				合	合
				一〇	一〇	一〇								一〇	一〇	一〇				合	合
				一〇	一〇	一〇								一〇	一〇	一〇				合	合
				一〇	一〇	一〇								一〇	一〇	一〇				合	合

食糧人陸在(丙)										食糧船艦泊艇及									
合	小	調理	土	金	木	水	火	月	日	合	小	調理	土	金	木				
計	計	週額	日	日	日	日	日	日	日	計	計	週額	日	日	日				
三八〇	二四〇	二四〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	四四〇	五〇〇	五〇〇	六五	六五	六五				
一四〇	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇	六八〇	四〇〇	四〇〇	六〇	六〇	六〇				
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	九八五	二四五	二四五	二五	二五	二五				
七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	八四〇	三三五	三三五	一一〇	一一〇	一一〇				
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇五	七	七	一	一	一				
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	七〇	二八	二八	六	六	六				
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	三	〇	〇							
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一五	一五	一五							
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇							

貯藏肉ハ「コンビーフ」「ポイルビーフ」「ロースビーフ」三種トス





第八條 下検査書ハ收入計算書毎ニ調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 收入計算書ト現金出納簿トノ符合及残額現存ノ保證

二 事實ニ適合セスト認定シタル事項ノ金額事由

第九條 審理書及答辯書ハ下検査ヲ執行スル官吏ヲ經由スヘシ

附則

第十條 本規程ハ明治三十三年度分ヨリ施行ス

従前ノ各收入證明規程ハ明治三十二年分限リ廢止ス

(別記)

書式

明治何年度  
收入計算書

證憑書 何冊

何々

應 名

一 計算書ヲ受授スル者ハ其年月日ヲ表紙ニ記載スヘシ  
一 計算書ノ用紙ハ御沙引厚質美濃紙ニツ折ヲ用ヒ左側ニ曲尺一寸餘ノ假  
代ヲ存スヘシ  
一 計算書ハ改描塗抹ヲ禁ス若シ誤記脱字等ニテ訂正ヲ爲シタルトキハ二  
線ヲ横畫シ主任官吏之ニ捺印スヘシ

計	拂込済額		拂込未済額		備	考
	圓	錢	圓	錢		
0	0	0	0	0		○分任收入官吏既證明ノモノタリトモ之ヲ本欄ニ記入シ其事由ヲ備考ニ記載スヘシ
0	0	0	0	0		
0	0	0	0	0		
0	0	0	0	0		
				000		
				000		



精		要	
何	年	度	計
何	年	度	
<small>提出承認書</small> <small>某所主任收入官署名</small> <small>某所主任收入官署名</small> <small>某所主任收入官署名</small>			

明治何年度收入計算書證明候也

職官氏名印

會計検査院長宛

年 月 日

○宮内省達甲第三號

帝國博物館帝國京都博物館帝國奈良博物館ヲ東京帝室博物館京都帝室博物館奈良帝室博物館ト改稱シ帝室博物館官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

但シ施行ノ期ハ本年七月一日トス

明治三十三年六月二十六日

奉 勅

帝室博物館官制

第一條 東京帝室博物館ニ帝室博物館總長一人ヲ置ク勅任トス宮内大臣ノ監督ヲ承ケ職員ヲ統督

シ各帝室博物館ノ事務ヲ總理シ兼テ上野公園及動物園ノ事務ヲ管理ス

第二條 東京帝室博物館ニ主事一人ヲ置ク奏任トス總長ヲ輔ケ館務ヲ掌理ス

第三條 京都帝室博物館及奈良帝室博物館ニ館長各一人ヲ置ク奏任トス館務ヲ掌理シ所部職員ヲ

監督ス

第四條 各帝室博物館ニ左ノ職員ヲ置ク

部長 奏任 京都帝室博物館及奈良帝室博物館ハ五等以下トス

部次長 判任 三等以上

書記 判任

技手 判任

第五條 部長ハ東京帝室博物館四人京都帝室博物館奈良帝室博物館各三人トス總長又ハ館長ノ命ヲ承ケ別品部門ノ別ニ從ヒ部務ヲ分掌ス



第六條 部次長ハ東京帝室博物館四人京都帝室博物館奈良帝室博物館各三人トス部長ヲ助ケ部務ヲ處理ス

第七條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第八條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ列品ノ調査監守ニ從事ス

第九條 館務ノ須要ニ依リ各帝室博物館ニ評議員及學藝委員ヲ置クコトヲ得

第十條 評議員ハ東京帝室博物館五人京都帝室博物館奈良帝室博物館各二人勅任又ハ奏任ノ待遇トス總長又ハ館長ノ諮詢ニ對ヘ其ノ召集ニ應シテ館務ニ參與ス

第十一條 學藝委員ハ東京帝室博物館七人京都帝室博物館五人奈良帝室博物館三人奏任待遇トス

總長又ハ館長ノ命ヲ承ケ列品ノ鑑査解說又ハ編纂著譯ニ從事ス

第十二條 實際ノ須要アルトキハ各帝室博物館ニ囑託員ヲ置キ部長部次長ノ事務又ハ列品ノ鑑査解說ヲ委囑スルコトヲ得

第十三條 高等官ノ俸給ハ宮内省官制第五十條高等官俸給表ニ依リ部次長書記ノ俸給ハ同條屬俸給、技手ハ技手俸給ニ依ル

第十四條 評議員學藝委員及囑託員ノ報酬ハ經費定額内ニ於テ總長適宜之ヲ定ム

第十五條 本官制中別ニ規定ナキモノハ宮内省官制ニ依ル

○宮内省達乙第六號

本年宮内省達乙第五號第二項中東宮御所ノ四字ヲ除キ第二項ヘ左ノ但書ヲ加フ

但東宮御所ヘ差出スモノハ東宮御所構内消毒所ニ於テ消毒ヲ受クベシ

明治三十三年六月七日 宮内大臣子爵田中光顯

但東宮御所ヘ差出スモノハ東宮御所構内消毒所ニ於テ消毒ヲ受クベシ

陸軍大臣子爵田中光顯

○陸達第六十六號

明治二十九年十二月陸達第百七十五號陸軍馬匹名簿規則中左ノ通改正ス

明治三十三年六月四日 陸軍大臣子爵桂 太郎

甲號馬匹名簿注意第五號中「道府縣」ヲ「國」ニ改ム

乙號馬匹名簿注意第三號中「轉載スヘシ」ノ下ニ「但年齡並體尺ハ配賦當時ノ實際ヲ記載スヘシ」ヲ追加ス

拂下馬匹名簿注意第三號中但以下ヲ削除ス

○陸達第六十七號

野戰職工具ノ制式ヲ別紙圖面ノ通定ム (別紙略ス)

但シ一號職工具ハ營内用、二號職工具ハ野戰兵器廠用、三號職工具ハ野戰隊用トス

明治三十三年六月五日 陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸達第六十八號

陸軍工卒教育規則中左ノ通改正ス

明治三十三年六月十二日 陸軍大臣子爵桂 太郎

第四條及第五條ヲ左ノ如ク改ム

第四條 各隊對馬醫備長ハ毎年第二期教育ヲ終レハ初年兵中ヨリ其隊所要ノ工卒ニ適當ノ者ヲ選

拔シ第八條ノ教科ヲ修習セシム

第五條 教育期ハ鞍工卒銃工卒木工卒鍛工卒縫工卒及靴工卒ニ在テハ四箇月間蹄鐵工卒ニ在テハ八箇月間トス

第六條中割註ヲ削リ「監護及工長同下長」ヲ當該工長ニ改ム

〔參照〕

陸軍第九十一號陸軍工卒教育規則(明治三十年七月二十四日)抄録

第四條 各隊隊長ハ毎年六月下旬初年兵中ヨリ其ノ隊所要ノ工卒ニ適當ノ者ヲ撰拔シ第八條ノ教科ヲ修業セシム

第五條 教育期ハ被工卒、銃工卒、木工卒、鍛工卒、縫工卒及靴工卒ニ在テハ五箇月間、鍛工卒ニ在テハ九箇月間トス

第六條 被工卒、銃工卒、木工卒及鍛工卒ノ教育ハ首座兵器委員ヲ以テ監督シ、縫工卒ノ教育ハ隊附高級職工卒及靴工卒ノ教育ハ首座被服委員之レヲ擔任シ、監護及工長同下長ヲシテ專ラ教授ヲ掌ラシム

陸軍第六十九號

二十四珊米加農用方向照準機別紙圖面ノ通制定ス (別紙略ス)

明治三十三年六月十五日

陸軍大臣子爵桂 太郎

陸軍第七十號

本年六月十五日以降清國事件ニ關シ軍需品ノ調達ニ當リ會計法第二十四條第二及第三ニ依リ隨意ノ契約ヲ爲ス場合ニアリテ請負人ノ身元確實ナル者ニ對シテハ契約保證金ヲ免除ス

明治三十三年六月二十九日

陸軍大臣子爵桂 太郎

陸軍第七十一號

明治二十九年陸軍第七十三號各學校喇叭手分遣規則中左ノ通改正ス

明治三十三年六月二十九日

陸軍大臣子爵桂 太郎

第一條中「騎兵實施學校」ヲ削ル

學校喇叭手分遣人員表中騎兵實施學校ノ横畫ヲ削除シ計ノ横畫中第二、第三ノ下「一」ヲ削リ合計ノ

横畫中第二、第三ノ下「三」ヲ各「二」ニ、「三〇」ヲ「二八」ニ改ム

○海軍省達第八十九號

海軍下士卒履歷表中記入心得第一號ヲ左ノ通改ム (改正略ス)

明治三十三年六月一日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第九十號

兵學校、機關學校、砲術練習所、水雷術練習所、機關術練習所及各病院教員員數表中兵學校ノ欄兵曹「二八」ヲ「三八」ニ計「四〇」ヲ「五〇」ニ改ム

明治三十三年六月一日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第九十一號

海軍官印規程中左ノ通改ム

明治三十三年六月一日

海軍大臣山本權兵衛

第二條 軍令部ノ下ニ「教育本部」ヲ加フ  
第三條 左ノ通改ム

總務長官、副官、祕書官、海軍省局長、課長、大臣直屬廳長、軍令部長、次長、局長、醫務局長、經理局長、教育本部長、艦政本部長、所屬廳長、教育本部艦政本部長、司令長官、司令官、參謀長、鎮守府部長、鎮守府司令長官、所屬廳長、鎮守府艦政部長、所屬廳長、艦團長、司令、兵事官、望樓監督官、看護術練習所長、造船工練習所長、臨時海軍建築部支部長、仕拂命令官、出納官吏  
常設軍法會議ノ主理録事ハ職印ヲ備フ其寸法ハ左ノ如シ

- 一 親補官ノ職印 曲尺方一寸
- 二 勅任官ノ職印 曲尺方九分
- 三 大臣直屬廳長ノ職印 曲尺方八分
- 四 奏任官ノ職印 曲尺方七分
- 五 判任官ノ職印 曲尺方六分

○海軍省達第九十二號

海軍軍醫學校規則中左ノ通改正ス

明治三十三年六月一日

海軍大臣山本權兵衛

- 第一條 及第二條中海軍大臣ヲ「海軍省醫務局長」ニ改ム
- 第三條 校長ハ學年ノ終ニ於テ教官ヲ會同シ會議ヲ開キ既往學術ノ進歩及將來教育ノ改良ニ就テ審議シ學事報告ヲ作り之ヲ海軍省醫務局長ニ進達スヘシ
- 第五條 削除
- 第九條 學生ハ海軍少軍醫候補生ヲ除キ十五名以内トス
- 第十條 選科學生タランコトヲ志願スルモノハ海軍軍醫學校條例第十一條及第十二條ニ據リ入學後研究セントスル學科ヲ選擇シ順序ヲ經テ願書ヲ海軍大臣ニ差出スヘシ海軍大臣ハ海軍省醫務局長ヲシテ志願者ノ學識性行ニ鑑ミ其ノ所志ヲ遂行シ得ヘキモノタルヤ否ヤヲ審査セシム
- 第十一條 學生ノ學用品ハ自辨トス但シ授業ニ要スル書籍及器械等ハ其ノ種類ニ依リ貸與スルコトアルヘシ

〔參照〕

海軍省達第九十二號海軍軍醫學校規則(明治三十二年五月十六日)抄録

- 第一條 校長ハ海軍軍醫學校條例及本則ニ依リ教務及服務ニ關スル諸規程ヲ設ケ海軍大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ實施スヘシ
- 第二條 校長ハ每學年ノ終ニ於テ學生及講習生ノ試験成績ヲ考查シ之ニ意見ヲ附シテ海軍大臣ニ進達スヘシ
- 第三條 校長ハ每學年ノ終ニ於テ職員ヲ集メ會議ヲ開キ既往學術ノ進歩及將來教育ノ改良ニ就テ審議シ學事報告ヲ作り之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ
- 第五條 校長ハ學生中修學上不適當ト認ムル者アルトキハ海軍大臣ニ上申スヘシ
- 第九條 學生ハ十五名以内トス
- 第十條 學用器具ハ其ノ種類ニ依リ貸與スルコトアルヘシ

○海軍省達第九十二號

海軍上長官士官任用進級取扱規則中左ノ通改正ス

明治三十三年六月一日

海軍大臣山本權兵衛

- 第一條 兵曹長同相當官ノ任用及士官上長官ノ進級ハ各其拔擢名簿調製官ニ於テ任用進級セシムルニ適當ナル者ヲ拔擢シ拔擢名簿ヲ調製シ順序ヲ經テ候補名簿調製官ニ出スヘシ
- 拔擢名簿調製官及候補名簿調製官ヲ定ムルコト別表ノ如シ
- 第二條 候補名簿調製官ハ必要ニ從ヒ拔擢名簿調製官其他ヲ會シ拔擢名簿ニ就キ取捨ノ議ニ參與セシメ候補名簿ヲ調製シ拔擢名簿ト共ニ之ヲ海軍大臣ニ進達又ハ移牒スルモノトス
- 但被拔擢者ト同等官以下ノ者ハ此議ニ參與セシメサルモノトス
- 第三條 侍從武官東宮武官ニ在テハ海軍將官タル侍從武官東宮武官ハ拔擢名簿及候補名簿ヲ調製シ共ニ之ヲ海軍大臣ニ移牒スヘシ但該將官缺員等ノ場合ニ在テハ海軍總務長官之ヲ調製スルモノトス

(別表)

艦政本部	教育本部	要港部	鎮守府	常備艦隊	軍令部	候補名簿調製官
艦政本部長	教育本部長	要港部司令官	鎮守府司令官	常備艦隊司令官	軍令部長	候補名簿調製官
本同監廠部 航部委員 長長長長	本所校部 部 長長長長	司司 令 官 令	司廠院團艦部參艦 令 船 謀 司 官長長長長長官	司司艦參司 令 船 謀 令 官長長長長官	次局 長長	被 拔 擢 者 記 事
直委監同部 屬員督官以下 下	直同同部 屬諸員 下	直部 屬諸員 下	直同同部 屬諸員 下	直同部 屬諸員 下	司令官付在任 各艦艦長官 部長直屬諸員 文庫主管	
			廠員ヲ除ク 艦政部長ヲ經由ス	航海長、機關長、軍醫 長、主計長ヲ除ク		

臨時建築部	水路部	海軍省	軍醫學校	主計官練習所	臺灣總督府
臨時海軍建築部長	水路部長	總務局長 軍務局長 人事局長 醫務局長 經理局長	人事局長 醫務局長 經理局長	經理局長	海軍幕僚參謀長
支部 部長	部科 部長	長官	局長	局長	海軍幕僚參謀長
直屬諸員下	直屬諸員下	總務局長、元帥副官 大臣直隸諸員	直屬諸員下	直屬諸員下	總督指揮下
					總督ヲ經由ス

(參照)

海軍省第九十六號海軍上長官任用進級取扱規則(明治三十年九月十七日)抄録

第一條 准士官ヨリ兵曹長同相當官ニ任用スヘキ者及少尉同相當官ヨリ中尉同相當官ニ中尉同相當官ヨリ大尉同相當官ニ進級セシムヘキ者ハ左ノ諸項ニ依リ取扱フヘシ(諸項略ス)

第二條 大尉同相當官ヨリ少佐同相當官ニ少佐同相當官ヨリ中佐同相當官ニ中佐同相當官ヨリ大佐同相當官ニ進級セシムヘキ者ハ左ノ諸項ニ依リ取扱フヘシ(諸項略ス)

第三條 候補名簿ヲ調製スルニ際シ鎮守府司令官若クハ艦隊司令官ハ必要ニ從ヒ其ノ部下ノ大佐相當官以上ヲシテ拔擢名簿取捨ノ職ニ參與セシムルコトヲ得

○海軍省達第九十四號

二等兵曹、三等兵曹及水兵其ノ他之ト同様ノ服制アルモノ、帽徽章ニ記スル名稱ハ自今左ノ通相定メ本達ニ抵觸スル從前ノ達號官房號等ハ總テ之ヲ廢ス

明治三十三年六月七日

海軍大臣山本權兵衛

軍艦、海兵團、水雷團、要港部、港務部、豫備艦部、諸學校、諸練習所ニ在ルモノ、帽徽章ニハ其ノ定員メルト一時練習等ノ爲之ニ在ルモノト問ハス總テ其ノ艦團部校所ノ名稱ヲ記スヘシ  
前記ノ外諸官廩ニ在ルモノ、帽徽章ニハ總テ當該海兵團ノ名稱ヲ記スヘシ

○海軍省達第九十五號

明治三十年達第七十二號中左ノ通改正ス

明治三十三年六月七日

海軍大臣山本權兵衛

- 五 海軍砲術練習所ノ部「横須賀鎮守府司令長官」ノ十字及「教育本部長」ノ下ノ割註ヲ削ル
- 六 海軍水雷術練習所ノ部「横須賀鎮守府司令長官」ノ十字及「教育本部長」ノ下ノ割註ヲ削ル
- 八 海軍機關術練習所ノ部「横須賀鎮守府司令長官」ヲ「教育本部長」ニ改ム

〔參照〕

明治三十年十一月四日海軍省達第七十二號ハ海軍各學校各練習所海兵團及海軍病院ニ於テ卒業證書狀等ヲ授與スルトキ式場列席官ノ件ナリ

○海軍省達第九十六號

海軍少尉候補生實務練習規則中左ノ通改正ス

明治三十三年六月七日

海軍大臣山本權兵衛

第五條中「海軍大臣ニ報告スヘシ」ヲ「海軍教育本部長ニ報告シ海軍教育本部長ハ海軍大臣ニ進達ス」ニ改ム

○海軍省達第九十七號

海軍少機關士候補生實務練習規則中左ノ通改正ス

明治三十三年六月七日

海軍大臣山本權兵衛

第五條中「海軍大臣ニ報告スヘシ」ヲ「海軍教育本部長ニ報告シ海軍教育本部長ハ海軍大臣ニ進達ス」ニ改ム

○海軍省達第九十八號

海軍主計官練習所規則中左ノ通改正ス

明治三十三年六月七日

海軍大臣山本權兵衛

第一條第二條第三條及第八條中「海軍大臣」ヲ「經理局長」ニ改ム  
第八條第二項及第十六條第二項中「所屬艦團」ヲ「前所屬艦團」ニ改メ第十六條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ  
第十六條ノ二 本則第八條第二項及第十六條第二項ニ依リ前所屬艦ニ復歸セシムルニ當リ該艦遠隔ノ地ニ在ルカ或ハ其ノ所在不定ナルトキハ各其ノ在籍鎮守府ノ海兵團ニ復歸セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ當該艦長ニ通知スヘシ

第十六條ノ三 本則第八條第二項第十六條第二項及第十六條ノ二ニ依リ艦團其ノ他各部ニ復歸セシムヘキモノニシテ事故アリ出發セシムルコト能ハサルトキハ一時横須賀海兵團ニ入團セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ各其ノ前所屬艦團其ノ他各部ノ長ニ通知スヘシ

○海軍省達第九十九號

海軍大學校規則中左ノ通改正ス

明治三十三年六月七日

海軍大臣山本權兵衛

第一條及第二條中「海軍大臣」ヲ「海軍教育本部長」ニ改ム

第三條 校長ハ學年ノ終ニ於テ會議ヲ開キ既往學術ノ進歩及將來教科ノ改良ニ就テ考查シ學事報告ヲ作り海軍教育本部長ニ進達スヘシ

第九條中「海軍大臣」ハ「下」教育本部長ヲシテ「加フ

第十條 海軍教育本部長ハ海軍大臣ヨリ學生候補者ノ願書又ハ候補名簿ノ移附ヲ受ケタルトキハ其八名ヲ海軍大學校長ニ通知シ校長ハ試驗問題ヲ祕封シ各所轄長ニ送附ス所轄長ハ試驗ヲ行ヒ其ノ答解書ヲ校長ニ送附ス校長ハ之ヲ調査シ成績表ヲ海軍教育本部長ニ進達シ本部長ハ之ニ意見ヲ附シテ海軍大臣ニ進達スヘシ但シ試驗ハ各地同日ニ行フヘキモノニシテ其ノ日限ハ試驗問題ノ封筒ニ記スルモノトス若シ特別ノ事情ニ依リ其ノ期日ニ於テ試驗ヲ行フ能ハサルトキハ所轄長ハ試驗問題漏洩ノ虞ナキ限ハ其ノ期日ニ係ラス試驗ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ所轄長ハ其ノ事情ヲ海軍大學校長ニ通告スヘシ

第十五條第二項中「海軍大臣」ノ認可ヲ受クヘシ「海軍教育本部長」ノ認可ヲ受クヘシ但シ本部長ハ之ヲ海軍大臣ニ報告スルモノトスニ改ム

○海軍省達第百號

海軍兵學校規則中左ノ通改正ス

明治三十三年六月七日

海軍大臣山本權兵衛

第一條及第二條中「海軍大臣」ヲ「海軍教育本部長」ニ改ム

第三條中「教頭」ノ意見書ヲ添ヘ海軍大臣「海軍教育本部長」ニ改ム

第四條中「海軍大臣」ヲ「海軍教育本部長」ニ改ム

第七條中「海軍大臣」ヲ總テ「海軍教育本部長」ニ改メ更ニ左ノ一項ヲ追加ス

前二項ノ場合ニ於テハ海軍教育本部長ハ速ニ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第十四條第四項ヲ左ノ如ク改ム

前諸項ノ場合ニ於テハ海軍教育本部長ニ報告シ本部長ハ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

第十九條ヲ削除ス

○海軍省達第百一號

海軍機關學校規則中左ノ通改正ス

明治三十三年六月七日

海軍大臣山本權兵衛

第一條及第二條中「海軍大臣」ヲ「海軍教育本部長」ニ改ム

第三條中「教頭」ノ意見書ヲ添ヘ海軍大臣「海軍教育本部長」ニ改ム

第四條中「海軍大臣」ヲ「海軍教育本部長」ニ改ム

第七條中「海軍大臣」ヲ總テ「海軍教育本部長」ニ改メ更ニ左ノ一項ヲ追加ス

前二項ノ場合ニ於テハ海軍教育本部長ハ速ニ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第十四條第四項ヲ左ノ如ク改ム

前諸項ノ場合ニ於テハ海軍教育本部長ニ報告シ本部長ハ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

○海軍省達第二百二號

海軍砲術練習所規則中左ノ通改正ス

明治二十二年六月七日

海軍大臣山本權兵衛

第一條中「海軍大臣」ヲ「海軍教育本部長」ニ改ム

第四條 所長ハ大試験成績表ニ意見ヲ附シ海軍教育本部長ニ進達スヘシ

第五條 所長ハ毎會計年度ノ終ニ於テ教育報告ヲ作り意見ヲ附シ海軍教育本部長ニ進達スヘシ

第七條第二項中「採用期日」ヲ定ムヘシ」ヲ「採用期日」ヲ定メ所轄長ニ通知ス所轄長ハ之ヲ期日以内ニ入所セシム」ニ改ム

第八條第二項中「横須賀鎮守府司令長官」ヲ「海軍教育本部長」ニ「第十七條」ヲ「第二十條」ニ同條第五項中「横須賀鎮守府司令長官」ニ報告シ司令長官ハ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ」ヲ「海軍教育本部長ニ報告スヘシ」ニ改ム

第十四條中「本籍海兵團」ヲ「在籍鎮守府ノ海兵團」ニ「所屬ノ艦團」ヲ「前所屬ノ艦團」ニ改ム

第十五條中「所屬艦團」ヲ「前所屬ノ艦團」ニ改ム

第十六條中「所屬ノ艦團」ヲ「前所屬ノ艦團」ニ「本籍海兵團」ヲ「在籍鎮守府ノ海兵團」ニ改ム

第十七條中「所屬艦」ヲ「前所屬艦」ニ「本籍海兵團」ヲ「在籍鎮守府ノ海兵團」ニ「所屬艦長」ヲ「前所屬艦長」ニ改ム

第十八條中「所屬ノ艦團」ヲ「前所屬ノ艦團」ニ改ム

○海軍省達第二百三號

海軍水雷術練習所規則中左ノ通改正ス

明治三十三年六月七日

海軍大臣山本權兵衛

第一條中「海軍大臣」ヲ「海軍教育本部長」ニ改ム

第四條 所長ハ大試験成績表ニ意見ヲ附シ海軍教育本部長ニ進達スヘシ

第五條 所長ハ毎會計年度ノ終ニ於テ教育報告ヲ作り意見ヲ附シ海軍教育本部長ニ進達スヘシ

第七條第二項中「採用期日」ヲ定ムヘシ」ヲ「採用期日」ヲ定メ所轄長ニ通知ス所轄長ハ之ヲ期日以内ニ入所セシム」ニ改ム

第八條第二項中「横須賀鎮守府司令長官」ヲ「海軍教育本部長」ニ「第十五條」ヲ「第十八條」ニ同條第五項中「横須賀鎮守府司令長官」ニ報告シ司令長官ハ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ」ヲ「海軍教育本部長ニ報告スヘシ」ニ改ム

第十二條中「本籍海兵團」ヲ「在籍鎮守府ノ海兵團」ニ「所屬ノ艦團」ヲ「前所屬ノ艦團」ニ改ム

第十三條中「所屬ノ艦團」ヲ「前所屬ノ艦團」ニ改ム

第十四條中「所屬艦團」ヲ「前所屬ノ艦團」ニ「本籍海兵團」ヲ「在籍鎮守府ノ海兵團」ニ改ム

第十五條中「所屬艦」ヲ「前所屬艦」ニ「本籍海兵團」ヲ「在籍鎮守府ノ海兵團」ニ「所屬艦長」ヲ「前所屬艦長」ニ改ム

第十六條中「所屬ノ艦團」ヲ「前所屬ノ艦團」ニ改ム

○海軍省達第二百四號

海軍機關術練習所規則中左ノ通改正ス

明治三十三年六月七日

海軍大臣山本權兵衛

第一條中「海軍大臣」ヲ「海軍教育本部長」ニ改ム

第四條 所長ハ大試験成績表ニ意見ヲ附シ海軍教育本部長ニ進達スヘシ

第五條 所長ハ毎會計年度ノ終ニ於テ教育報告ヲ作り意見ヲ附シ海軍教育本部長ニ進達スヘシ  
第八條第二項中「横須賀鎮守府司令長官」ヲ「海軍教育本部長」ニ「第十四條」ヲ「第十七條」ニ同條第五項  
中「横須賀鎮守府司令長官」ニ報告シ司令長官ハ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ」ヲ「海軍教育本部長ニ報  
告スヘシ」ニ改ム

第十一條中「本籍海兵團」ヲ「在籍鎮守府ノ海兵團」ニ「所屬艦團」ヲ「前所屬ノ艦團」ニ改ム

第十二條中「所屬艦團」ヲ「前所屬ノ艦團」ニ改ム

第十三條中「所屬艦團」ヲ「前所屬ノ艦團」ニ「本籍海兵團」ヲ「在籍鎮守府ノ海兵團」ニ改ム

第十四條中「所屬艦」ヲ「前所屬艦」ニ「本籍海兵團」ヲ「在籍鎮守府ノ海兵團」ニ「所屬艦長」ヲ「前所屬艦  
長」ニ改ム

第十五條中「所屬艦團」ヲ「前所屬ノ艦團」ニ改ム

○海軍省達第五百五號

明治二十六年達第四百一十一號中「横須賀鎮守府司令長官」ヲ總テ「海軍教育本部長」ニ改メ「他管ニ在  
テハ」ノ六字ヲ削ル

明治三十三年六月七日

海軍大臣山本權兵衛

〔參照〕

明治二十六年十一月二日 海軍省達第四百一十一號ハ練習所教員取扱方ノ件ナリ

○海軍省達第六百六號

明治三十年十一月二日 達第六百七十七號海軍病院規則中左ノ通告正ス

明治三十三年六月九日

海軍大臣山本權兵衛

第一章

第六條中「看護術練習生及」ヲ刪ル

第十一條中「患者ノ所屬長」ヲ「所管長官」ニ改ム

第十一條及第十六條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第十一條ノ二 院長ハ入院患者中轉病スル者アリテ軍醫官服務規則第十八條ノ種別ニ異動ヲ生ス  
ルトキハ速ニ之ヲ患者ノ所屬長ニ通報スヘシ

第十六條ノ二 院長ハ看護術練習所長ノ職務ヲ監督シ練習生ノ學術進歩ニ注意スヘシ

第四章ノ次ニ左ノ一章ヲ加ヘ第五章以下順次繰下ク

第五章 看護術練習所長教官

第一條 看護術練習所長及教官ハ看護術練習所規則ニ依リ服務スヘシ

〔參照〕

海軍省達第七十七號海軍病院規則(明治三十年十二月二十日)抄録

第六條 院長ハ軍醫官及藥劑官中ヨリ教官ヲ指定シ又看護長(看護師)若ハ看護手ニ教員ヲ命ジ看護術練習生及五等看護ノ  
教育ヲ施行セシムヘシ

第十一條 院長ハ入院患者中兵役ニ堪ヘスト認ムル者アルトキハ診斷ヲ行ヒ其ノ診斷證書ヲ患者ノ所屬長ニ移スヘシ

○海軍省達第七百七號

海軍看護術練習所規則左ノ通定ム

明治三十三年六月九日

海軍大臣山本權兵衛

海軍看護術練習所規則

第一條 病院長ハ海軍病院條例及本則ニ基キ職務及服務ニ關スル諸規程ヲ設ケ海軍大臣ノ認可ヲ



經テ之ヲ實施スヘシ

第二條 海軍看護術練習所ノ紀律ハ軍艦ノ例ニ準ス

第三條 病院長ハ所長ヲシテ學期ノ終ニ於テ教官ヲ會同シ看護術教授ノ成績及進歩並ニ練習生ノ技能品行ヲ考查シ之ヲ看護術進歩録ニ記註セシムヘシ

第四條 病院長ハ所長ヲシテ每學期ノ終ニ於テ教育報告ヲ調製セシメ卒業試驗成績表ト共ニ所管長官ニ報告シ長官ハ之ニ意見ヲ附シ海軍大臣ニ進達スヘシ

第五條 看護術練習生ニ採用スヘキ人員ハ甲乙二種ニ區分シ鎮守府毎ニ之ヲ定メ毎年五月及十一月之ヲ告達ス

入所期日ハ毎年二月十五日及八月二十五日トス

第六條 各鎮守府司令長官ハ前條第一項ノ告達ニ基キ麾下艦團其ノ他各部及鎮守府在籍ノ艦船ニシテ常備艦隊編入中ノモノヨリ採用スヘキ人員ヲ定メ之ヲ麾下ニ通達スルト同時ニ常備艦隊司令長官ニ通知シ該長官ハ更ニ之ヲ其ノ麾下中關係ノ艦船ニ通達スヘシ前項ノ通達ヲ受ケタル艦團其ノ他各部ノ長ハ海軍病院條例第二十條及第二十一條ニ適合スル者ヲ選抜シ所見表ヲ添ヘ所管長官ニ具申スヘシ

常備艦隊司令長官ハ前項ノ具申ニ付キ取捨ヲ行ヒ所要ノ人數ヲ選抜シ之ヲ關係各鎮守府司令長官ニ移牒スヘシ

鎮守府司令長官ハ第二項ニ依リ受ケタル具申ニ付キ所要ノ人數ヲ選抜シ之ニ第三項ノ人數ヲ湊合シ採用スヘキ者ヲ決定シ所見表ト共ニ病院長ニ下付スルト同時ニ艦團其ノ他各部ニ告達スヘシ但シ其ノ常備艦隊司令長官ノ麾下ニ屬スル者ハ該長官ヲ經ルモノトス

艦團其ノ他各部ノ長ハ前項ノ告達ニ基キ練習生ヲ命シ期日內ニ入所セシムヘシ

鎮守府司令長官ハ本條第一項ノコトヲ行フニ當リテハ下士卒定員補充交代規則第七條第八條ニ依リ及隸屬ノ系統ニ依リ麾下及常備艦隊外ニ在ル者ヲ精査シ通達ノ普及ヲ計ルヘシ

第七條 病院長ハ乙種看護術練習生卒業者ニシテ海軍病院條例第二十一條ニ適合スルモノアルトキハ其ノ前所屬艦團其ノ他各部ニ復歸セシムル前ニ於テ鎮守府司令長官ノ認可ヲ受ケ引續キ甲種看護術練習生ヲ命スルコトヲ得

第八條 看護術練習生入所シタルトキハ病院長ハ其ノ人員ヲ鎮守府司令長官ニ報告シ長官ハ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

第九條 看護術復習ヲ志願セントスルモノハ裝創證狀有效滿期一箇年以前ニ於テ所屬長ニ出願シ所屬長ハ海軍病院條例第二十三條ニ依リ適當ト認メタルトキハ其ノ所見表ヲ添ヘ病院長ニ通知スヘシ

病院長ハ復習セシムヘキモノ、入所期日ヲ定メ之ヲ所屬長ニ通知シ且其ノ人員ヲ鎮守府司令長官ニ報告シ長官ハ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

第十條 練習生ノ學期ハ毎年二月二十日及ヒ九月一日ニ始マリ七月二十日及翌年二月十日ニ終ル

第十一條 乙種看護術練習生ノ教程ヲ卒業シタルモノニハ之ニ看護術修業證書ヲ授與ス

第十二條 看護術練習生ニシテ傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ卒業ノ目途ナキ者ハ病院長之ヲ免シ其ノ本籍鎮守府ノ海兵團ニ復歸セシメ且之ヲ其ノ前所屬ノ艦團其ノ他各部ノ長ニ通知スヘシ

第十三條 看護術練習生ニシテ練習生タルニ適セスト認メタルトキハ病院長之ヲ免シ其ノ前所屬艦團其ノ他各部ニ復歸セシム

第十四條 看護術練習生卒業ノ上ハ各其ノ前所屬艦團其ノ他各部ニ復歸セシム

第十五條 前二條ニ依リ前所屬艦團其ノ他各部ニ復歸セシムルニ當リ該艦遠隔ノ地ニ在ルカ或ハ

其ノ所在不定ナルトキ若クハ事故アリ出雲セシムルコト能ハサルトキハ其ノ本籍鎮守府ノ海兵團ニ復歸セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ其ノ前所屬ノ艦團共ノ他各部ノ長ニ通知スヘシ

第十六條 看護術練習生ハ海軍病院内ニ起臥セシム

第十七條 甲種看護術練習生ハ復習人員ヲ合シ各鎮守府ヲ通シ二十四人以内トス

第十八條 所見表ノ書式ハ左ノ如シ

甲(乙)種看護術練習生所見表

身 體	所管 官 職	入籍年月日	海 上 勤 務	服 役 年 數	品 行 及 勤 務	性 質 及 事 務	長 官 職	所 屬	見 何
替行奉行狀	氏 名 年 齡		海 上 勤 務	服 役 年 數	品 行 及 勤 務	性 質 及 事 務	長 官 職	所 屬	見 何
乙種看護術練習生卒業年月日	服 役 年 數	服 役 年 數	服 役 年 數	服 役 年 數	服 役 年 數	服 役 年 數	服 役 年 數	服 役 年 數	服 役 年 數
乙種看護術練習生卒業年月日	服 役 年 數	服 役 年 數	服 役 年 數	服 役 年 數	服 役 年 數	服 役 年 數	服 役 年 數	服 役 年 數	服 役 年 數

明治三十三年六月 日

分隊長 官 氏 名 印

右甲(乙)種看護術練習生ニ適用スル者ト認ム

明治三十三年六月 日

所屬長 官 氏 名 印

附 則

第十九條 看護術練習規則(二十九年十月)ニ據リ卒業シタル者ニシテ海軍病院條例第二十一條ニ適合セル者ハ甲種看護術練習生ニ採用スルコトヲ得

第二十條 看護術練習規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス但シ現今練習中ノモノハ卒業ニ至ルマテ該規則ニ依リ練習セシム

○海軍省令第八號

海軍參謀官タルモノハ參謀長參謀ノ職名ヲ帶フルモノ若ハ特ニ命令ニ於テ規定アルモノノ外左ノ如ク改メラル

- 一 海軍軍令部長、次長、局長及局員
- 二 海軍省軍務局第一課長
- 三 各國公使館附海軍將校
- 四 海軍大學校教官ノ中將校三人

明治三十三年六月十二日

海軍大臣 山本權兵衛

○海軍省令第九號

海軍准士官下士卒任用進級試驗規則中左ノ通改ム

明治三十三年六月十三日

海軍大臣 山本權兵衛

第五條中「本籍海兵團」ヲ「在籍鎮守府ニ屬スル海兵團」ニ改ム

第十三條但書中、本人勤務ノ廳長海兵團長ニ於テ互ニ相ヲ所屬長ヨリ本人在籍鎮守府ノ兵事官ニ改ム

〔參照〕

海軍省令第九十三號海軍准士官下士任用進級試験規則(明治二十九年十月十二日)抄録

第五條 委員若クハ補助委員ニ將校若クハ上等兵曹ヲ編入シ離々各廳ニ在テハ其ノ廳勤務ノ下士卒ノ運用、武料及信託ノ試驗ハ各本籍海兵團ニ於テ之ヲ行フ

第十三條 試驗委員長ハ試驗終了ノ後試驗及第者ニ就キ其ノ等級及實務ノ得點(百分率)ニ從ヒ順序ヲ定メ其ノ成績表ヲ副製シ下士及一等卒ノ試験成績表ハ本人ノ屬スル所管長官ニ報告スヘシ但試驗ノ成績ハ本人勤務ノ廳長海兵團長ニ於テ互ニ相通報スヘシ

○海軍省令第百十號

海軍准士官下士任用進級取扱規則中左ノ通改正ス

明治三十三年六月十三日

海軍大臣山本權兵衛

第六條第一項中所屬ノ海兵團長ニ送り團長ヲ兵事官ニ送り兵事官ニ改ム

〔參照〕

海軍省令第七十七號海軍准士官下士任用進級取扱規則(明治二十九年九月十四日)抄録

第六條第一項 鎮守府及艦隊司令長官ハ前條ニ依リ決定シタル任用進級セシムル員數以內ニ於テ決定候補名簿ノ順序ニ從ヒ現時所屬ノ如何ニ拘ハラズ任用進級セシムル此場合ニ於テ現時ノ所在不明ナル者ハ其ノ辭令書ヲ在籍鎮守府所屬ノ海兵團長ニ送り團長之ヲ送進スルモノトス

○海軍省令第百十一號

海軍卒進級條例中左ノ通改正ス

明治三十三年六月十三日

海軍大臣山本權兵衛

第十三條第一項及第十五條中「本籍ノ海兵團長ニ通知シ該長ヲ在籍鎮守府ノ兵事官ニ通知シ兵事官ニ改ム」

第十八條中「之ヲ本籍ノ之ヲ在籍鎮守府ニ屬スル」ニ改ム

〔參照〕

海軍省令第七十八號海軍卒進級條例(明治二十九年九月十四日)抄録

第十三條 艦隊其ノ他各部ノ長ハ前條ノ各條ノ員數以內ニ於テ候補名簿ノ順序ニ從ヒ現時所屬ノ如何ニ拘ラス進級セシム此場合ニ於テ現時ノ所在不明ナル者ハ之ヲ本籍ノ海兵團長ニ通知シ該長其ノ旨ヲ移進スルモノトス

第十五條 候補名簿編製ノ後進級セシムヘカラサル事由ヲ生シタル者ハ之ヲ除クヘシ若シ他ノ艦隊其ノ他各部ノ長ノ候補名簿ニ屬スル者ナルトキハ之ヲ其ノ長ニ通知スヘシ但現時ノ所屬不明ナルトキハ之ヲ本籍ノ海兵團長ニ通知シ該長其ノ旨ヲ所屬長ニ移進スルモノトス

第十八條 艦隊其ノ他各部ノ長ハ第十六條及第十七條ニ該當スヘシト認ムル者アルトキハ入團ニ際シ意見ヲ附シ之ヲ本籍ノ海兵團長ニ移進スル旨ヲ附シ其ノ部下ニ在リシ者ハ自己ノ意見ヲ具シ鎮守府司令長官ノ認可ヲ得進級ヲ行フ

○海軍省令第百十二號

戰時海軍死亡者取扱規則中左ノ通改正ス

明治三十三年六月十三日

海軍大臣山本權兵衛

第五條第一項ヲ左ノ通改ム

所屬長ハ部下准士官以上及候補生死亡シタルトキハ海軍大臣ニ下士卒死亡シタルトキハ本人在籍鎮守府ニ報告シ鎮守府ハ之ヲ人事局長ニ通知スヘシ

同第二項中「軍務局長ヲ人事局長」ニ改ム

〔參照〕

海軍省令第四十六號戰時海軍死亡者取扱規則(明治二十八年五月二十四日)抄録

第五條 所屬長若クハ前任士官ハ部下士官以上及候補生死亡シタルトキハ海軍大臣ニ下士卒死亡シタルトキハ軍務局長ニ下士卒死亡シタルトキハ本籍海兵團長ニ報告シ海兵團長ハ之ヲ軍務局長ニ報告スヘシ

軍艦及其他ノモノ死亡セシトキ其高等官及之ニ準スルモノハ海軍大臣ニ其他ノモノハ都テ軍務局長ニ報告スヘシ但鎮守府所屬ニ係ルモノハ本人所屬鎮守府ニ報告シ鎮守府ハ海軍大臣ニ報告シ若クハ軍務局長ニ通知スヘシ  
前二項ノ報告ヲナスト同時ニ其遺族ニ通知スヘシ

○海軍省達第百十三號

軍港要港ニ於テハ鎮守府司令長官若ハ要港部司令官ノ部下ニ屬セサル學校練習所又ハ其ノ他ノ官廳ト雖一般整一ヲ要スル紀律儀制ニ關スル事ハ當該鎮守府司令長官若ハ要港部司令官ノ區處ヲ受ケシム  
明治三十三年六月十六日  
海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第百十四號

雜役船舟ノ本籍ヲ定ムル左ノ如シ  
明治三十三年六月十六日  
海軍大臣山本權兵衛

鎮守府司令長官ノ部下ニ在ル各團隊官  
本籍 當該鎮守府

衛等ノ付屬船舟

海軍大學校ノ付屬船舟

海軍機關學校ノ付屬船舟

海軍砲術練習所ノ付屬船舟

海軍水雷術練習所ノ付屬船舟

海軍機關術練習所ノ付屬船舟

海軍主計官練習所ノ付屬船舟

水路部ノ付屬船舟ノ内北海道沿岸ニ使

用スルモノ

海軍兵學校ノ付屬船舟

舞鶴水雷團ノ付屬船舟(舞鶴鎮守府 開港マテ)

本籍 吳鎮守府

本籍 橫須賀鎮守府

竹敷要港部ノ付屬船舟

水路部ノ付屬船舟ノ内沖繩臺灣及韓國

沿岸ニ使用スルモノ

本籍 佐世保鎮守府

○海軍省達第百十五號

軍法會議書類保存規程左ノ通相定ム

明治三十三年六月十八日

海軍大臣山本權兵衛

軍法會議書類保存規程

第一條 檢察書類審問書類ハ其ノ處分ヲ中止シ又ハ處分ヲ終リタル日ヨリ左ノ年月間之ヲ保存スヘシ

一 違警罪事件ニ付テハ六月

二 輕罪事件ニ付テハ三年

三 重罪事件ニ付テハ十年

前項ノ期間滿了前檢察又ハ審問處分ヲ再興シタルトキハ前項ノ期間ハ更ニ其ノ處分ヲ中止シ又

ハ處分ヲ終リタル日ヨリ之ヲ起算ス

第二條 判決書類ハ判決宣告ノ日ヨリ左ノ年間之ヲ保存スヘシ

一 違警罪事件ニ付テハ一年

二 輕罪事件ニ付テハ七年

三 重罪事件ニ付テハ二十年

四 死刑無期刑ニ處シタル事件ニ付テハ二十五年

缺席判決書類ニ付テハ刑ノ時効成就ノ日ヲ以テ保存期間ノ滿了トス

第三條 刑ノ執行ヲ遁レタル者ニシテ前條ノ期間滿了前ニ逮捕セラレタルトキハ前條ノ期間ハ其

ノ逮捕ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第四條 前三條ノ場合ニ於テ保存期間ヲ異ニスル數事件ノ併合シタル書類ニ付テハ其ノ期間ノ長キモノニ從フ

第五條 左ニ記載シタル書類簿冊ハ永久之ヲ保存スヘシ

一 判決書、言渡書、命令書其ノ他裁判ノ原本

二 恩赦、減刑、復權其ノ他刑ノ執行ニ關スル書類簿冊

三 檢察簿、審問簿、判決簿、其ノ他訴訟事件ノ顛末ヲ記載シタル簿冊

四 判決便覽

五 諸表

六 第七條第二項ニヨリ調製スル目錄

第六條 前數條ニ記載シタル以外ノ書類簿冊ハ最終ノ綴込又ハ記入ヲ爲シタル日ヨリ三年間之ヲ保存スヘシ

第七條 保存期間ヲ經過シタル書類簿冊ハ高等軍法會議ニ在テハ司法局長、常設軍法會議ニ在テハ上席主理、艦隊軍法會議ニ在テハ艦隊副官之ヲ審査シ適宜處分スヘシ

前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ目錄ヲ調製シ處分ノ顛末ヲ明ニシ置クヘシ

○海軍省第百十六號

軍事費機動費取扱規程第七條ニ左ノ二項ヲ加フ

明治三十三年六月十八日

海軍大臣山本權兵衛

艦隊主計長ハ常備艦隊主計長ト同一ノ地ニ在ルトキハ前項ノ當該艦隊經費ノ委任仕拂命令官ニ對スル經費要求書ハ第三條ノ機動費要求書ト共ニ之ヲ常備艦隊主計長ニ提出スヘシ  
常備艦隊主計長ハ前項ノ要求書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ當該委任仕拂命令官ニ送附シ機動費ノ補填ニ機宜ヲ失スルコト勿ラシムヘシ

○海軍省第百十七號

留學生監督服務規則左ノ通定ム

明治三十三年六月十九日

海軍大臣山本權兵衛

留學生監督服務規則

第一條 留學生監督ハ留學生ノ品行勸情ヲ監視シ其ノ學術研究及身上ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス

第二條 留學生監督ハ六箇月毎ニ留學生ノ品行勸情及學術研究ニ關スル詳細ナル報告書ヲ調製シ其ノ所屬ニ從ヒ教育本部長、艦政本部長、醫務局長若ハ經理局長ニ進達スヘシ

第三條 留學生監督ハ留學生中傷疾疾病ニ罹リ若ハ怠惰放逸ニシテ修業ノ目的ヲ達スルコト能ハサル者ト認メタルモノアルトキハ其ノ現症豫後若ハ品行等ヲ詳記シ意見ヲ附シ第二條ニ準シ本部長若ハ局長ニ具申スヘシ

第四條 留學生ノ願伺、届、報告等一切ノ書類ハ之ヲ留學生監督ニ出サシメ監督ハ精査ノ上意見ヲ附シ前條ニ準シ進達スヘシ

第五條 留學生トハ學術研究ノ爲外國ニ留學ヲ命シタル海軍軍人及生徒ヲ謂フ

○海軍省第百十八號

明治二十二年達第二十一號ヲ廢ス

明治三十三年六月十九日

海軍大臣山本權兵衛

〔参照〕

明治二十二年二月海軍省第百二十一號ハ外國留學生取締規則ナリ

○海軍省第百十九號

海軍各學生生徒及練習生ニ授與スル證書及證狀書式左ノ通改ム

但用紙ハ従前ノ通

明治三十三年六月二十日

海軍大臣山本權兵衛

第一號書式

第 號  
卒業證書  
海軍大學校(將校科甲(乙)種)  
(機關科長(短)期)學生  
官 氏 名  
海軍大學校(將校科甲種(乙)種(航海術)(砲術)(水雷術)  
專科)(機關科長(短)期)教程卒業ヲ證ス  
年 月 日  
海軍大學校長官位勳功爵氏名 [印]

第二號書式

第 號  
卒業證書  
海軍兵學校(海軍機關學校)生徒  
氏 名  
海軍兵學校(海軍機關學校)教程卒業ヲ證ス  
年 月 日  
海軍兵學校(海軍機關學校)長官位勳功爵氏名 [印]

第三號書式

第 號  
及第證書  
海軍兵學校(海軍機關學校)生徒  
氏 名  
海軍兵學校(海軍機關學校)第何學年大試驗及第ヲ證ス  
年 月 日  
海軍兵學校(海軍機關學校)長官位勳功爵氏名 [印]

第四號書式

第 號  
修業證書  
官 氏 名  
海軍砲(水雷)術練習所ニ於テ砲(水雷)術修業ヲ證ス  
年 月 日  
海軍砲(水雷)術練習所長官位勳功爵氏名 [印]

第五號書式

第 號  
卒業證書  
海軍水雷術練習所學生(商船學  
校學生)  
官 氏 名  
海軍水雷術練習所學生(海軍砲術練習所商船學校學生)  
教程卒業ヲ證ス  
年 月 日  
海軍水雷(砲)術練習所長官位勳功爵氏名 [印]

第六號書式

第 號  
適任證書  
官(職)氏 名  
砲術(水雷術)(機關術)教員ニ適任ナルヲ證ス  
年 月 日  
海軍砲術練習所  
海軍砲術練習所  
長官位勳功爵氏名 [印]

第七號書式

第 號  
學砲(學水雷)(水雷工)證書  
何等  
官(職)氏 名  
海軍砲(水雷)術練習所練習生何教程(水雷工教程)卒業  
ヲ證ス  
年 月 日  
海軍砲(水雷)術練習所長官位勳功爵氏名 [印]

第八號書式

第 號  
適任證書  
何等  
官(職)氏 名  
信誠ニ適任ナルヲ證ス  
年 月 日  
某海軍團長官位勳功爵氏名 [印]

第九號書式

第 號  
適任證書  
官(職)氏 名  
軍樂教員ニ適任ナルヲ證ス  
年月日  
横須賀海兵團長官位勳功爵氏名 [印]

第十一號書式

第 號  
卒業證書  
官 氏 名  
海軍機關術練習所機關(船匠)術教程卒業ヲ證ス  
年月日  
海軍機關術練習所長官位勳功爵氏名 [印]

第十號書式

第 號  
卒業證書  
官(職)氏 名  
海軍軍樂高等(普通)科練習生卒業ヲ證ス  
年月日  
横須賀海兵團長官位勳功爵氏名 [印]

第十二號書式

第 號  
機關工(船匠工)(兵器工)證狀 何等  
官(職)氏 名  
海軍機關術練習所機關工(船匠工)(兵器工)教程卒業ヲ證ス  
年月日  
海軍機關術練習所長官位勳功爵氏名 [印]

第十三號書式

第 號  
卒業證書  
海軍軍醫學校學生  
官 氏 名  
海軍軍醫學校軍醫官(少軍醫候補生)學生教程卒業ヲ證ス  
年月日  
海軍軍醫學校長官位勳功爵氏名 [印]

第十四號書式

第 號  
裝創證狀 何等  
官(職)氏 名  
看護術練習所甲種練習生教程卒業ヲ證ス  
年月日  
某海軍病院看護術練習所長官位勳功爵氏名 [印]

第十五號書式

第 號  
修業證書  
官(職)氏 名  
看護術練習所乙種練習生教程修業ヲ證ス  
年月日  
某海軍病院看護術練習所長官位勳功爵氏名 [印]

第十六號書式

第 號  
卒業證書  
海軍主計官練習所學生  
官 氏 名  
海軍主計官練習所主計官(少主計候補生)學生教程卒業ヲ證ス  
年月日  
海軍主計官練習所長官位勳功爵氏名 [印]

第十七號書式

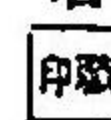
第 號

修業證書

官 氏 名

海軍主計官練習所練習生教程修業ヲ證ス

年 月 日

海軍主計官練習所長官位勳功爵氏名 

第十八號書式

第 號


卒業證書 何等(甲)(乙)

海軍造船工練習所職工

氏 名

海軍造船工練習所造船科(造機科)教程卒業ヲ證ス

年 月 日

海軍造船工練習所長官位勳功爵氏名 

○海軍省達第百二十號

海軍武官考課表規則中第八條以下ヲ左ノ通改正ス

明治三十三年六月二十二日

海軍大臣山本權兵衛

第八條 別表第一號ノ記註ハ左項ニ依ル

- 一 考課表中學術以下ノ欄内ニハ調製官自ラ記註シ上官ノ所見欄内ニハ上官自ラ記註スヘシ
- 二 初行欄内ニハ明治何年何月考課表ト記ス其年月ハ第四條ニ依ル但臨時ノ考課表ハ其調製時ノ年月ニ依ル
- 三 年齢ハ前項ノ年月ニ於ケルモノヲ記載スヘシ
- 四 出身欄内ニハ初テ兵籍ニ入りシ時ノ年月日及官職名等ヲ記載スヘシ

- 五 實役停年及海上勤務欄内ニハ准士官以上ニ在テハ六月三十日下士ニ在テハ三月一日調査ニ係ル年月日ヲ記載スヘシ但臨時ノ考課表ニ在テハ其調査ノ日ニ依ル
  - 六 戰役欄内ニハ出身前後ヲ問ハス某役ニ何官職ニテ從軍ノコトヲ記載スヘシ
  - 七 賞及罰欄内ニハ出身以後ノモノヲ記載スヘシ
  - 八 學術欄内ニハ其長スル所ノモノヲ記載スヘシ
  - 九 技能欄内ニハ部下ヲ統御スル法アリ運轉ノ術ニ妙ヲ得操砲ニ熟練ナリ某ノ事ニ巧ナリ衛生ノ注意周到ナリ糧食ノ調辨快速ナリ等ノコトヲ記載スヘシ
  - 十 性質欄内ニハ勇壯、剛毅、溫厚、篤實、慎密、活潑、沈著、磊落、伶俐、勇決、廉潔、輕躁、緩慢、執拗、傲慢等ノコトヲ記載スヘシ
  - 十一 品行及勸懲欄内ニハ三等ニ区分シ甲、乙若クハ丙ト記載スヘシ
  - 十二 調製官ノ所見欄内ニハ必要ト認ムル事項ヲ記載シ署名捺印スヘシ
  - 十三 上官ノ所見欄内ニハ考課表ヲ歴視スル諸官各其必要ト認ムル事項ヲ記載シ署名捺印スヘシ
- 第九條 所管長官共麾下ヲ離レタル下士アルトキハ其考課表ハ直ニ新所管長官ニ移牒スルモノトス

(別表第一號)

職官爵氏名	現官ニ任シタル
出身	年月日



見ノ所	上ノ所	所見ノ	調製ノ	性	技	學	體	資	職	實
				質	能	術			役	役
				勤	品	體				海上勤務
				怠	行	格				

(別表第二號)

海軍	所屬	被考課官	考課表調製官	被考課官	考課表調製官	被考課官	考課表調製官
人事局長	人事局長	人事局長	人事局長	人事局長	人事局長	人事局長	人事局長
軍務局長	軍務局長	軍務局長	軍務局長	軍務局長	軍務局長	軍務局長	軍務局長
總務局長	總務局長	總務局長	總務局長	總務局長	總務局長	總務局長	總務局長
臨時建築部長	臨時建築部長	臨時建築部長	臨時建築部長	臨時建築部長	臨時建築部長	臨時建築部長	臨時建築部長
艦政本部長	艦政本部長	艦政本部長	艦政本部長	艦政本部長	艦政本部長	艦政本部長	艦政本部長
教育本部長	教育本部長	教育本部長	教育本部長	教育本部長	教育本部長	教育本部長	教育本部長
軍令部長	軍令部長	軍令部長	軍令部長	軍令部長	軍令部長	軍令部長	軍令部長
水路部長	水路部長	水路部長	水路部長	水路部長	水路部長	水路部長	水路部長
東京造兵廠長	東京造兵廠長	東京造兵廠長	東京造兵廠長	東京造兵廠長	東京造兵廠長	東京造兵廠長	東京造兵廠長
吳造兵廠長	吳造兵廠長	吳造兵廠長	吳造兵廠長	吳造兵廠長	吳造兵廠長	吳造兵廠長	吳造兵廠長
大學校長	大學校長	大學校長	大學校長	大學校長	大學校長	大學校長	大學校長
兵學校校長	兵學校校長	兵學校校長	兵學校校長	兵學校校長	兵學校校長	兵學校校長	兵學校校長
機關學校校長	機關學校校長	機關學校校長	機關學校校長	機關學校校長	機關學校校長	機關學校校長	機關學校校長
砲術練習所長	砲術練習所長	砲術練習所長	砲術練習所長	砲術練習所長	砲術練習所長	砲術練習所長	砲術練習所長
水雷術練習所長	水雷術練習所長	水雷術練習所長	水雷術練習所長	水雷術練習所長	水雷術練習所長	水雷術練習所長	水雷術練習所長
機關術練習所長	機關術練習所長	機關術練習所長	機關術練習所長	機關術練習所長	機關術練習所長	機關術練習所長	機關術練習所長

省	醫務局	經理局	臨時建築部	艦政本部	教育本部	軍令部	水路部	東京造兵廠	吳造兵廠	大學	兵學校	機關學校	砲術練習所	水雷術練習所	機關術練習所
課	課	課	支部	部	部	部	部	廠	廠	校	校	校	校	所	所
長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長
醫務局長	經理局長	臨時建築部長	艦政本部長	教育本部長	軍令部次長	總務長官	艦政本部長	吳鎮守府長	艦政本部長	上長官士官	上長官士官	上長官士官	上長官士官	上長官士官	上長官士官
上長官士官	上長官士官	上長官士官	上長官士官	上長官士官	上長官士官	上長官士官	上長官士官	上長官士官	上長官士官	上長官士官	上長官士官	上長官士官	上長官士官	上長官士官	上長官士官
課長	課長	支部長	部長	部長	部長	部長	部長	部長	部長	校長	校長	校長	校長	所長	所長
下士	下士	下士	准士官	准士官	准士官	准士官	准士官	准士官	准士官	准士官	准士官	准士官	准士官	准士官	准士官
			局長中ヨリ局長之ヲ指定ス	局長中ヨリ局長之ヲ指定ス	局長中ヨリ局長之ヲ指定ス	局長中ヨリ局長之ヲ指定ス	局長中ヨリ局長之ヲ指定ス	局長中ヨリ局長之ヲ指定ス	局長中ヨリ局長之ヲ指定ス	局長中ヨリ局長之ヲ指定ス	局長中ヨリ局長之ヲ指定ス	局長中ヨリ局長之ヲ指定ス	局長中ヨリ局長之ヲ指定ス	局長中ヨリ局長之ヲ指定ス	局長中ヨリ局長之ヲ指定ス



- 備
- 三 全定員若ハ半定員ヲ置クトコロノ豫備艦職員ノ考課表ハ在役艦ニ準ス但其艦長(艦長ナキトキ副長)ノ考課表ハ豫備艦部長之ヲ調製スヘシ留守定員ヲ置クトコロノ豫備艦職員中上長官士官ノ考課表ハ首府將校之ヲ調製シ准士官下士ノ考課表ハ在役艦ニ準ス但シ學校練習所海兵團ニ屬スルモノニ在テハ上長官士官ノ考課表ハ各其所屬將校所屬艦長之ヲ調製スヘシ
  - 四 造船兵監督官造船兵監督會計官ノ考課表ハ監督長(監督長ナキトキ艦政本部長)之ヲ調製シ監督助手タル准士官下士ノ考課表ハ其先任監督官之ヲ調製スヘシ
  - 五 同航委員長ノ考課表ハ艦政本部長之ヲ調製シ同航委員以下ノ考課表ハ艦船職員ニ準シ調製スヘシ
  - 六 外國留學生駐在員ノ考課表ハ左ノ區別ニ依リ調製スヘシ但准士官ニ在テモ之ニ準ス
    - 將校及機關官
    - 軍醫官藥劑官
    - 主計官
    - 艦政本部長
    - 醫務局長
    - 經理局長
    - 其他
  - 七 公使館附將校及軍令部出仕ノ考課表ハ軍令部次長之ヲ調製スヘシ
  - 八 臺灣總督ノ指揮下ニ在ル艦船隊長及總督府海軍上長官士官ノ考課表ハ海軍參謀長、海軍幕僚附下士ノ考課表ハ海軍參謀長ノ指定スル稱俵之ヲ調製シ其他ハ艦船並水雷砲職員ニ準シ調製スヘシ但シ艦船隊ニ屬スル准士官以上ノ考課表ハ海軍參謀長ニ出スヘシ
  - 九 本表ニ掲ケサル部隊等ノ長ノ考課表ハ直屬長官之ヲ調製シ上長官士官ノ考課表ハ其長之ヲ調製シ准士官下士ノ考課表ハ其長ノ指定スル上長官士官之ヲ調製スヘシ但シ直屬長官海軍大臣ナルトキハ總務長官之ヲ調製ス
  - 十 本表ニ掲ケタル調製官缺員等ノ場合ニ於テ其代理者ナキトキ所定調製官ノ調製スヘキ考課表ハ其直屬長官之ヲ調製ス被考課官所定調製官ノ代理ヲナストキ其考課表モ亦タ同シ但シ直屬長官海軍大臣ナルトキハ總務長官之ヲ調製ス
  - 十一 元帥副官ノ考課表ハ海軍總務長官之ヲ調製スヘシ
  - 十二 儀裝委員ノ考課表ハ其所屬鎮守府ノ艦政部長之ヲ調製スヘシ
  - 十三 考課表調製官被考課官ヨリ後任ナルトキハ其考課表ハ本表ニ依ラス直屬長官之ヲ調製スルモノトス但シ將校ハ同官等ノ相當官ノ考課表ヲ調製スルコトヲ得

〔參照〕

海軍省達第二十六號海軍武官考課表規則(明治二十九年四月二日)抄錄

第八條 考課表中各官ノ所見欄内ニハ其ノ官自ラ記註ヲ爲シ他人ヲシテ之ヲ爲サシムヘカラス

第九條 司令長官其ノ麾下ヲ離レタル下士アルトキハ其ノ考課表ハ直ニ新所管長官ニ移牒スルモノトス

○海軍省達第百二十一號

海軍大臣ニ於テ軍艦及水雷艇ノ類別及等級ヲ定メ若ハ其ノ變更ヲ行フコトヲ得セシメラル、ノ件ヲ廢セラレ更ニ艦艇類別標準別表ノ通定メラル

(別表)

海軍大臣山本權兵衛

艦艇類別標準

艦	軍		類別	等級	計畫排水量
	砲艦	海防艦			
巡洋艦	一	一	一	等	一萬噸以上
		二	二	等	七千噸以上
		三	三	等	三千五百噸未滿
	二	一	一	等	七千噸以上
		二	二	等	七千噸未滿三千五百噸以上
		三	三	等	三千五百噸未滿
海防艦	一	一	等	七千噸未滿三千五百噸以上	
	二	二	等	三千五百噸未滿	
砲艦	一	一	等	千噸以上	
	二	二	等	千噸未滿	

考備	艇 雷 水				驅逐艦	水雷母艦	通報艦
	四等	三等	二等	一等			
海軍大臣ハ本表ニ依リ軍艦及水雷艇ノ類別並等級ヲ定メ若ハ變更ス	等	等	等	等			
	二十噸未満	七十噸未満二十噸以上	百二十噸未満七十噸以上	百二十噸以上			

○海軍省達第百二十二號

軍艦及水雷艇類別等級別表ノ通改

明治三十三年六月二十二日

海軍大臣山本權兵衛

(別表)

軍	類別	等級	艦 名、艇 名、番 號	
			一 等	二 等
巡洋艦	驅逐艦	一等	官 士、八 島、敷 島、朝 日、初 濤、三 笠	扶 桑、鎮 遠
		二等	浪 間、常 磐、八 雲、吾 妻、碧 手、由 良	高 砂、笠 置、千 歲
海防艦	砲 艦	一等	筑 波、金 剛、比 叡、濟 遠、海 門、天 龍	葛 城、大 和、武 藏、高 雄
		二等	統 統、紫 平、遠	
		三等	和 泉、千 代 田、秋 津 洲、須 磨 明 石	

水	艦					
	驅逐艦	水雷母艦	通報艦	砲 艦	海防艦	
二等	一等		二等	一等	三等	二等
第三十八號、第三十九號、第四十號、第四十一號、第四十二號、第四十三號	千 島	豐 橋	八 重 山、龍 田、宮 古、千 早	赤 城、大 島	鎮 北、鎮 中、鎮 邊、摩 耶、島 海、愛 宕	操 江、天 城、磐 城、鎮 東、鎮 西、鎮 南
第二十一號、第二十四號、第二十五號、第二十九號、第三十號、第三十一號、第三十二號、第三十三號、第三十四號、第三十五號、第三十六號、第三十七號	小 鷹、福 龍、隼、白 鷹、鷗、真 鶴	東 雲、叢 雲、夕 霧、不知 火、陽 炎、海 雲				

考 備	艇	
	雷	三
軍艦ヲ稱呼スルニハ其ノ類別ノ何タルヲ問ハス「軍艦何」ヲ以テス但シ場合ニ依リ類別稱若ハ類別及等級稱ヲ以テスルコトアリ「艦艦何」「海防艦何」「何等巡洋艦何」等ノ如シ 水雷艇ヲ稱呼スルコト左ノ如シ 一等水雷艇ハ「水雷艇何」ト稱シ場合ニ依リ「一等水雷艇何」ト稱スルコトアリ 二等以下ノ水雷艇ハ「第何號水雷艇」ト稱シ場合ニ依リ「水雷艇第何號」若ハ「何等水雷艇第何號」ト稱スルコトアリ	第四十四號、第四十五號、第四十六號、第四十七號、第四十八號、第四十九號、第六十號、第六十一號、第六十二號、第六十三號、第六十四號、第六十五號、第六十六號、	第五號、第六號、第七號、第八號、第九號、第十號、第十一號、第十二號、第十三號、第十四號、第十五號、第十七號、第十八號、第十九號、第二十號、第二十六號、第二十七號、第五十號、第五十一號、第五十二號、第五十三號、第五十四號、第五十五號、第五十六號、第五十七號、第五十八號、第五十九號、
	第二十八號、艦船ニ搭載セルモノ	

○海軍省達第百二十三號

驅逐隊司令ノ乘リタル驅逐艦ニハ司令旒ヲ掲ケシメラル

明治三十三年六月二十二日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第百二十四號

驅逐艦ニ司令旒ヲ掲クルニハ海軍旗章條例ノ規程ヲ準用スル儀ト心得ヘシ

明治三十三年六月二十二日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第百二十五號

驅逐艦ニ於テハ禮砲ヲ施行セサル儀ト心得ヘシ

明治三十三年六月二十二日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第百二十六號

海軍軍樂練習生規則中左ノ通改正ス

明治三十三年六月二十五日

海軍大臣山本權兵衛

第十二條ノ二 卒業試験ノ成績ハ團長之ニ意見ヲ附シテ横須賀鎮守府司令長官ニ報告シ横須賀鎮守府司令長官ハ之ヲ海軍教育本部長ニ移牒スヘシ

○海軍省達第百二十七號

信號練習生規則中左ノ通改正ス

明治三十三年六月二十五日

海軍大臣山本權兵衛

第十二條ノ二 卒業試験ノ成績ハ團長之ニ意見ヲ附シテ鎮守府司令長官ニ報告シ鎮守府司令長官ハ之ヲ海軍教育本部長ニ移牒スヘシ

○海軍省達第百二十八號

五等卒教育規則及五等卒教育要旨中左ノ通改正ス

明治三十三年六月二十五日

海軍大臣山本權兵衛

第三條 海兵團長及病院長ハ本則及教育要旨ニ基キ五等卒教育ニ關スル細則及教程ヲ定メ鎮守府司令長官ノ認可ヲ經テ之ヲ實施スヘシ但シ鎮守府司令長官ハ之ヲ認可スルニ先チ海軍教育本部長ニ合議スルヲ要ス

海兵團長及病院長ハ五等卒教育主任ヲ定メ細則及教程實施ノ責ニ任セシムヘシ

第五條 卒業試験ノ成績ハ海兵團長若クハ病院長之ニ意見ヲ附シテ鎮守府司令長官ニ報告シ鎮守府司令長官ハ之ヲ海軍教育本部長ニ移牒スヘシ

卒業試験ノ成績ハ之ヲ履歷ニ記入スヘシ

〔參照〕

海軍省達第四百十九號五等卒教育規則及五等卒教育要旨(明治三十二年七月二十八日)抄録

第三條 海兵團長及病院長ハ本則及教育要旨ニ基キ五等卒教育ニ關スル細則及教程ヲ定メ鎮守府司令長官ニ進達ス鎮守府司令長官ハ海軍大臣ノ認可ヲ經テ海兵團長及病院長ヲシテ五等卒教育主任ヲ定メ實施ノ責ニ任セシムヘシ

第五條 卒業試験ノ成績ハ之ヲ鎮守府司令長官ニ報告シ鎮守府司令長官ハ意見ヲ附シ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

卒業試験ノ成績ハ之ヲ履歷ニ記入スヘシ

○海軍省達第二百二十九號

軍事郵便規則第三條第二號中「二」ヲ「四」ニ改メラル

明治三十三年六月二十八日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第三百二十號

氣象觀測通報規程中左ノ通改正ス

明治三十三年六月二十八日

海軍大臣山本權兵衛

第九條 艦船航海中ハ毎日第一條ニ掲クル時刻ニ於テ氣象ノ觀測ヲ行ヒ海上氣象通報ヲ製シ毎月一日ニ於テ前月分ヲ取纏メ之ヲ水路部ニ送致スヘシ水路部ニ於テハ之ヲ中央氣象臺ニ轉送ス其ノ通報ハ別紙様式ニ依ル

〔參照〕

海軍省達第七十三號氣象觀測通報規程(明治三十年六月二十四日)抄録

第九條 艦船航海中ハ毎日第一條ニ掲クル時刻ニ於テ氣象ノ觀測ヲ行ヒ海上氣象通報ヲ製シ都度之ヲ中央氣象臺ニ送致スヘシ其ノ通報ハ別紙様式ニ依ル

○海軍省達第三百二十一號

雇員備人規則中左ノ通改正ス

明治三十三年六月三十日

海軍大臣山本權兵衛

第一條第二項中「艦團部隊ニ於テハ」ヲ「艦團隊ニ於テハ柔道教員」ニ改ム

第三條左表中中割烹ノ欄別表ニ依ルヲ 艦團隊及要港部ニ於テ使役スル定員ハ別表ニ依ルニ改ム

同表中從僕ノ欄同ヲ 鎮守府司令長官砲術練習所水雷術練習所ニ依ルニ改ム

同表中中割夫ノ欄同ヲ 砲術練習所水雷術練習所機關術練習所ニ依ルニ改ム

同表中給仕ノ欄「艦團部隊及砲術練習所並水雷術練習所ニ於テ使役スル定員ハ別表ニ依ル」ヲ「艦團隊及砲術練習所及水雷術練習所」ニ改ム

第四條第一號中「及別表ニ依リ使役スル給仕」ヲ「及砲術練習所水雷術練習所並別表ニ依リ使役スル給仕」ニ改ム

別表中艦隊司令官旗艦ノ次ニ左ノ一欄ヲ加ヘ鎮守府司令長官鎮守府司令官兵學校機關學校砲術練習所水雷術練習所機關術練習所各欄ヲ削除シ要港部ノ欄給仕「四」ヲ「七」ニ割夫「二」ヲ「三」ニ改ム

驅逐隊司令乘艦	一	柔道教員	一	從	一	僕	一	給	一	仕	一	割	一	夫	一	割	一	烹	一
	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○

〔參照〕

海軍省達第五十二號雇員備人規則(明治三十年五月十八日)抄録

第一條第二項

艦團部隊ニ於テハ割烹從僕割夫給仕ノ外使役スルコトヲ得ス

○陸達第七十二號

臺灣島及澎湖島駐節陸軍部隊給與規則細則中左ノ通改正ス

明治三十三年七月二日

陸軍大臣子爵桂 太郎

第十五條中第七條第一項ヲ第九條ニ改ム

第二十三條第一項中第十一條第二項ヲ第十四條第三項ニ改ム

第三十條第一項中第十一表ヲ第十四表ニ改ム

第三十二條中第十條乃至第十四條ヲ第九條第十條及第十二條乃至第十四條ニ改ム

第三十五條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ公務ノ爲メ傳染病ニ感染シ手當金ヲ受クル者ノ藥餌ハ官給スルノ限ニアラス

第三十七條中備員以下給料支給規則ヲ雇員備員給料支給規則ニ改ム

附表第六表備考第二項中乘馬ヲ削リ拍車ノ下ニ及紺木綿脚絆ヲ加フ

○陸達第七十三號

明治二十七年陸達第九十三號陸軍戰時給與規則細則中左ノ通改正ス

明治三十三年七月五日

陸軍大臣子爵桂 太郎

第一條中其區別左ノ如シ及第一號第二號ヲ削リ第三號ヲ第二項トシ其ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

士官ノ階級ニアラスシテ士官ノ勤務ニ服スル者ノ給料ハ特務曹長ノ俸給額ニ依ル

第三條第三項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ一旦歸著シ更ニ第七條第一項本文及第二項ノ手當ヲ受クル場合ニ在テハ全月分ヲ給ス

同條第四項中士官以上ヲ上長官ニ改ム

第四條中「其日限リ」ヲ「其ノ死亡ト認メタル日限リ」ニ改ム

第六條第二項中「特務曹長」ヲ削ル

同條第三項ヲ削ル

第十二條第二項第十三條及第十四條中「第三課」ヲ「主計課」ニ改ム

第十八條中「甲」ヲ削リ「第二十二表」ヲ「第二十一表」ニ改ム

第十九條中「特務曹長」ヲ削ル

第二十一條第二項ヲ左ノ如ク改ム

本規則第九條第二項特種被服ノ給與若ハ貸與並還納付與ノ區別ハ臨時定ムル所ニ依ルヘシ

第二十二條 軍人軍屬ノ旅費ハ陸軍旅費規則第四表ヲ目途トシ實費拂トス但シ單獨旅行ノ者内地

ニ在テハ陸軍旅費規則第一表ノ定額ヲ給ス

前項但書ノ旅費ヲ受クル者一地ニ滞在引續キ三十一日以後ハ宿泊料ノミヲ支給ス

休職停職豫備役後備役ノ者召集地到着部隊編入迄滞在セシムルトキハ陸軍旅費規則第九表ノ日

當ヲ給スト雖編入翌日ヨリノ滞在ニシテ准士官以上ハ同規則第一表ニ依リ其ノ三十一日以後ハ

前項ニ同シ

本規則第八條第一項及本細則第十八條ノ給與ヲ爲ス場合ニ在テハ旅費ノ給與ヲ爲サス

休職停職豫備役後備役ノ者甲地ニ召集シ乙地ノ部隊ニ編入シ又ハ甲乙轉職其ノ他公務ニ依リ内

地旅行ノ者ハ第一項但書ニ準シ其ノ部隊編入後ハ第三項ニ同シ

營内居住下士以下ニシテ公務上外泊セシムルトキハ陸軍旅費規則第三表ノ日當及宿泊料ヲ給シ

宿舍及食料ヲ自辨セシム

第二十三條 内地ニ於テ單獨旅行ノ者官有又ハ備入ノ舟車馬ニテ旅行セシムルトキハ汽車賃船賃

車馬賃ヲ給セス但シ官ニ於テ糧食及宿舍ヲ給スル場合ニ在テハ日當及宿泊料ヲモ給セス

平時ノ職ヲ免セラレ又ハ新任官シ戰時編制ニ屬スル部隊若ハ特ニ設置セラレタル部隊ニ附屬

シタル者ニシテ再ヒ平時ノ職ヲ命セラレ其ノ在勤地曩ニ平時ノ職ニ在リシトキノ地ト異ナルト

キハ新舊任地間ノ移轉料ヲ給ス

第二十四條 旅費支給ノ方法ハ陸軍旅費規則ノ規定ニ依ル

第二十五條ヲ削リ第二十六條ヲ第二十五條トス

第二十六條 平時經理ヲ委任シタル軍隊ハ動員發令ノ翌日ヨリ復員終了ノ日迄委任經理ヲ停止ス

第二十七條中「定額馬飼料ヲ給ス」ヲ「平時ノ規定ニ依ル」ニ改ム

第二十八條中割註ヲ「雇員備人給料支給規則備給表ニ掲クル者及」ニ改ム

第一表中通常兵餉ノ末項（炊爨用薪炭ノ定量ハ特ニ定ムル所ニ依ル）ヲ削ル

第二表ヲ廢ス

○陸軍第七十四號

明治二十七年陸軍第七十號臨時費支出及整理規程中左ノ通改正ス

明治三十三年七月九日

陸軍大臣子爵桂 太郎

第一條中「經理局長」ヲ經由シ「第三課長」ヲ「主計課長」ニ改メ「金櫃部長」ノ下ニ「臨時陸軍中央金

庫間」ハ「經理局」附ノ割註ヲ加フ

第二條第一號但書中「野戰監督長官部」ノ下ニ「開設セサルトキ若ハ同部」ヲ第二號中「部隊長ヨリ」

ノ下ニ「順序」ヲ經テ「ヲ加フ



第三條第一項中「經理局長ヲ經テ」ヲ削リ左ノ但書ヲ加フ

但シ要スレハ分擔局課ノ調査ヲ經テ下付スルコトアルヘシ

第七條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ臨時費ノ現金前渡ヲ爲ササル部隊ニ在テハ本人ニ對シ送金ノ請求ヲ該部隊ヨリ仕拂命令官ニ爲スヘシ

第十二條中「官氏名」ノ下ニ「印鑑」ヲ割註ヲ加フ

第二十條 削除

第二十二條中「決算ノ際其」ノ下ニ「科目」ヲ加フ

第二十五條 主任現金前渡官吏ノ決算證明ハ明治三十二年會計検査院達第二號仕拂證明規程ニ依ルヘシ

第二十六條 分任現金前渡官吏及分任官ノ決算證明ハ明治三十二年會計検査院達第二號仕拂證明規程ニ準スヘシ但シ仕拂計算書ニ代フルニ附表ノ受拂計算表ヲ以テシ尙報告表ヲ添付スヘシ

第二十七條 分任現金前渡官吏及分任官ノ決算證明期限左ノ如シ但シ受拂計算表ニハ所屬長官ノ檢印ヲ要ス

一 一時ノ分任官ハ其ノ仕拂ヲ終リタルトキ

二 分任官ニシテ一時ノ仕拂ニ止ラサルモノハ翌月十五日迄

三 分任現金前渡官吏ノ仕拂ニ係ルモノハ翌月十五日迄但シ各分任官ノ仕拂ヲ併算スヘシ

第二十八條 分任現金前渡官吏又ハ分任官ノ所屬長官ハ受拂計算表提出ニ際シ其ノ受拂計算表ト現金出納簿トノ符合及其ノ現存額ヲ認メ保證書ヲ作り之ヲ添付セシムルヲ要ス

第二十九條 主任收入官吏ノ取扱フ歳入金ハ明治三十三年陸達第四十二號陸軍省所管歳入收納取扱規程ニ依ルヘシ

第三十條 分任收入官吏ノ領收セル歳入金ハ毎月科目金額及事由ヲ詳悉セル明細書並證憑書類ニ該金額ノ管守證ヲ添ヘ經理局主計課長ニ送付スヘシ但シ管守證ハ送金ニ差繼クモノトス

第三十一條乃至第四十二條 削除

附表ヲ別表ノ通改正ス

(別表)

用紙美濃野紙

第	號	明治	年	月	分	部		隊
						高	計	
項	元	受	高	目	仕	前	本	本
所屬	何	何	何	何	何	何	何	何
長印	何	何	何	何	何	何	何	何
前月送	三、〇〇〇〇〇	被服費	三、〇〇〇〇〇	精算高	五、〇〇〇〇〇	前月送	五、〇〇〇〇〇	仕
領收高	五、〇〇〇〇〇	何	二、〇〇〇〇〇	本月(期)	三、〇〇〇〇〇	領收高	二、〇〇〇〇〇	拂
本月(期)	何	何	一、〇〇〇〇〇	精算高	八、〇〇〇〇〇	本月(期)	一、〇〇〇〇〇	算
返納高	何	何	何	回收高	五、〇〇〇〇〇	返納高	何	高
何	何	何	何	計	一、〇〇〇〇〇	何	何	高
何	何	何	何	何	何	何	何	高

第三條第一項中「經理局長ヲ經テ」ヲ削リ左ノ但書ヲ加フ

但シ要スレハ分擲局課ノ調査ヲ經テ下付スルコトアルヘシ

第七條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ臨時費ノ現金前渡ヲ爲ササル部隊ニ在テハ本人ニ對シ送金ノ請求ヲ該部隊ヨリ仕拂命令官ニ爲スヘシ

第十二條中「官氏名」ノ下ニ「印鑑」ヲノ割註ヲ加フ

第二十條 削除

第二十二條中「決算ノ際其」ノ下ニ「科目」ヲ加フ

第二十五條 主任現金前渡官吏ノ決算證明ハ明治三十二年會計検査院達第二號仕拂證明規程ニ依ルヘシ

第二十六條 分任現金前渡官吏及分任官ノ決算證明ハ明治三十二年會計検査院達第二號仕拂證明規程ニ準スヘシ但シ仕拂計算書ニ代フルニ附表ノ受拂計算表ヲ以テシ尙報告表ヲ添付スヘシ

第二十七條 分任現金前渡官吏及分任官ノ決算證明期限左ノ如シ但シ受拂計算表ニハ所屬長官ノ檢印ヲ要ス

一 一時ノ分任官ハ其ノ仕拂ヲ終リタルトキ

二 分任官ニシテ一時ノ仕拂ニ止ラサルモノハ翌月五日迄

三 分任現金前渡官吏ノ仕拂ニ係ルモノハ翌月十五日迄但シ各分任官ノ仕拂ヲ併算スヘシ

第二十八條 分任現金前渡官吏又ハ分任官ノ所屬長官ハ受拂計算表提出ニ際シ其ノ受拂計算表ト現金出納簿トノ符合及其ノ現存額ヲ認メ保證書ヲ作り之ヲ添付セシムルヲ要ス

第二十九條 主任收入官吏ノ取扱フ歳入金ハ明治三十三年陸軍達第四十二號陸軍省所管歳入收納取扱規程ニ依ルヘシ

第三十條 分任收入官吏ノ領收セル歳入金ハ毎月科目金額及事由ヲ詳悉セル明細書或證據書類ニ該金額ノ管守證ヲ添ヘ經理局主計課長ニ送付スヘシ但シ管守證ハ送金ニ差繼クモノトス

第三十一條乃至第四十二條削除  
附表ヲ別表ノ通改正ス  
(別表)

用紙美濃紙

第	號	明治	年	月	分	部	隊	受		拂		計		項
								元	高	元	高	元	高	
								前月迄	本月迄	前月迄	本月迄	前月迄	本月迄	所屬
								二,〇〇〇〇〇	五,〇〇〇〇〇	三,〇〇〇〇〇	八,〇〇〇〇〇	三,〇〇〇〇〇	八,〇〇〇〇〇	長印
								被服費	糧食費	俸給諸給	何々	何々	何々	
								三,〇〇〇〇〇	二,〇〇〇〇〇	五,〇〇〇〇〇	八,〇〇〇〇〇	三,〇〇〇〇〇	八,〇〇〇〇〇	
								同收高	同收高	同收高	同收高	同收高	同收高	
								一,〇〇〇〇〇	一,〇〇〇〇〇	一,〇〇〇〇〇	一,〇〇〇〇〇	一,〇〇〇〇〇	一,〇〇〇〇〇	
								計	計	計	計	計	計	
								八,〇〇〇〇〇	八,〇〇〇〇〇	八,〇〇〇〇〇	八,〇〇〇〇〇	八,〇〇〇〇〇	八,〇〇〇〇〇	
								殘高	殘高	殘高	殘高	殘高	殘高	
								一,〇〇〇〇〇	一,〇〇〇〇〇	一,〇〇〇〇〇	一,〇〇〇〇〇	一,〇〇〇〇〇	一,〇〇〇〇〇	

表

計	二五〇〇〇	八〇〇〇〇	六〇〇〇〇	一、七〇〇〇〇	一、一〇〇〇〇
---	-------	-------	-------	---------	---------

右前渡金受拂ノ通相違無之候也

分任現金前渡官吏(分任現金前渡官吏何某取扱分任官)

官氏名印

年月日

- 注意
- 一 交替ノトキハ前任官吏ノ計算額ヲ併算スヘシ
  - 二 定額ニ戻入シ又ハ歳入ニ納付スル爲現金ヲ金庫ニ拂込ミタルモノハ本月返納額ノ區ニ掲記シ領收額ヨリ控除スヘシ
  - 三 仕拂證明ノ後誤拂過渡其ノ他ノ返戻金ヲ受取人ヨリ領收シタルトキハ本月同收額ノ區ニ掲記シ仕拂額ヨリ控除スヘシ
  - 四 一時ノ取扱ニシテ其ノ仕拂證明ヲ一回ニ爲スモノハ本月トアルヲ總テ本期ト記シ取扱ノ金額ヲ記載スヘシ

甲號

明治何年度何年何月分過誤拂(不足拂)自覺報告表 部隊職氏名印

明治三十三年	仕拂月	目	金額	事	由	
					處	未濟
三月	俸給諸給	八〇〇〇		(過誤拂記載ノ例不足拂モ此ノ例ニ依ル)		
三月				近衛歩兵第一聯隊第一大隊歩兵中尉一等給何某三月三日發給同月二日東京(移轉料)		
三月				第一師團歩兵第一聯隊第一大隊附二補セラレタルニ付發給當日迄前所管ニテ九圓支給		

乙號

明治何年度何年何月分過誤拂(不足拂)自覺報告表 部隊職氏名印

明治三十三年	三月	旅費	二七〇〇	事由	
				金額	事由
三月	旅費	二七〇〇		歩兵少尉何某近衛歩兵第一聯隊附ノ處三十三	
三月				年四月二日發給同月二日東京(移轉料)	
三月				八拾九圓九角九分發給同月二日東京(移轉料)	
三月				里拾圓貳拾貳圓七角九分發給同月二日東京(移轉料)	
三月				拾貳圓貳拾貳圓七角九分發給同月二日東京(移轉料)	
三月				支給スヘキヲ陸路拾貳圓貳拾貳圓七角九分發給同月二日東京(移轉料)	
三月				支給スヘキヲ陸路拾貳圓貳拾貳圓七角九分發給同月二日東京(移轉料)	

- 一 同一ノ事項ニシテ數人ニ涉ルモノアルモ總テ各別ニ記載スヘシ
- 二 事由ハ可成詳細ニ記載シ且計算ノ基ヲ處ヲ明示スルヲ要ス
- 三 會計檢査院ノ審理ノ結果ニ依リ生シタル過誤拂又ハ不足拂ノ處分ヲナシタルモノハ本書提出ニ及ハス
- 四 用紙ハ厚質美濃紙ヲ用ユヘシ

		同	同		何年度何月何日ニテ 道給濟
		同	過誤拂		本月同收濟

備考

- 一 本表ハ過誤拂不足拂フ各別ニ調製スルヲ要セス
- 二 年月ハ自覺ニ對シテハ甲號表報告年月管理ニ對シテハ證明年月ヲ記載スヘシ

陸軍第七十五號

將校演習旅行條例細則左ノ通改正ス

明治三十三年七月十日

陸軍大臣子爵桂 太郎

將校演習旅行條例細則

第一章 人員及馬匹

- 第一條 將官演習旅行及參謀演習旅行ノ統裁官並ニ東京防禦總督要塞幹部演習旅行ヲ統裁スルトキハ屬員トシテ乘馬兵科ノ下士一名計手二名下士若クハ判任文官二名 蹄鐵工卒一名 兵卒若クハ傭人若干名ヲ隨ヘ又副馬及豫備馬若干頭ヲ携行スルコトヲ得
- 第二條 將官演習旅行及參謀演習旅行並ニ東京防禦總督ノ施行スル要塞幹部演習旅行ノ屬員及馬匹ハ所要ニ應ジ之ヲ其ノ演習旅行ヲ施行スル地方ノ師團ヨリ出サシムルコトヲ得但シ其ノ人員及馬數ハ參謀總長又ハ東京防禦總督ヨリ陸軍大臣ニ請求シ陸軍大臣ハ師團長ニ命ジテ之ヲ出サシム

第三條 師團、旅團幹部演習旅行ノ統裁官及要塞司令官要塞幹部演習旅行ヲ統裁スルトキハ屬員トシテ下士二名(内一名ハ乘馬兵科ノ下士ニ限ル)計手一名、蹄鐵工卒一名、兵卒若クハ傭人若干名ヲ隨ヘ又副馬及豫備馬若干頭ヲ携行スルコトヲ得

但シ步兵旅團幹部演習若クハ要塞司令官ノ施行スル要塞幹部演習旅行ニ隨行セシムヘキ乘馬兵科ノ下士、蹄鐵工卒並ニ所要ノ馬匹ハ當該旅團長若クハ要塞司令官ヨリ所屬師團長ニ請求スヘシ

第四條 將官演習旅行、參謀演習旅行或ハ幹部演習旅行ノ屬員ハ宿舍ノ設備、馬匹ノ監視及其ノ他ノ雜役ニ服セシムルモノトス

第五條 乘馬本分ニアラサル將校同相當官ニシテ參謀演習旅行若クハ幹部演習旅行ニ參列スル者ノ乘馬ハ必要ニ應ジ演習統裁官ニ於テ之ヲ準備スルモノトス

第六條 將官演習旅行、參謀演習旅行若クハ幹部演習旅行ノ參列員ニシテ特ニ遠隔ノ地ヨリ派遣ヲ命セラル、者ハ通常其ノ乘馬ヲ携行セシ演習統裁官ニ於テ之ヲ準備スルモノトス

第七條 將官演習旅行、參謀演習旅行及幹部演習旅行員ニ貸與スヘキ乘馬ニハ之ニ要スル馬卒、乘馬具及飼養具ヲ附屬スルモノトス但シ正規ノ馬裝ヲ準備スルヲ要セス又馬卒ハ傭人ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第二章 報告

- 第八條 師團幹部演習旅行ニ在テハ師團長ハ實施ノ三箇月前ニ於テ其ノ時期ヲ、又三週日前ニ於テ一般方略、最初ノ特別方略、出發ノ時日及最初ノ集合點ヲ陸軍大臣及教育總監ニ報告ス可シ
- 第九條 旅團幹部演習旅行ニ在テハ旅團長ハ前條ト同一ノ時期ニ於テ同一ノ報告(步兵旅團幹部演習旅行ニ在

アハ實施時期ヲ師團長ニ呈シ師團長ハ之ヲ教育總監ニ報告ス可シ  
ノ報告ヲ除ク

第十條 要塞幹部演習旅行ニ在テハ東京防衛總監若クハ要塞司令官ハ第八條ト同一ノ時期ニ於テ  
同一ノ報告ヲ(東京)要塞司令官ハ東京防衛總監ニ報告ス可シ

第十一條 參謀演習旅行或ハ幹部演習旅行ノ統制官ニ於テ調製スル伎倆成績ニ關スル報告ハ別ニ  
一定ノ書式ヲ設ケス唯當該將校ノ能否、作業ノ可否、馬術ノ熟否及身體強壯ニシテ困苦ニ耐ヘ戰  
時高等司令官又ハ參謀ノ職務若クハ特別ノ任務ニ適スルヤ否等ヲ認知シ得ヘカラシムルヲ要ス  
而シテ此ノ報告ハ演習終了後六週日以内ニ本條例ノ定ムル所ノ順序ニ依リ進達スヘキモノト  
ス

○陸軍第七十六號

明治二十四年陸軍第七十二號陸軍物品會計規程中左ノ通改正ス

陸軍大臣子爵桂 太郎

明治三十三年七月十一日

第一條中「監軍部」ヲ「教育總監部」ニ改ム

第二條第一項ヲ左ノ如ク改ム

物品ノ管理ハ陸軍省ハ總務局庶務課長參謀本部ハ總務部長教育總監部防禦總監部都督部ハ參謀  
長其ノ他各官衙各所各隊ハ該長其ノ責ニ任ス

第四條第一項ヲ左ノ如ク改ム

物品出納ノ命令ハ陸軍省ハ總務局庶務課長參謀本部ハ總務部長教育總監部防禦總監部都督部ハ  
參謀長其ノ他各官衙各所各隊ハ該長之ヲ發スヘシ但シ其ノ出納命令權ヲ部下ニ分ツコトヲ得  
第八條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項計算書ハ検査ノ爲メ其受領後五日以内ニ陸軍省ニ在リテハ總務局庶務課長ニ下シ各官衙各  
所各隊長ハ當該監督部長ニ移スヘシ但被服廠及千住製絨所ニ在テハ經理局被服課長ニ中央糧秣  
廠ニ在テハ經理局糧秣課長ニ東京陸軍經營部ニ在テハ經理局建築課長ニ移スヘシ

第十二條第一項ヲ左ノ如ク改ム

陸軍省各局課ニ傳票ヲ備ヘ物品又ハ其ノ修理ヲ要スルトキハ其品目員數ヲ該傳票ニ記入シ當該  
課長總務局ニアリテハ庶務課長  
法務局ニアリテハ高級理事之ニ捺印シ總務局庶務課ニ請求スヘシ但臨時物品ヲ請求スル  
トキハ其理由ヲ傳票ニ記入スヘシ

第二項中「大臣官房」ヲ「總務局庶務課」ニ改ム

第三項中「前項」ヲ「前各項」ニ改ム

第十三條第一項ヲ左ノ如ク改ム

陸軍省各局課ニ於テ不用ニ屬スル物品アルトキハ還納傳票ニ其ノ員數ヲ記シ前條ノ手續ニ依リ  
總務局庶務課ニ之ヲ返付スヘシ總務局庶務課ニ於テ審査ノ上爾後使用ニ堪ユヘキモノハ之ヲ保  
管シ其ノ使用ニ堪ヘサルカ又ハ向來所要ノ目的ナシト認ムルモノハ賣却スル等適宜其處分ヲナ  
スヘシ

第十五條中「高級副官」ヲ「總務局庶務課長」ニ改メ制註ヲ「被服廠及千住製絨所ニ在テハ經理局被服  
課長中央糧秣廠ニ在テハ經理局糧秣課長東京陸軍經營部ニ在テハ經理局建築課長」ニ改ム

第十六條中「一號」ノ「屬スル」ヲ「係ル」ニ改ム

○陸軍第七十七號

明治三十一年陸軍第五號陸軍營繕事務規程中左ノ通改正加除ス

陸軍大臣子爵桂 太郎

明治三十三年七月十七日

第一條但書中「建造物ノ事務ハ」ヲ「モノハ」ニ改ム

第三條但書中「第二」ヲ「建築」ニ改ム

第四條割註ヲ刪除

第五條刪除

第六條ヲ第五條トシ「管轄官衙以下ヲ左ノ通改ム

管轄官衙ニ於テ官有地ハ該地ノ所轄廳民有地ハ所有者ト協議ヲ遂ケ其ノ承諾ヲ得テ陸軍大臣ニ伺出ツヘシ

第五條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第六條 兵營其ノ他位置ノ決定又ハ新タニ土地ノ編入ヲ伺出ツルトキハ其ノ局部明細圖ノ外附近

ノ一般圖ヲ添付スヘシ

第七條割註ヲ左ノ通改ム

經理局建築課砲兵工廠臺灣陸軍監督部ニ關スルモノハ其ノ所管以下同シ

第十一條一號以下ヲ左ノ通改ム

一 工事緩急順序調書

本書ハ各事項毎ニ費額及必要ノ理由ヲ詳記シ緊急ノ事項ヨリ順次列記スヘシ

二 工事設計書 書式第一號

本書ハ工事ノ計畫材料ノ品質等ヲ記スヘシ

三 經費仕譯書 書式第二號

四 配置圖 六百分一

建造物ノ位置形狀ヲ記スヘシ

五 平面圖 百分一

供用ノ室名ヲ記スヘシ

第十四條ヲ左ノ通改ム

新タニ土地ヲ編入シ又ハ工事落成シタルトキハ該土地又ハ建造物ノ履歷書 書式第三號ヲ製シ管理者

ニ於テ保管スヘシ

附表第一號及第二號書式ヲ別表ノ如ク改メ第四號書式ヲ刪除ス (別表略ス)

○陸軍第七十八號

戰時若ハ事變ニ際シ戰時編制又ハ特ニ設置セル部隊ニ屬シ若ハ繁劇ノ事務ニ從事スル雇員備人ハ雇員備人給料支給規則第二條ノ期限ニ依ラス増給スルコトヲ得

戰時編制又ハ特ニ設置セル部隊ニ屬スル雇員備人ノ増給ハ雇員備人給料支給規則第四條ニ依ラス辭令書日附ノ翌日ヨリ増給スルモノトス

明治三十三年七月十八日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍第七十九號

今回清國事變ニ付同國ニ派遣ノ諸部隊ニ限リ陸軍補充條例第一百五十二條ニ據リ同條第一項第一乃至第三號ヲ以テ士官ノ缺員ヲ補充ス

明治三十三年七月二十五日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○海軍省達第百三十二號

海軍戰時旅費規則左ノ通定ム

明治三十三年七月五日

海軍大臣山本權兵衛

海軍戰時旅費規則

- 第一條 戰時若ハ事變ニ際シ公務ノ爲メ旅行スル軍人軍屬ノ旅費ハ總テ實費拂トス但單獨旅行ノ者ニハ内地ニ在テハ海軍内國旅費規則第四表ヲ除クノ外各其ノ定額ヲ支給ス
  - 第二條 旅行中戰時ニ移リタルトキハ海軍戰時給與規則實施ノ日ヨリ平時ニ復シタルトキハ指定地ニ到達若ハ本勤務地ニ歸著ノ日マテ第一條ノ例ニ依ル
  - 第三條 本規則實施中赴任ノ者ニシテ平時ノ給與ニ復スルモ仍ホ其任所ニ勤續シ其ノ日ヨリ三十日以内ニ所管長官ノ承認ヲ受ケ家族ヲ移轉スルトキハ海軍内國旅費規則第七條ニ依リ第四表ノ移轉料ヲ支給ス
  - 第四條 旅費ノ實費拂ハ休泊料、汽車料、船舶料、車馬料、棧橋料及舁舟料トス其他ハ官費支辨ノ限ニアラス
  - 第五條 海軍糧食條例ニ依リ糧食ヲ支給スルトキハ其間旅費ノ日當ヲ給セス但發著ノ日ハ此ノ限ニアラス
  - 第六條 本規則中明文ナキモノハ總テ現行ノ諸條規ヲ適用ス
  - 第七條 本規則施行並停止ノ期日ハ戰時給與規則ノ該期日ニ依ル
- 海軍省達第三百三十三號
- 戰時給與規則施行細則中左ノ通改正ス
- 明治三十三年七月五日
- 海軍大臣山本權兵衛
- 第一條ヲ削除ス
  - 第二條其出發ノ日ヨリ本勤務地ニ歸著ノ日又ハ戒嚴解止若クハ平定ノ日マテハ「ヲ」未タ歸著セザ

ルモ戒嚴解止若クハ平定ノ場合ニ於テハ其ノ當日マテ「ト」改ム

第四條 戰備完成ノ各部隊艦船艇ノ軍人軍屬ニハ其ノ完成ノ日ヨリ給與停止ノ前日マテ規則第六條ニヨリ増俸ヲ給ス

戰備完成ノ期日ハ所管長官之ヲ定メ大臣ニ報告スヘシ

第十一條ヲ削除ス

第十四條中「第七條」ヲ「第十二條」ト改メ但書ヲ左ノ通改正ス

但故意若クハ不注意ニ出テタルトキハ此限ニアラス

第十五條 規則第十三條第一項ニヨリ被服物品ノ給與若クハ貸與ノ必要アルトキハ被服經理規程

第十一條ノ手續ニ準スヘシ

第十七條 戰地若クハ臨戰合圍地境ニ在ル准士官以上候補生ニシテ乘組艦船ノ破壞沈没其他非常ノ災害ニ罹リ其被服ヲ亡失若クハ毀損シ其ノ用ニ堪ヘサルトキハ左ノ被服物品ニ限リ特ニ給與スルコトヲ得

- |      |    |    |     |    |    |     |     |
|------|----|----|-----|----|----|-----|-----|
| 通常軍服 | 二著 | 夏服 | 二著  | 軍帽 | 一頭 | 帽日覆 | 二枚  |
| 劍短長  | 一腰 | 劍帶 | 一條  | 外套 | 一枚 | 襦袢  | 二枚  |
| シャツ  | 二枚 | 手袋 | 二雙  | 麻襟 | 二枚 | 袴   | 二枚  |
| 短靴   | 一足 | 靴  | 下二足 |    |    | 袴   | 下二足 |
- 艦船廳長ハ前項被服物品ノ給與ヲ必要ト認ムルモノ生シタルトキハ其事由及品種數量(寸法)等ヲ詳記シ所屬司令長官ノ許可ヲ得テ佐世保鎮守府經理部ヘ交付方請求スヘシ
- 第十八條ヲ削除ス

第二十一條第一項ヲ削除シ第二項中「俸給給料及増俸増給ヲ家族ニ下渡スニハ適宜所要ノ金額ヲ定メタル請求書ヲ出サシメ所屬艦」ヲ「規則第十七條ニ依リ俸給給料及増俸増給ヲ家族ニ下渡スニハ所要ノ金額ヲ定メタル請求書ヲ當該所屬艦長ニ出サシメ該艦長ハ之ヲ經費所管廳」ニ改ム

第二十四條中「若クハ給與」ヲ削ル

第二十五條中「其解除」ヲ「任務ヲ免セラレ」ニ改ム

第二十六條ヲ削除ス

第二十八條中「厘位」ヲ「錢位」ニ改ム

附則ヲ削除ス

○海軍省達第三百二十四號  
艦團部隊需用品定額表中左ノ通追加ス (追加略ス)

但常備艦隊司令長官同司令官鎮守府艦隊司令官及常備艦隊驅逐隊司令官需用品定額表ニハ追加セス

明治三十三年七月九日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第三百二十五號

海軍艦團部下士卒教育令中左ノ通改正ス

明治三十三年七月九日

海軍大臣山本權兵衛

綱領ノ部

七軍艦海兵團水雷艇隊水雷敷設隊ヲ以テ下士卒教育實施ノ基本トス

要港部及水雷團直屬下士卒ノ教育ハ其部團附屬ノ水雷艇隊亦ハ水雷敷設隊ニ於テ施行スヘシ  
實施例ノ部

第三條中「毎月二十時間」ヲ「毎季二十時間」ニ改メ左ノ一項ヲ加フ

基本長ハ戰時若ハ事變ニ際シテハ教育實施ノ時間ヲ減少シ又ハ中止スルコトヲ得

第五條中「海軍大臣ニ進達」ヲ「海軍教育本部長ニ移牒」ニ改ム

〔參照〕

海軍省達第九十九號海軍艦團部下士卒教育令(明治三十年九月二十四日抄録)

綱領

七軍艦部、軍艦、水雷團、海兵團及軍港要港外ニ分置スル水雷艇隊、水雷敷設隊ヲ下士卒教育施行ノ基本トス

實施例

第三條 各基本長ハ教育實施ノ法ヲ定メ水兵部ニ在テハ毎月二十時間以上其ノ他ニ在テハ事變ノ緩急ニ依リ適當ノ時間ヲ定メ嚴格ニ之ヲ施行スヘシ但第六條第十九條及艦内事業日課操練等ヲ利用シテ施行スル教育ハ右時間外トス

第五條 所管長官ハ部下基本長ヨリ提出セル報告ニ對シ自己ノ意見及希望ヲ附シ海軍大臣ニ進達スヘシ

○海軍省達第三百二十六號

海軍艦團部將校教育令中左ノ通改正ス

明治三十三年七月九日

海軍大臣山本權兵衛

綱領ノ部

五軍艦、海兵團、水雷團及水雷艇隊、水雷敷設隊ヲ以テ將校教育實施ノ基本トス

實施規定ノ部

第七條 所管長官ハ麾下基本長(所管長官ヨリ直接ニ問題)ヨリ呈出セル作業書ヲ檢シ之ニ批評ヲ加ヘテ海軍教育本部長ニ移ス(舊式第一第三)海軍教育本部長ハ亦之ヲ檢シテ批評ヲ加ヘ海軍大臣ニ進

達ス

第十七條中「認ムルトキ」ノ下ニ「若ハ戰時事變ニ際シテ」ヲ加フ



第十八條中「所管長官ハ之ヲ」ノ下ニ「海軍教育本部長ニ移シ海軍教育本部長ハ之ヲ」ヲ加フ  
第十九條中「所管長官ノ推選ニ係ル」ヲ削ル  
第二十條中「軍務局長ハ第七條及第十九條ノ作業書ヲ調査シ」ヲ「海軍教育本部長ハ」ニ「部内諸部ヲ  
艦團隊其ノ他各部ニ改ム

書式第二及第三中「明治 年 月 日批評ス」(所管官印)ノ下ノ割註竝「右作業優等ト認メ候ニ  
付以下」海軍大臣爵氏名殿ニ至ル進達書全部ヲ削リ更ニ左ノ通追加ス

批評

全文……………(海軍教育本部長ノ批評)

明治 年 月 日批評ス(海軍教育本部長印)

書式第五中「作業答案優等ニ付」ヲ「作業答案……………優等ト認ムルニ付」ニ改ム

〔參照〕

海軍省達第九十八號海軍艦團部將校教育令(明治三十年九月二十四日)抄錄

綱領

五要港部軍艦海兵團水雷團及軍港要港外ニ分置スル水雷艇隊水雷敷設隊ヲ以テ將校教育實施ノ基本トス

實施規定

第七條 所管長官ハ艦下基本長(司令長官ヨリ班長ヨリ班長ヨリ出セル作業書ヲ檢シ之ニ批評ヲ加ヘ更ニ優等ナル者ヲ選抜シ  
之ヲ海軍大臣ニ進達シ(或ハ其ノ他ハ海軍省軍務局長ニ移スヘシ)

第十七條 基本長ハ作業者病氣ニ罹リ作業ニ堪ヘスト認ムルトキハ作業ヲ免スルコトヲ得

第十八條 各基本長ハ毎年六月三十日マテニ既往一年間ノ作業實施報告ヲ作り所管長官ニ呈シ(或ハ所管長官ハ之ヲ海軍大  
臣ニ進達スヘシ)

第十九條 海軍大臣ハ作業書審査委員ヲ設ケ所管長官ノ推選ニ係ル作業書ニ就キ更ニ之ヲ選擇セシメ被選作業者ニ對シ褒  
狀ヲ授ケ(或ハ)

第二十條 軍務局長ハ第七條及第十九條ノ作業書ヲ調査シ作業年報ヲ編シ之ヲ部内諸部ニ頒ツ

○海軍省達第三百二十七號

海軍服裝規則中ノ通改正ス

明治三十三年七月二十日

海軍大臣山本權兵衛

第二條 正服着用ノ場合ハ概ネ左ノ如シ

一 新年朝拜參賀、天長節參賀若ハ紀元節參賀參拜又ハ是等ノ日ニ於テ艦團等ニ在テ遙拜ノトキ

二 新年宴會、紀元節宴會、天長節宴會

三 勳章奉授拜受又ハ其ノ式ニ班列スルトキ

四 臨御ノ觀兵式ニ出場スルトキ若ハ之ヲ拜觀ノ爲メ參列スルトキ

五 御祭日參内參拜ノトキ

六 靖國神社大祭參拜ノトキ

七 賢所御神樂ニ參列スルトキ

八 臨時大禮ニ係ル儀式祭典

九 前諸號ノ外條例規則等ニ於テ規定アルトキ

第三條 禮服用ノ場合ハ概ネ左ノ如シ

一 拜謁ノ爲メ參内スルトキ

二 晚餐御陪食ノトキ但シ正服袴及正服劔帶

三 任官敘位ノ宣旨ヲ受クル爲メ參内スルトキ

四 皇族ノ晚餐ニ陪スルトキ但シ正服袴及正服劔帶

五 天長節及之ニ均シキ場合ニ於ケル夜會但シ軍服帽正服袴正服劔帶及短劔

- 六 臨御ノ式場ニ參列スルトキ
  - 七 鎮守府、要港部、艦團若ハ勤務ノ廳其ノ廳ニ屬スル所ニ臨御ノトキ 在各廳ヲ包含ス
  - 八 重立タル晚餐但シ軍服帽短劍
  - 九 儀仗トシテ出場スルトキ
  - 十 迎送式、伺候式
  - 十一 海軍葬儀ニ於テ喪主、先導、陪柩者若ハ幹事タルトキ若ハ自家及親戚ノ賀儀葬祭ノトキ
  - 十二 外國ノ軍艦若ハ外國ノ重ナル文武官員ヲ訪問若ハ回訪スルトキ
  - 十三 前諸號ノ外條例規則等ニ於テ規定アルトキ
- 第四條 軍服着用ノ場合ハ概ネ左ノ如シ
- 一 艦團等ニ於テハ二月一日、天長節、紀元節其他ノ公暇日
  - 二 午餐御陪食並觀花御宴會ニ陪スルトキ
  - 三 天機伺ノ爲メ參内スルトキ
  - 四 任官敍位敍勳御陪食御宴會ノ御禮若ハ之ニ齊シキ場合ニ於テ參内スルトキ
  - 五 歳末其ノ他御祝詞ノ爲メ參内スルトキ
  - 六 臨幸ノ節奉送奉迎奉伺スルトキ
  - 七 臨御ノ場所ニ參會スルトキ
  - 八 皇族ノ午餐ニ陪スルトキ
  - 九 進水式、學術卒業證書授與式又ハ學術及第證書授與式ニ參列若ハ參會スルトキ但シ臨御ノトキハ參列者ノミ禮服

- 十 大祓ニ參列スルトキ
- 十一 重立タル午餐及宴會
- 十二 靖國神社大祭遙拜
- 十三 式ニ依リ迎送及伺候ヲ受クルトキ
- 十四 就職退職ノトキ
- 十五 任官敍位ノ宣旨若ハ賞狀等ヲ受クルトキ
- 十六 海軍葬儀ニ會葬スルトキ及知人ノ賀儀葬祭
- 十七 軍法會議ノ開廷ノトキ
- 十八 第三條第十二號ノ場合ノ外内外國ノ文武官員ヲ訪問若ハ回訪スルトキ
- 十九 檢閲若ハ之ニ齊シキ場合
- 二十 政始出廳ノトキ
- 二十一 前諸號ノ外條例規則等ニ於テ規定アルトキ
- 第四條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ
- 第四條ノ二 行啓ノトキ若ハ皇族ノ其ノ資格ヲ以テ成ラセラル、トキニ於ケル服装ハ總テ臨御ノトキニ準スヘシ
- 第四條ノ三 第二條乃至第四條ニ依リ同時ニ二様ノ服ヲ着用スヘキ場合ニ際會セハ其ノ重キニ從フヘシ
- 第六條中「非常ヲ事變」ニ改ム
- 第八條中「所在先任將校ノ指定ニ依リ」ヲ削除ス

第八條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第八條ノ二 軍服若ハ夏服ハ前諸條ニ於テ其ノ着用ノ場合ヲ定ムト雖炎暑ノ際又ハ特別ノトキニ  
限リ所在先任將校ノ指定ニ依リ禮服着用ノ場合ニ亦之ヲ着用スルコトヲ得

第九條 夏期ノ間ハ禮服軍服若ハ通常軍服ニ夏服袴ヲ着用スヘシ但シ雨天又ハ會葬ノトキハ此限  
ニアラス

又所在先任將校ノ指定ニ依リ夏服ニ通常軍服袴ヲ着用スルコトヲ得

第十條 第八條及第九條ノ服裝ハ氣候ニ依リ選用スヘシ但シ艦團校所等ニ於テハ先任將校ノ指定  
ニ從フヘシ

第十一條中「若クハ夏服」ノ次ニ「通常軍服袴」ヲ加ヘ「夏服略帽」ヲ用フヘシ「次ニ」又准士官以下禮  
服ニ夏服袴ヲ着用スルトキハ夏服帽ヲ用フヘシヲ加フ

第十三條中「非常」ヲ「事變」ニ改ム

第十四條第一項中但書ヲ削除ス

第十八條全文ヲ削除ス

第二十五條中「着用ス」ノ次ニ「ルモノトス但シ下士卒ノ雨衣帽ハ艦團等ノ内ニ於テノミ之ヲ用フル  
ヲ例トス」ヲ加フ

第二十九條第二項中「白靴ヲ用フルコトヲ得」ヲ「白色ノ靴ヲ用フルコトヲ得夏服ニ通常軍服袴ヲ用  
フルトキ亦同シ」ニ改ム

第三十二條第四項中「但以下ヲ左ノ如ク改ム  
但シ事業服着用ノ際ニハ之ヲ用ヒサルヲ例トス

第三十五條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第三十五條ノ二 海軍大學校將校科甲種學生卒業者徽章、艦砲懸賞射擊優等射手徽章、小銃射擊優  
等賞牌ハ第三十四條ノ規定ニ準シ上衣ノ右乳部ニ佩フヘシ

第三十八條 大尉及同相當官以上ノ高等武官、兵曹長及同相當官並准士官ハ公務ニアラスシテ艦  
團其ノ他各部ノ外ニ在ルトキハ制外ノ服裝ヲ爲スコトヲ得中少尉及同相當官並候補生歸省墓參  
療養等ノ場合ニ限り亦然リ

第四十二條中「ニ應スルトキ」ヲ「中」ニ改ム

第四十二條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第四十二條ノ二 法令ノ規定ニ依リ一境域内ニ於ケル海軍軍人ノ服裝ヲ齊一ニスルハ所在先任將  
校ノ任トス但シ下士卒ノ袴下襟卷ノ著脱ヲ令スルコト若ハ貸與品使用ノ場合ヲ定ムル等ノ細目  
ハ艦團其ノ他各部ノ長其ノ部内限り之カ齊一ヲ計ルヘシ

第四十二條ノ三 軍港要港ニ在テハ當該鎮守府司令長官若ハ要港部司令官ノ服裝ニ關シ定メタル  
事項ハ他ノ司令長官司令官モ其ノ官等ノ如何ニ關セス等シク之ヲ遵守スヘキモノトス

○海軍省達第三百二十八號

明治十二年丙第三十九號同二十年海軍省訓令第二百二十九號同二十一年達第十九號ヲ廢ス

明治三十三年七月二十日

海軍大臣山本權兵衛

〔參照〕

明治三十三年五月海軍省丙第三十九號ハ靖國神社大祭ノ節武文官者服ノ件同二十年五月海軍省訓令第二百二十九號ハ  
砲兵及掌水雷兵ノ官章附著方ノ件同二十一年四月海軍省達第十九號ハ射法教範ニ掲クル官牌附著方ノ件ナリ

○海軍省達第百三十九號

艦團部隊需用品定額表中左ノ通改正及追加ス (改正追加略ス)

明治三十三年七月二十日

海軍大臣山本權兵衛

○陸達第八十號

歩兵射撃教範規定ノ射撃徽章授與數第七師團新設歩兵聯隊ニ於テハ明治三十三年度及同三十四年度ニ限リ左ノ通改メラル

明治三十三年八月七日

陸軍大臣子爵桂 太郎

第七師團新設歩兵聯隊

年次	第一種	第二種	第三種	第四種
明治三十三年度	聯隊ニ 一箇	各大隊下士ニ 各中隊兵卒ニ 二箇	各中隊兵卒ニ 一箇	各中隊兵卒ニ 三箇
明治三十四年度	聯隊ニ 二箇	各大隊下士ニ 各中隊兵卒ニ 一箇	各中隊兵卒ニ 二箇	各中隊兵卒ニ 二箇

○陸達第八十一號

明治二十年陸達第百二十號中第一號但書但「下ニ臺灣ヨリ轉職歸還スル將校同相當官ニ在テハ後任者到著マテ其職務ヲ執行シ事務引繼ノ後出發スルモノトシ又」ヲ加フ

明治三十三年八月八日

陸軍大臣子爵桂 太郎

〔參照〕

明治二十年十一月陸達第百二十號ハ陸軍軍人軍屬赴任出發期日等ニ關スル件ナリ

○陸達第八十二號

村田連發銃竝徒歩刀從屬品帶革ニ現在穿孔ト同徑同距離ニ簪録ノ方へ更ニ穿孔二箇ヲ増加ス三十年式騎銃負革ニ現在穿孔ト同徑同距離ニ鼓釦孔ノ方へ更ニ穿孔三箇ヲ増加ス但シ穿孔増加ニ要スル費用ハ各管理ノ軍事費兵器彈藥費定額内ヨリ支辨スヘシ

明治三十三年八月十一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸達第八十二號

兵器取扱規則第三表、第四表中野戰電信隊器具並材料及兵站電信隊器具並材料別紙ノ通改正ス  
別紙略ス

明治三十三年八月十七日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸達第八十四號

馬匹取扱規則第三條中「八分一」ヲ「九分一」ニ改ム

明治三十三年八月十八日

陸軍大臣子爵桂 太郎

〔參照〕

陸達第十四號馬匹取扱規則(明治二十九年二月十七日抄録)

第三條 馬匹ノ補充ハ毎年軍隊學校保管定數ノ約ソ八分一宛行フ但臺灣及外國ニ在ル馬匹ノ補充ハ豫メ之ヲ定メス

○陸達第八十五號

陸軍砲工學校以下學校學生並生徒入學時期左ノ通改正ス

明治三十三年八月二十三日

陸軍大臣子爵桂 太郎

- 一 砲工學校學生ハ毎年一月上旬
- 二 士官學校生徒ハ毎年十二月一日
- 三 中央幼年學校生徒ハ毎年九月一日
- 四 地方幼年學校生徒ハ毎年九月一日
- 五 戶山學校戰術及射擊科學生ハ毎年九月上旬及翌年一月中旬體操劍術科學生ハ毎年十月上旬
- 六 騎兵實施學校學生ハ各科共毎年十二月上旬

七 野戰砲兵射擊學校甲種學生ハ毎年十二月上旬及翌年三月中旬乙種學生中砲兵旅團ニ屬セサル

者ハ毎年十二月下旬砲兵旅團ニ屬スル者ハ翌年四月上旬

八 要塞砲兵射擊學校甲種學生ハ毎年一月中旬及七月上旬乙種學生ハ毎年十二月下旬

九 軍樂學校學生ハ毎年十二月上旬及翌年二月上旬生徒ハ毎年十二月一日

○陸達第八十六號

教導隊下士兵卒分遣時期左ノ通改正ス

明治三十三年八月二十三日

陸軍大臣子爵桂 太郎

- 一 戶山學校教導大隊ハ分遣ノ下士兵卒ハ二箇年在校セシメ毎年六月上旬ニ於テ其半員ヲ交代セシム但上等兵及鼓手喇叭手ハ一時半數缺員ト爲シ置キ十二月上旬ニ至リ分遣セシム
- 二 騎兵實施學校教導中隊ハ分遣ノ下士兵卒ハ二箇年在校セシメ毎年十二月上旬ニ於テ其半員ヲ交代セシム但上等兵以下ハ十一月月上旬ニ歸隊セシメ一時半數缺員ト爲シ置ク
- 三 野戰砲兵射擊學校教導大隊ハ分遣ノ下士兵卒ハ二箇年在校セシメ毎年六月下旬ニ於テ其半員ヲ交代セシム但上等兵及喇叭手ハ一時半數缺員ト爲シ置キ十二月上旬ニ至リ分遣セシム
- 四 要塞砲兵射擊學校教導大隊ハ分遣ノ下士兵卒ハ二箇年在校セシメ毎年十月中旬ニ於テ其半員ヲ交代セシム但上等兵及喇叭手ハ一時半數缺員ト爲シ置キ十二月上旬ニ至リ分遣セシム

○陸達第八十七號

戰地ニ限リ將校同相當官並准士官ノ軍衣ハ夏衣同様ノ制式(地質ハ濃紺絨若クハ紺絨 袖章ハ黒線)ヲ略衣トシテ用ユルヲ得ルコトニ定メラル

明治三十三年八月二十四日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍第八十八號

今般陸軍第八十六號ヲ以テ諸學校教導隊分遣下士卒交代時期改定ノ儀相達候處目下分遣中ノ者ハ左ノ通交代セシム

明治三十三年八月二十七日

陸軍大臣子爵桂 太郎

- 一 戸山學校教導大隊ノ下士卒中本年二月分遣ノ者ハ三十四年六月迄在校セシメ同八月分遣ノ者ハ三十五年六月<sup>上等兵ニ在テハ</sup>迄在校セシメ以テ改正規定ニ移ラシム
- 二 騎兵實施學校教導中隊ノ分遣下士卒中本年十二月ニ於テ交代セシメ<sup>兵卒ニ在テハ十一月</sup>迄在校セシメ以テ改正規定ニ移ラシム
- 三 野戰砲兵射擊學校教導大隊ノ分遣下士卒中本年六月ニ於テ交代セシメ他ノ半數ハ三十五年六月迄在校セシメ以テ改正規定ニ移ラシム
- 四 要塞砲兵射擊學校教導大隊ノ下士卒ハ本年十月ニ於テ更ニ分遣シ同下士卒及本年五月分遣ノ兵卒中半數ハ三十四年十月迄在校セシメ他ノ半數ハ三十五年十月迄在校セシメ以テ改正規定ニ移ラシム

○陸軍第八十九號

半形舟運搬用四輪輻重車制式別紙圖面ノ通定 (別紙略ス)

明治三十三年八月二十九日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍第九十號

明治二十五年陸軍第九十號輻重馬具制式別紙ノ通改正ス (別紙略ス) 但シ既ニ製作シタルモノハ其儘使用シ新製ノ分ヨリ改正ス

明治三十三年八月三十一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍第九十一號

明治三十二年陸軍第九十一號雇員備人給料支給規則中左ノ通改正ス

明治三十三年八月三十一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

第一條 第一項ヲ左ノ如ク改ム  
 雇員ノ給料ハ月給又ハ日給トシ其ノ月領金貳拾圓ヲ最上限トス但シ臺灣及韓國駐節部隊ニ在テハ當該給與規則細則ノ規定ニ依ル  
 第二條 削除  
 別表ヲ別紙ノ通改ム  
 (別紙)

備給表

名	稱	月	給	名	稱	日	給
番	病人	二十	二圓	玄	關番	四	十圓
磨	工	二十	十圓	小	使	三	十五圓
蹄	工	十	七圓	押	丁	三	十五圓
庫	手	十	二圓	給	仕	十	八圓
法	取締	十	五圓	府	夫	三	十圓

守	警	取締	十	三	圓	收	手	五	十	圓
守	警	警	十	一	圓	病馬	役	未	四	十
守	警	警	十	二	圓	馬	丁	三	十	五
守	警	警	十	二	圓	馬	丁	三	十	五

備考 本表ノ給額ハ總テ最上限度ニ於テ各官衙ハ當該給額以内ニ於テ適宜備役スルモノトス  
 取締ヲ兼掌スル者ハ其ノ給料ノ外一日金三圓ヲ増給スルコトヲ得  
 屯田兵給與令第四條ニ依リ准士官以上及外宿加俸ヲ受クル下士ニ隊附特別加俸ヲ給スル期間ハ當該隊附着病  
 人ニ限リ其ノ給料ノ外一箇月金二圓以内ヲ増給スルコトヲ得

〔參照〕

陸軍第二十二號雇員給料支給規則(明治三十二年三月十七日)抄録  
 第一條 雇員ノ給料ハ月給又ハ日給トス其ノ月額金貳拾圓(七圓四角五分)ニ在リ最上限度トシ初テ採用ノトキハ金拾貳圓ヲ超過  
 スルコトヲ得ス但臺灣及韓國駐劄部隊ニ在テハ當該給與規則細則ノ規定ニ依ルト雖初テ採用ノトキハ金拾五圓ヲ超過ス  
 ルコトヲ得ス  
 第二條 雇員及傭人ノ給料ハ六箇月一箇年ハ以上勤続ノ者ニ非サレハ増給スルコトヲ得ス但馬丁ハ此限ニアラス

○海軍省達第四百十號

明治二十四年達第八十六號少尉候補生及少機關士候補生乘艦中供用品表左ノ通改

機關室日誌	六	冊	一	艦	二	付	甲板時計	二	箇	一	艦	二	付
六分儀	一	箇	四	名	二	付	三杆分度器	一	箇	一	艦	二	付
六分儀	一	箇	十	名	二	付	航海曆	一	冊	二	名	二	付
人工地平儀	一	箇	十	名	二	付	航海日誌	一	冊	一	艦	二	付
水銀盤	一	箇	十	名	二	付	海風及海流圖	一	冊	一	艦	二	付
							航海ニ必要ノ圖	一	冊	一	艦	二	付
							航海表	一	冊	一	艦	二	付

海軍大臣山本權兵衛

方位表	一	部	十	名	二	付	製圖板	一	枚	四	名	二	付
衣服函	一	箇	一	名	二	付	變位短	一	枚	四	名	二	付
寒暖計	四	箇	一	艦	二	付	三角短	二	枚	二	名	二	付
指壓器	二	箇	一	艦	二	付	ワイヤゲージ	二	箇	一	艦	二	付
秤水器	三	箇	一	艦	二	付	スレッドゲージ	二	箇	一	艦	二	付
秤水器	三	箇	一	艦	二	付	プラニメーター	二	箇	一	艦	二	付
秤水器	三	箇	一	艦	二	付	サーチャイ	二	箇	四	名	二	付
製圖具	一	箇	四	名	二	付							

○海軍省達第四百十一號

恤兵金出納規程左ノ通定

明治三十三年八月十一日

海軍大臣山本權兵衛

第一條 恤兵金ハ軍人ヲ慰恤スルヲ目的トシテ從軍者ニ物品ヲ補給シ其他軍人共濟ノ資金ニ充ツ  
 第二條 恤兵金ハ歳入歳出外現金トシ取扱フモノトス  
 第三條 恤兵金ノ出納ハ經理局課員ヲ出納官吏トシ經理局長ヲシテ之ヲ指揮監督セシム  
 第四條 經理局長ハ第一條ノ目的ヲ果スカ爲メ出納官吏ヲシテ軍人慰恤ノ目的ヲ以テ組織スル社  
 團ノ代表者ニ恤兵金ヲ交附セシム但該社團ハ海軍大臣ノ認可ヲ經テ經理局長之ヲ指定ス  
 第五條 經理局長必要ト認ルトキハ社團ニ對シ資金ノ目的若クハ補給物品ノ種類ヲ指定シ若クハ  
 制限スルコトヲ得  
 第六條 經理局長ハ恤兵金ヲ交附シタル社團ヲシテ交附金額ヲ物品補給資金ト軍人共濟資金トニ  
 區分シ其實況ヲ報告セシムヘシ  
 第七條 經理局長ハ第一條ノ目的ヲ果スニ必要ト認ムルトキハ鎮守府經理部課員ヲ分任官吏トシ

資金ノ出納ヲ爲サシムルコトヲ得此場合ニ於テハ當該經理部長ヲシテ之ヲ監督セシム

第八條 出納官吏ハ現金出納簿ヲ設ケ其受拂ヲ登記スヘシ

第九條 出納官吏現金ヲ出納スルトキハ別紙書式ノ用票ニ出納監督官ノ檢印ヲ得テ出納スヘシ

第十條 出納官吏ハ其執行シタル出納ニ對シ經理局ノ檢査判決ヲ受クル爲メ年度經過後二箇月以

内ニ出納計算書ヲ作り證憑書類ヲ添ヘ經理局ニ送附スヘシ

出納官吏交替ヲ爲シタルトキハ前任官吏死亡其他ノ事故ニ由リ自身計算書ヲ調製スルコト能ハ

サルトキハ臨時命セラレタル官吏計算書ヲ作り交替又ハ命ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ前項

ノ手續ヲ爲スヘシ

第十一條 天災其他ノ事故ニ依リ保管ノ金錢ニ損失ヲ生シタルトキハ出納官吏其ノ事由ヲ詳記シ

出納監督官ニ報告シ該官ハ之ヲ海軍大臣ニ具申スヘシ此場合ニ於テ出納官吏負擔ノ責ヲ免ルヘ

キ理由アリト思料シタルトキハ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ經理局ニ送付スヘシ

第十二條 出納官吏ニ於テ受領シタル現金ハ保管物取扱規程ニ依リ之ヲ金庫ニ寄托スヘシ此場合

ニ於テハ經理局若クハ鎮守府經理部ヲ取扱官廳トシ經理局長若クハ鎮守府經理部長ヲ取扱主任

トス

第十三條 現金出納計算書ノ書式及ヒ證明ニ關スル事項ハ會計檢査院ニ於テ定ムル所ノ歳入歳出

外現金出納證明規程ニ依ル

第一號 用紙美濃十三行紙

第 號	明治何年何月何日	出納監督官	出納官吏
-----	----------	-------	------

恤兵金受入票	恤兵金
一金	内
金	但何々
金	但何々
右受入ヲ要ス	

第二號 用紙美濃十三行紙

第 號	明治何年何月何日	出納監督官	出納官吏
恤兵金支出票	恤兵金		
一金	内		
金	但何々		
金	但何々		
但何々			



右支出ヲ要ス

○海軍省達第四百二十二號

海軍文官進級増俸取扱規則中第五條及第七條ノ書式ヲ左ノ通改ム

明治三十三年八月十四日

海軍大臣山本權兵衛

第五條 文官ノ進級増俸ハ毎年三月一日、九月一日ノ現在員ニ就キ調査シ各其月ノ二十日迄ニ到

達ノ見込ヲ以テ左ノ各號ニ據リ移牒若ハ具狀スヘシ

一 軍令部長鎮守府司令長官艦隊司令長官艦政本部長教育本部長及海軍大臣ニ直隸スル各廳長  
海軍省各局長ハ各其部下文官ノ能否勤怠ヲ調査シ進級若ハ増俸至當ト認ムル者ヲ拔擢シ書  
式ニ依リ海軍大臣ニ移牒若ハ具狀ス

二 海軍大臣ニ直隸スル文官及海軍省總務局ニ屬スル文官ノ拔擢ハ第一號ニ準シ海軍總務長官  
ニ於テ具狀ス

三 侍從武官ニ屬スル海軍文官ノ拔擢ハ首席海軍將校タル侍從武官ニ於テ又東宮武官ニ屬スル  
海軍文官ノ拔擢ハ首席海軍將校タル東宮武官ニ於テ第一號ニ準シ具狀ス

四 鎮守府司令長官艦政本部長及教育本部長ハ各部下廳長若ハ望樓監督官ヲシテ第一號ニ準シ  
順序ヲ經テ具申セシメ其中ニ就キ拔擢具狀スルコトヲ得

書式

文官増俸具申

官別

拔擢順序	現級俸ニ増俸 以來勤務日數		現級俸拜受ノ日		増俸セシム ヘキ級俸	現級俸 氏名
	第一	第二	何年何月何日	何年何月何日		
第一	同	同	何年何月何日	何年何月何日	何級俸	何 某
第二	同	同	同	同	同	同
第三	同	同	同	同	同	同
第四	同	同	同	同	同	同

右拔擢具申ス

年 月 日

海軍大臣宛

職 氏 名 印

一 官別ノ位置ニハ官名ヲ記スヘシ

一 官名同シキ者ハ總テ連名ニテ其異ル者ハ各別紙ニ調製スヘシ

〔参照〕

海軍省達第四百十八號海軍文官進級増俸取扱規則(明治三十年十月二十五日)抄録

第五條 文官ノ進級増俸ハ毎年三月一日、九月一日ヲ以テ調査ノ期トシ其日ノ現在員ニ就キ三月、九月ニ於テ左ノ諸項ニ依  
リ移牒若クハ具狀スヘシ

一 軍令部長鎮守府司令長官艦隊司令長官及海軍大臣ニ直隸スル各廳長海軍省各部長ハ各其部下文官ノ能否勤怠ヲ調  
査シ進級若クハ増俸至當ト認ムル者ヲ拔擢シ書式ニ依リ海軍大臣ニ移牒若クハ具狀ス

一 海軍大臣ニ直隸スル文官及海軍大臣官房ニ屬スル文官ノ拔擢ハ前項ニ準シ海軍次官ニ於テ具狀ス

一 侍從武官ニ屬スル海軍文官ノ拔擢ハ首席海軍將校タル侍從武官ニ於テ又東宮武官ニ屬スル海軍文官ノ拔擢ハ首席海軍  
將校タル東宮武官ニ於テ各前項ニ準シ具狀ス

○海軍省達第四百十三號

海軍軍人俸給加俸支給細則第八條別表下士卒加俸日額表中五錢ノ欄ニ「二等裝創證狀」ヲ四錢ノ欄ニ「二等裝創證狀」ヲ加フ

明治三十三年八月十五日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第四百十四號

氣象觀測通報規程海上氣象通報記註心得中第七號ヲ左ノ通改正シ第十六號ヲ削除ス

明治三十三年八月二十日

海軍大臣山本權兵衛

七 晴雨計及寒暖計ノ度目ハ必ス器差ヲ改正シタルモノヲ記シ其ノ旨ヲ海上氣象通報ノ首ニ附

記スヘシ

〔參照〕

海軍省達第七十三號氣象觀測通報規程(明治三十年六月二十四日)抄録

海上氣象通報記註心得

七 晴雨計及寒暖計ハ其ノ度目ヲ測リ讀取ノ儘ヲ記スヘシ

十六 晴雨計寒暖計ノ器差表ハ左ノ様式ニ依リ必ス海上氣象通報ノ首ニ貼付スヘシ

○海軍省達第四百十五號

明治三十年達第三百二十七號東京外ニ在ル各部官廳艦船團長會計規則第九十一條第一項ノ檢査執行ノ件中左ノ但書ヲ加フ

但シ出納官吏所屬長ト隔絶スルトキハ出納官吏ト同一ノ各部官廳艦船團ニ勤務ノ首席將校本文

ノ手續ヲ爲スヘシ

明治三十三年八月二十七日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第四百十六號

治療品出納規程中左ノ通改正ス

明治三十三年八月二十七日

海軍大臣山本權兵衛

第四條但書ヲ左ノ如ク改ム

但驅逐艦備附小醫療箱ノ取扱主任ハ驅逐艦長海軍望樓備附小醫療箱ノ取扱主任ハ望樓長トス

(表中改正追加アリ略ス)

〔參照〕

海軍省達第三十一號治療品出納規程(明治三十三年三月十五日)抄録

第四條 艦團其他各部ノ治療品取扱主任ハ軍醫長トシ軍醫長ヲ置サルニ在テハ先任軍醫官病院ニ於テハ先任藥劑官トス

但海岸望樓備附小醫療箱ノ取扱主任ハ望樓長トス

○陸達第九十二號

要塞司令部服務規則第三條中「一回三月」<sup>三月</sup>「一回冬期」ニ「參謀總長」ヲ「陸軍大臣及參謀總長」ニ改メラル

明治三十三年九月三日

陸軍大臣子爵桂 太郎

〔參照〕

陸達第二十五號要塞司令部服務規則(明治二十八年四月六日抄錄)

第三條 要塞司令官ハ毎年二月<sup>三月</sup>ニ於テ堡壘砲臺兵器彈藥防禦諸材料其他建築物等ヲ閱視實檢ス之ヲ定期檢閲トス定期檢閲ノ實況ハ所屬長官ヲ經テ參謀總長ニ報告スヘシ

○陸達第九十二號

軍馬補充及育成規則ヲ左ノ通改正ス

明治三十三年九月八日

陸軍大臣子爵桂 太郎

馬匹補充及育成規則

第一條 各師團各學校乘輓馬ノ定期補充馬ハ軍馬補充部ニ於テ幼馬ヲ約五歲迄育成シ且去勢シテ之ニ充ツヘシ但シ購買又ハ發育ノ結果等ニ由リ已ムコトヲ得サル場合ニハ本文規定外ノ馬匹ヲ以テ補充スルコトヲ得

第二條 左ノ馬匹ハ壯馬<sup>(五歲以上)</sup>ヲ購買ノ儘之ニ充ツヘシ

- 一 初度備附馬
- 二 臨時補充馬
- 三 定期補充馬

四 憲兵隊ノ定期補充馬

第三條 臺灣諸部隊乘輓駄馬ノ定期補充馬ハ壯馬ヲ購買シ若干月間軍馬補充部ニ於テ飼養シ且去勢シテ之ニ充ツヘシ

第四條 定期補充馬ノ交付時期ハ左ノ如シ但シ臺灣諸部隊ニ在リテハ臨時之ヲ定ム  
輜重兵隊 五月  
騎兵隊野戰砲兵隊諸學校(野戰砲兵射擊學校騎兵實地學校ハ除ク) 十二月  
野戰砲兵射擊學校 七月  
騎兵實地學校 十一月

第五條 補充馬ノ交付地ハ軍隊學校所在地トス但シ上目黒村及世田ヶ谷村所在軍隊學校ノ爲ニハ上野停車場トス

第六條 軍馬補充部保管馬數ハ定期補充馬數及將校拂下馬數ノ約三倍ニ百分四ノ豫備數ヲ加ヘタルモノトス

第七條 軍馬補充部保管馬ハ牧場内ノ耕作物(天然草ヲ含ム)ヲ以テ飼養スヘシ但シ剩餘トナリタル耕作物ハ之ヲ貯藏シ次年度ノ用ニ供スルコトヲ得

第八條 耕作事業完備ニ至ラス耕作物ノミヲ以テ馬匹ヲ飼養スル能ハサル場合ニ在リテハ購買品ヲ以テ飼養シ又ハ民間ニ預託スルコトヲ得

第九條 育成馬ハ毎年約五箇月間放牧スヘシ

第十條 育成馬ハ交付前若干月間軍隊ノ飼養ニ慣レシメ且軍事的素養ヲ與フヘシ

第十一條 軍馬補充部ニ於テハ必要ノ耕牛馬ヲ繋畜スルコトヲ得

第十二條 耕作事業ハ保管馬數及耕牛馬數ニ基キ計畫スヘシ

○陸軍第九十四號

動員部隊ニ於ケル上等兵及看護手補充ノ特例左ノ通定メラル

明治三十三年九月八日

陸軍大臣子爵桂 太郎

第一條 動員ヲ行ヒタル部隊警備隊ヲ除クニ於テハ平時ノ規定ニ依ルノ外左ノ諸條ニ依リ上等兵憲兵ヲ及看護手ノ補充ヲ爲スコトヲ得

第二條 上等兵ハ入營後十箇月ヲ過キタル現役兵及召集後十箇月ヲ過キタル第一第二補充兵並像備兵後備兵ニシテ品行方正且上等兵タルノ技能アル者ヲ以テ補充ス

第三條 野戰部隊ニ在テ其ノ勤務ノ成績顯著ナル者ハ前條ノ規定ニ依ラス特ニ上等兵ト爲スコトヲ得

第四條 看護手ハ看護學修業兵ニシテ修業期限三箇月ヲ經過シタル者ヲ以テ補充ス

第五條 上等兵及看護手ノ候補者ヲ選定シ並之ヲ命スルノ手續ハ概ネ平時ノ例ニ依ル

○陸軍第九十五號

陸軍兵卒昇級取扱ヲ左ノ通定ム

但明治十八年達乙第三百三十號ハ之ヲ廢止ス

明治三十三年九月八日

陸軍大臣子爵桂 太郎

一 現役二等卒ヲ一等卒ニ二等縫工ヲ一等靴工ニ二等靴工ヲ一等靴工ニ昇級セシムルハ入營後一箇年ヲ過キ且技藝ニ熟シ品行方正ナル者トス

二 動員ヲ行ヒタル部隊ニ在テハ前項ノ期限ヲ十箇月ニ短縮スルコトヲ得

- 三 豫備後備役二等卒、二等縫工、二等靴工ニシテ動員ノ際召集ニ應シタル者ハ第一項ニ照シ一等卒、一等縫工、一等靴工ニ昇級セシムルコトヲ得
- 四 第一第二補充兵ハ初メテ召集ニ應シタル時ヲ以テ陸軍兵卒等級表三級ノモノトシ召集日數平時召集共二回以上ニ及フ者ハ之ヲ通算ス 十箇月ヲ過クル者ハ第一項ニ照シ一等卒、二等縫工、一等靴工ニ昇級セシムルコトヲ得
- 五 一等卒ハ中隊長之ヲ選抜シ聯(大)隊長ノ認可ヲ受ケ命スルモノトシ一等縫工、一等靴工ハ聯(大)隊長自ラ之ヲ命スルモノトス

〔參照〕

明治十八年九月三日陸軍省令第三百三十號ハ陸軍諸兵卒並雜卒諸工進級取扱方ノ件ナリ

○陸軍第九十六號

軍馬ハ牽キ入レ若ハ編入後一箇年間ニ去勢スヘシ但シ將校馬ノ去勢ハ最寄軍隊官術學校ニ於テ擔任スヘシ

明治三十三年九月十一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍第九十七號

見習醫官同藥劑官同獸醫官同軍吏及士官勤務修習中ノ士官候補生ノ背囊、携帶囊、脚絆ハ當該士官ト同一トス

明治三十三年九月十一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍第九十八號

明治二十七年陸軍第九十三號陸軍戰時給與規則細則中左ノ通改正ス

明治三十三年九月二十一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

第二十二條第一項ヲ左ノ如ク改ム

軍人軍屬ノ旅費ハ實費拂トス但シ内地旅行ニ在テ單獨ノ者ハ陸軍旅費規則第一表ノ定額ヲ給シ隊伍ヲ爲ス者ハ同第四表ノ金額ヲ目途トス

同條第二項中「受クル者」ノ下ニ「單獨ニテ」ヲ及「宿泊料」ノ上ニ「第一表」ヲ加フ

○陸軍第九十九號

復員部隊ノ馬匹取扱規則左ノ通相定ム

明治三十三年九月二十五日

陸軍大臣子爵桂 太郎

復員部隊ノ馬匹取扱規則

第一條 本規則ハ復員部隊馬匹將校馬ノ處分方ヲ規定スルモノトス

第二條 馬匹ノ處分ハ復員部隊ノ編成地若ハ陸軍大臣ノ特ニ指定スル地ニ於テ行フヲ例トス

第三條 騎兵砲兵輜重兵隊ノ所要ニ充ツヘキ馬匹左ノ如シ

一 當該戰列隊同補充隊並同後備隊ノ馬匹中最良ナルモノ

二 前號ノ外他部隊ノ馬匹中年齡十歳以下ニシテ隊馬ニ適當スルモノ及戰時事變ノ際ニ於ケル

將校乘馬取扱規則第十六條ニ依リ補充スルモノ

第四條 野戰部隊守備部隊留守部隊等復員ノ時期及地點ヲ異ニスル場合ニ在リテモ亦前條ノ規定

ニ準據スルモノトス

第五條 騎兵砲兵輜重兵隊長ハ第三條第一號馬匹ノ選定ニ關シテハ其責ニ任シ其剩餘馬匹及同條

第二號馬匹ノ交換ニ關シテハ復員馬匹整理委員長ノ區處ヲ受ルモノトス

第六條 騎兵砲兵輜重兵聯大隊ノ一部復員スル場合ニ在リテハ全聯大隊復員ノ場合ヲ顧慮シ現在

馬匹ノ景況ニ應シ其時期迄若干ノ豫備馬匹ヲ特ニ其部隊ニ繋蓄セシムルコトヲ得

第七條 剩餘馬匹ハ賣却スヘシ

第八條 師團長ハ復員馬匹整理委員ヲ編成シ第二條第二號ニ掲クル馬匹ノ選定、交換、馬匹名簿ノ整理、剩餘馬匹ノ賣却及輸送ニ關スル一切ノ事務ヲ取扱ハシムヘシ

第九條 復員馬匹整理委員ノ編成左ノ如シ

委員長 騎砲、輜重兵科上長官 一

委員 騎砲、輜重兵科士官獸醫部上長官士官軍吏 若干

助手 下士卒

第十條 馬匹ノ賣却ハ第二條ノ處分地ニ於テ行フヲ例トス但シ師團長ハ地方ノ便宜ヲ圖リ時トシテ他ニ賣却地ヲ指定スルコトヲ得

第十一條 前條但書ノ場合ニ於テ馬匹ヲ輸送スルニハ三十頭乃至四十頭以内ヲ一班トシ之ニ取締トシテ下士一名及助手トシテ兵卒一名ヲ附スヘシ

第十二條 輸送途中ノ宿泊給養及賣却地ニ於ケル一時繋留ノ準備ハ馬匹徵發ノトキノ例ニ準據スヘシ

第十三條 賣却地迄ノ輸送費ハ左ノ金額ヲ目途トシテ支拂フヘシ但シ日當ハ一日十里詰ノ計算トス

牽夫給料

日當五拾錢

馬匹手當

貳拾五錢 器具、鞍、飼養具共

牽夫ノ宿泊料

一日參拾錢以内

厩損料及繋留料

五錢以内

馬匹飼料

大麥朝一升、夕一升五合 藁一貫目

但シ大麥ノ缺乏スルトキハ相當スル代用品ヲ給スルヲ得

第十四條 委員長ハ事務完了後第一號第二號第三號書式ノ報告ヲ師團長ニ呈シ師團長ハ意見書ヲ添付シテ陸軍大臣ニ報告スヘシ 第一號

隊馬補缺交換員數表

某師團復員馬匹整理委員印

考 備	計	隊 員 數					乘 供 用			要
		騎	砲	輜	重	兵	馬	鞍	馬	
	〃									
	〃									
	〃									
	〃									
	〃									

第二號

馬匹賣却員數表

某師團復員馬匹整理委員印

賣却地方	賣却頭數	平均單價金	額	摘	要
計					
考	注意 摘要ノ區畫ニハ賣却馬匹ノ最高及最低ノ價格ヲ記入スルモノトス				

第三號

馬匹賣却諸費一覽表

某師團復員馬匹整理委員印

賣却地	區分	族費	馬		何々	計	一匹ニ對スル額	摘	要
			馬匹手當	馬飼料概合料日當宿泊料雜件					

考	備	計							

○陸達第百號

本年勅令第三百十二號ニ依ル召集ノ手續左ノ通定ム

明治三十三年九月二十五日

陸軍大臣子爵桂 太郎

- 一 勅令第三百十二號ニ依リ動員ノ際官衙學校及憲兵隊ノ將校同相當官下士以下ノ缺員ヲ補充スルハ召集中ノ者又ハ特ニ當該官衙學校及憲兵隊ニ召集セシ者ヲ以テス
- 二 本手續ニ依リ召集ヲ令スルハ召集條例第三章同施行細則第三章ノ規定ニ依ルモノトス
- 三 師團長ハ陸軍大臣ヨリ召集ノ令達將校同相當官ニ在テハ命課ノ辭令共ヲ受ケタルトキハ本人ニ召集ヲ令シ其ノ辭令ハ適宜ノ方法ヲ以テ本人ニ傳達スヘシ
- 四 召集ヲ令セラレタル下士以下ノ者ニシテ師團長ノ所轄官衙ニ屬スル者ハ師團長其ノ他ノ官衙學校及憲兵隊ニ屬スル者ハ該所屬官衙ニ於テ其ノ所屬ヲ命スルモノトス
- 四 師團長ハ所屬官衙ニ召集中及師管在籍ノ豫備役後備役將校同相當官ヲ以テ其ノ所轄官衙ノ缺

員ヲ補充スルノ必要ヲ認メタルトキハ陸軍大臣ニ申請スヘシ  
補充者下士ナルトキハ師團長直チニ決行シ陸軍大臣ニ報告スヘシ但シ之レカ爲メ特ニ召集ス  
ル者ニ在テハ陸軍大臣ノ認可ヲ請クルモノトス

五 本手續ニ依リ召集セシ者ノ召集諸費ハ臨時費ニ屬ス其ノ支出ハ召集諸費支出規定ニ依ラサル  
モノトス

六 本手續ニ依リ召集セシ者ノ給與ハ陸軍戰時給與規則同細則ノ規定ニ依リ臨時費ニ屬ス但係給  
及當該官衙學校等ノ用務ニ依レル旅費ハ其ノ屬ノ經費ニ屬スルモノトス

○陸達第百一號

今般陸軍服制ノ改正ニ依リ准士官ノ刀刀帶正緒、刀緒改正相成候處下士制度改正以前任官ノ特務  
曹長ニシテ現ニ刀ノ貸與ヲ受ケ居ル者ハ追テ右制式ノモノト引換候マテ從來ノモノヲ佩用セシム  
ヘレ

明治三十三年九月二十七日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸達第百二號

明治二十九年陸達第四十號擔架術教育規則中左ノ通改正ス

明治三十三年九月二十七日

陸軍大臣子爵桂 太郎

第二條第一號及第二號中「軍曹」ヲ「軍曹若ハ伍長」ニ改メ第三號ヲ削ル

第三條第一號中「警備隊」ヲ「警備步兵」ニ改メ同條第四號ヲ削ル

第四條中「警備隊司令官」ハ名簿ニ就キ審査ノ上ヲ「ハ」ニ改メ又ハ「警備隊長」ヲ削ル

第五條中「警備隊司令官」ヲ削ル

第七條中「新兵入營ノ時」ヨリ始ムルモノトス「第一期檢閲ノ際」マテニ終ラシムルモノトス「ニ改ム

第十條中「警備隊司令官」及「八旗團長」ヲ削リ「附與シ」ノ下ニ「順序」ヲ經テ「ヲ加フ

第十一條中「警備隊司令官」ヲ削ル

第十二條中「故」以下ヲ削ル

第十五條中又ハ「警備隊司令官」及「又ハ司令官」ヲ削ル

第十六條但書中「警備隊」ヲ「警備步兵」ニ改ム

卒業證書雛形中「何等軍曹」ノ「何等」ヲ削リ「上等兵」ノ前ニ「伍長」ヲ加フ

〔參照〕

陸達第四十號擔架術教育規則(明治二十九年三月二十八日抄録)

第二條 毎年擔架術ノ修業人員ハ左ノ如シ

一 歩兵ニ在テハ大隊ニ軍曹上等兵各一名、中隊ニ一(二)等卒二名(上等兵ヲ出シタルトキハ一名)號(喇叭)手

二 砲兵ニ在テハ大隊若クハ獨立大隊ニ軍曹一名、大隊ニ上等兵一名、中隊ニ一(二)等卒一名(喇叭)手ナルモ妨ケナシ

三 警備隊ニ在テハ歩砲兵各隊ニ軍曹上等兵各一名(二)等卒二名

第三條 下士卒ノ選拔ハ左ノ諸項ニ依ル

一 兵卒ニ在テハ歩兵ハ上等兵及二年兵(號(喇叭)手ハ三年兵悉皆)野戰砲兵ハ上等兵及二年兵、要塞砲兵ハ上等兵及初年

兵(助卒)警備隊ノ歩砲兵卒ニシテ沈勇懸篤者力アリ且讀解作字ヲ爲シ得ル者ヲ要ス

四 警備隊ニ在テハ下士ハ警備隊司令官兵卒ハ歩砲兵隊長ニ於テ選拔シ名簿ヲ製シ歩砲兵隊長ハ之ヲ司令官ニ呈ス

第四條 聯隊長、獨立大隊長以下之ニ同シ、警備隊司令官ハ名簿ニ就キ審査ノ上下士ニ在テハ自ラ之ニ擔架術修業ヲ命ジ

兵卒ニ在テハ中隊長又ハ歩砲兵隊長ヲシテ之ヲ命セシム

第五條 聯隊長、獨立大隊長警備隊司令官ハ前條ト同時ニ教官ヲ選任スヘシ

第七條 擔架術修業期限ハ凡ソ二箇月乃至三箇月ニシテ毎年新兵入營ノ時ヨリ始ムルモノトス

但シ要塞砲兵ニ在テハ除隊前概テ三箇月間ニ於テスルヲ要ス

第十條 聯隊長、獨立大隊長警備隊司令官ハ卒業ノ期ニ至レハ其檢閲ヲ行ヒ高級教官ヨリ出シタル卒業名簿ニ依リ卒業證書



ヲ附與シ之ヲ師團長ハ其師團ヲ指揮スルモノトス  
 第十一條 聯隊長獨立大隊長警備隊司令官ハ尙擧架術ヲ練熟セシムル爲メ卒業後ト雖トモ應之カ練習ヲナサシムヘシ  
 第十二條 擧架術ノ教育ハ各隊ニ於テス故ニ分遣中隊ニ在テハ所屬聯隊(大隊)ニ合シテ之ヲ行フモノトス  
 第十五條 隊附高級警官ハ隊長又ハ警備隊司令官ノ命ヲ承ケ教育ヲ監督シ教官ヨリ出シタル卒業名簿ヲ審査シ之ニ教育上  
 ノ最良者ヲ添ヘテ隊長又ハ司令官ニ呈シ且其額未ヲ所管軍醫部長ニ報告スルモノトス  
 第十六條 毎年一回預備役及後備役下士兵卒中擧架術ヲ修業シタル者ヲ召集シ之ニ現役中ノ擧架術修業者ヲ加ヘテ衛生隊  
 ヲ編成シ演習ヲ施行ス之ヲ衛生隊演習ト謂フ  
 但砲兵並ニ警備隊ニ在テハ衛生隊演習ハ行ハサルモノトス

○海軍省達第四百四十七號

海軍望樓規則左ノ通定ム

明治三十三年九月一日

海軍大臣山本權兵衛

海軍望樓規則

第一條 海軍望樓所掌ノ事務ヲ細別スルコト左ノ如シ

- 一 海面上ニ於ケル出來事ノ見張ニ關スルコト
- 二 艦船ノ通過ニ關スルコト
- 三 艦船トノ通信ニ關スルコト
- 四 氣象觀測ニ關スルコト
- 五 天氣豫報及暴風警報ニ關スルコト
- 六 海難報告ニ關スルコト

第二條 海軍望樓ニ於テ内外國ノ軍艦及水雷艇若ハ西洋形船舶ノ通過スルヲ認メタルトキハ軍艦  
 及水雷艇ニ在テハ之ヲ所管鎮守府司令長官ニ電報シ西洋形船舶ニ在テハ之ヲ日誌ニ記入スヘシ

但シ小形定期航船ハ此ノ限ニアラス

要港附近ノ海軍望樓ニ在テハ又本條ニ依リ要港部司令官ニ電報スヘシ

第三條 海軍望樓ハ所管鎮守府外ノ官廳其ノ他ヨリ船舶通過ニ關シ照會ヲ受ケルトキハ之ニ應ス  
 ルコトヲ得

第四條 海軍望樓附近ヲ通過スル船舶萬國船舶信號旗ヲ以テ其ノ信號符字ヲ表示セシトキハ萬國  
 船舶信號旗ノ回答旒ヲ掲揚シテ之ニ答フヘシ

第五條 氣象觀測及其ノ通報等ニ關スルコトハ別ニ之ヲ定ム

第六條 海軍望樓ニ於テ暴風警報電報ヲ受ケタルトキハ海軍氣象信號法ニ依リ其ノ信號標ヲ掲ゲ  
 且其ノ附近ヲ通過スル海軍艦船ニ暴風警報ヲ信號スヘシ但シ解報電報ヲ受ケタルトキハ信號標  
 ヲ卸下スルモノトス

海軍望樓ニ於テ其ノ附近ヲ通過スル海軍艦船ヨリ天氣豫報ヲ通報スヘキ要求ヲ受ケタルトキハ  
 海軍氣象信號法ニ依リ豫報信號標ヲ表示スヘシ

第七條 海軍望樓ニ於テ海難船舶ヲ發見シタルトキハ其ノ船舶ノ名(船舶名ヲ知ルコト能ハサル  
 トキハ其ノ外形特徴及塗色等)所屬國名(外國船舶ノ場合)難破ノ模様若ハ見失ヒタル時刻方位  
 等ヲ詳ニ所管鎮守府ニ電報シ時宜ニ依リ地方廳若ハ附近水難救濟會ノ救難所ニ通報スヘシ  
 前項ノ外尙ホ官廳其ノ他ヨリ海難ニ關シ照會ヲ受ケルトキハ之ニ應答スルコトヲ得

第八條 海軍望樓ト船舶トノ通信ハ海軍信號手旗信號「セマホア」信號若ハ萬國船舶信號ニ依リ之  
 ヲ行フ

第九條 海軍望樓ニ於ケル電信取扱法ハ特ニ掲載スルモノヲ除クノ外總テ普通電信取扱規則ニ依  
 ル

第十條 海軍望樓ヨリ普通電信線ニ連接シテ發スル電報料ハ別ニ定ムル所ニ依リ支拂フモノトス  
又普通電信局ヨリ發送シテ軍用電信線ニ連接スルモノハ普通電信取扱規則ニ依ルモノトス  
第十一條 陸海軍軍人及各大臣樞密院議長各省總務長官宮内次官ハ海軍望樓軍用電信ニ依リ官報  
ヲ發著シ又事ノ緊急ナルモノハ至急若ハ特別至急電報トシテ取扱ヲ求ムルコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テ發信者ハ其ノ官職氏名及勤務ノ場所ヲ望樓長ニ通知スルモノトス望樓長ハ之  
ヲ望樓監督官ニ報告スヘシ

第十二條 海軍望樓ニ於テ外國艦艇出入港報告ノ責任ヲ有スル者ヨリ發電ノ依頼ヲ請求サレタル  
トキハ軍用電信ニ依ルヲ便宜トスル場合ニ於テ之ヲ承諾スヘシ  
第十三條 海軍望樓ニハ左ノ日誌ヲ具フ

望樓日誌

信號日誌

電報日誌

第十四條 望樓日誌ニハ海面上ノ出來事ノ外本則第二條及第七條ニ依リ報告セル詳細ナル事其ノ  
他必要ナル事項ヲ記錄シ置クヘシ

信號日誌ニハ總テ發受セシ一切ノ信號ヲ記錄シ置クヘシ

電報日誌ニハ總テ取扱タル電報ノ發受日時及音信文字ヲ記錄シ置クヘシ

第十五條 望樓長ハ常ニ所掌ノ事務ヲ整理シ鎮守府望樓監督官ニ對シテ其ノ責ニ任シ紀律ノ維持  
規則ノ履行及物品ノ節約ヲ努ムヘシ

第十六條 望樓長ハ望樓手ヲ督シ日夜望樓事務ノ空廢遲滯セサルコトニ注意シ特ニ通信信號ノ敏

速ニ行ハルルコトヲ圖ルヘシ

第十七條 望樓長ハ祕密圖書ヲ保管シ又器具ノ整頓ヲ圖ルヘシ

第十八條 望樓長ハ望樓勤務ノ事ニ關シテハ一切祕密ヲ嚴守シ時々望樓附近ヲ巡回警戒シ又部外  
ノ者ヲシテ漫ニ構内ニ入ラシムヘカラス

第十九條 望樓長ハ毎月頭郵便電信局ヨリ送付スル電報料手數料請求書ヲ調査シ本則第十三條ニ  
示セル諸日誌ヲ併セ速ニ望樓監督官ニ進達スヘシ

第二十條 望樓長ハ常ニ醫務衛生ノコトニ注意シ部下ヲ戒飭スヘシ

第二十一條 第三條第七條第二項ノ通信及第六條第一項中警報信號標掲揚ノ件ハ必要ト認メタル  
場合ニ於テハ之ヲ停止スルコトアルヘシ

附則

第二十二條 明治二十七年達第百三十二號及同第百三十三號ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治二十七年ハ海軍省達第百三十二號ハ海岸望樓軍事通信規程同第百三十三號ハ海岸望樓軍用電信取扱規則ナリ

○海軍省達第百四十八號  
海軍氣象信號法別冊ノ通定ム

明治三十三年九月一日  
海軍大臣山本權兵衛

但別冊ハ必要ノ向ヘ配付ス (別冊略ス)

○海軍省達第百四十九號  
通常物品出納命令官會計官吏表中新原採炭所ノ部會計官吏ノ欄「採炭所書記」トアルヲ「主計長」ニ

改

明治三十三年九月五日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第五百十號

艦船外國又ハ司令長官ト遠隔ノ地ニ在ルトキハ至急ヲ要スル事件ハ海軍大臣ヨリ直接同地ニ於ケル同所管ノ首席海軍指揮官ニ通達シ同時ニ其旨ヲ其司令長官ニ通告ス又該首席指揮官ハ至急ヲ要スル事件ハ直接海軍大臣ニ報告又ハ申請シ同時ニ其旨ヲ司令長官ニ報告スヘシ

明治三十三年九月五日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第五百一十一號

雜役船舟還納及賣却手續中「軍港部長」ヲ「豫備艦部長」ニ「軍港部」ヲ「豫備艦部」ニ「軍務局長」ヲ「艦政本部」ニ「軍務局」ヲ「艦政本部」ニ改ム

明治三十三年九月十日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第五百五十二號

職工用被服物品貸與規程中左ノ通改正ス

明治三十三年九月十二日

海軍大臣山本權兵衛

職工用被服物品製式ヲ左ノ通改ム

品名	地質	及製式
職工用 專業服 上衣	帆布製胸ニ麻紐ヲ附ス但シ麵包器械工、麵包夫ニ食與ノモノハ白綿布製	
職工用 專業服 下衣	帆布製上部ニ麻紐ヲ附ス但シ麵包器械工、麵包夫ニ食與ノモノハ白綿布製	
職工用 專業服 袴	帆布製上部ニ木綿紐ヲ附ス	
職工用 專業服 袴	帆布製後部ニ麻紐ヲ附ス	
職工用 專業服 袴	眞鍮製椭圆形工場名及番號(組長ハ組ノ字)ヲ附ス	
職工用 專業服 袴	帆布製胸當、膝當ノ二種トシ單製麻紐ヲ附ス	
職工用 專業服 袴	木綿八枚重製、帆布紐ヲ附ス但シ中切ハ古物ヲ用ユ	
職工用 專業服 袴	綿布製	
職工用 專業服 袴	木綿製胸部ノ左右ニ木綿紐ヲ附ス	
職工用 專業服 袴	帆布製麻紐ヲ附ス	
職工用 專業服 袴	帆布製	
職工用 專業服 袴	帆布製	
職工用 專業服 袴	帆布製	

製藥職工用專業服上衣	木綿單製腰襟、角製釦一行五箇ヲ附ス
麵包器械工用專業服袴	帆布製上部ニ麻紐ヲ附ス但シ麵包器械工、麵包夫ニ食與ノモノハ白綿布製
麵包夫用專業服袴	木綿製上部ニ木綿紐ヲ附ス
製藥職工用專業服袴	帆布製後部ニ麻紐ヲ附ス
帽 前 章	眞鍮製椭圆形工場名及番號(組長ハ組ノ字)ヲ附ス
職工用專業服前掛	帆布製胸當、膝當ノ二種トシ單製麻紐ヲ附ス
職工用 前 掛	木綿八枚重製、帆布紐ヲ附ス但シ中切ハ古物ヲ用ユ
麵包器械工用 前 掛	綿布製
製藥職工用前掛	木綿製胸部ノ左右ニ木綿紐ヲ附ス
手 蓋	帆布製麻紐ヲ附ス
機關煙筒掃除用頭巾	帆布製
鍛冶工業用頭巾	麻布製
造船工業用頭巾	麻布製
備 考	實際必要ノ數ヲ準備供給ス 麵包器械工、麵包夫用專業服及前掛ハ兵備品中不用ニ歸シタルモノ、アル限り之ヲ充用スルコトヲ得

(製式圖中改正追加アリ略ス)

○海軍省達第五百三十三號  
雇員備人規則第三條左表中倉庫丁ノ欄「測器庫」ノ下ニ「下瀬火藥製造所」ヲ加ヘ同條別表中「吾妻」ノ次ニ左ノ欄ヲ追加ス

明治三十三年九月十二日

海軍大臣山本權兵衛

警	手	柔道	教員	從	僱給	仕	制	夫	制	蒸
					一	八		三		一

○海軍省達第五百三十四號

鎮守府會計監督規程中左ノ通改正ス

明治三十三年九月十三日

海軍大臣山本權兵衛

第三條第二號ノ次ニ左ノ第二號ノ二ヲ加フ

二ノ二 物品會計規則第十條ノ二ノ二ノ検査ヲ爲シ其ノ調書ヲ作ルコト

第九條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第三條第二號ノ二ノ二ノ調書ハ四年毎ニ之ヲ作り海軍大臣ニ出スヘシ

附則

本令ハ明治三十三年七月勅令第三百十八號施行ノ日ヨリ施行ス

○海軍省達第五百三十五號

明治三十年達第五百二十六號中東京ニ在テハ左ニ掲クル事項ヲ經理局ノ所掌トスヲ「左ニ掲クル事項ハ東京ニ在テハ經理局ノ所掌トシ新原ニ在テハ佐世保鎮守府經理部ノ所掌トス」ニ改メ第二號ノ次ニ左ノ二號ノ二ヲ加フ

二ノ二 物品會計規則第十條ノ二ノ二ノ検査ヲ爲シ其ノ調書ヲ作ルコト

明治三十三年九月十九日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第五百三十六號

明治二十四年達第八十四號貸與品表中左ノ通改正ス

明治三十三年九月二十日

海軍大臣山本權兵衛

貸與品表中「寒暖計」同ヲ削除シ三角矩ノ次ニ左ノ四廉ヲ加フ

線計 ワイヤゲージ パーミンングハム 同 螺旋計 スレッドゲージ 同 顯積計 ブロンマイター 同 探隙 サニチヤ 同

○海軍省達第五百三十七號

明治三十年達第五百二十六號別表中「新原採炭所」ノ支出收入ヲ「海軍採炭所」ノ支出收入ニ「新原採炭所長」ヲ「海軍採炭所長」ニ「新原採炭所書記」ヲ「海軍採炭所主計長」ニ改ム

明治三十三年九月二十四日

海軍大臣山本權兵衛

〔參照〕

明治三十年十月海軍省達第五百二十六號ハ海軍省所管收入並經費ニ係ル所屬區分及委任仕拂命令官歳入徴收官收入官定ノ件ナリ

○海軍省達第五百三十八號

海軍外國旅費規則第五條中第一項ノ下ニ「第一項ノ二」及「ヲ加ヘ第一ノ次ニ左ノ一項ヲ追加ス

一ノ二 艦船ノ乘員公暇上陸中本艦船出航ノ爲メ追尾歸艦スルトキ

明治三十三年九月二十四日

〔參照〕

海軍省達第四百十九號海軍外國旅費規則(明治三十年十月二十六日)抄録

第五條 左ノ事項ニ該ルトキハ汽車料船舶料ハ定額トシ客舎料食卓料ハ旅費等級ノ区分ニ從ヒ各定額以内ノ實費ヲ支給シ

日當ハ第一項第二項ニ在テハ各其ノ定額ノ半額ヲ支給シ第三項ニ在テハ之ヲ支給セス但第三項ノ場合ニ於テ休憩料機橋

料解舟料ヲ要スルトキハ實費ヲ以テ支給スルコトヲ得

一 外國ニ在ル艦船艇ノ乘員陸地療養ノ未歸國者ハ歸艦スルトキ

二 刑事被告事件ニ依リ歸國者ハ歸艦スルトキ

三 行軍及隊伍ノ旅行者ハ隊外員其ノ職務ヲ以テ旅行スルトキ

○會計検査院達第二號

物品出納計算書提出ノ期限左ノ通定ム

明治三十三年九月二十九日

會計検査院長男爵内海忠勝

物品會計規則第十五條ニ依リ物品會計官吏ノ調製スル物品出納計算書ハ年度經過後又ハ物品會計

官吏交替後二箇月以内ニ之ヲ本屬大臣ニ差出スヘシ

物品出納計算書ノ下検査ヲ執行スル官吏ハ其受領ノ日ヨリ一箇月以内ニ之ヲ會計検査院ニ送付ス

ヘシ

○宮内省達甲第四號

一宮内省官制第四十三條中主獵局監守ノ次ニ左ノ一項ヲ追加ス

主獵局鷹匠長 准判任四等以下

一宮内省官制第五十條丁表中主獵局監守ノ次ニ鷹匠長ノ一項ヲ追加シ其ノ俸給ヲ三十五圓以下ト

定ム

明治三十三年十月四日

奉 勅

宮内大臣子爵田中光顯

○陸達第百三號

明治二十八年陸達第八十號中左ノ通改正ス

明治三十三年十月一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

達文ニ左ノ但書ヲ追加ス

但シ臺灣ニ於テ採用シタル看病人ノ給料モ亦別表ニ依ル

別表ヲ左ノ通改ム

(別表)

名	稱	月	額
看	病	人	金 十 四 圓

一 本表ノ給額ハ最上限トス

二 本表ニ依リ給料ヲ給スルハ派遣者ハ乗組ノ命ヲ受ケタル當日ヨリ歸著當日迄トス

三 本表ニ依ル支給上ノコトニ關シテハ雇員傭人給料支給規則ヲ適用ス

(參照)

明治二十八年七月陸達第八十號ハ臺灣其他海外派遣者クハ病院船乗組ヲ命シタル看病人給料ノ件ナリ

○陸軍部第四號

兵器取扱規則中別紙ノ通第三表兵站電信隊器具ノ次ニ軍豫備電信器具及第四表兵站電信隊材料ノ次ニ軍豫備電信材料ヲ加フ (別紙略ス)

明治三十三年十月一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍部第五號

外國駐在員規則別冊ノ通定ム

明治三十三年十月四日

陸軍大臣子爵桂 太郎

(別冊)

外國駐在員規則

第一章 駐在員

- 第一條 駐在員ハ陸軍總務長官ニ隸ス
- 第二條 駐在員ノ任務駐在期限及駐在手當ノ金額等ハ總務長官ノ與フル訓令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三條 總務長官ハ臨時命ヲ授ケ駐在員ヲシテ訓令以外ノ事項ヲ調査セシムルコトアルヘシ
- 第四條 駐在員ハ訓令ノ實施ニ關シ諸事駐在員取締ノ指揮ヲ受クルモノトス
- 第五條 駐在員出發前或ハ歸朝後ニ於ケル願届報告等ハ機密課長ヲ、駐在地ニ於ケル願届報告申請等ハ駐在員取締ヲ經テ總務長官ニ差出スヘキモノトス
- 第六條 駐在員ハ受命ノ日ヨリ一箇月以内ニ出發赴任シ又駐在ノ期滿ルカ或ハ特ニ歸朝ヲ命セラレタルトキハ其ノ翌日ヨリ二週日以内ニ駐在國ヲ出發歸朝スヘシ
- 第七條 駐在員駐在國ニ到著シタルトキハ直ニ駐在員取締ニ届出テ諸事之ニ稟議スヘシ
- 第八條 駐在員ハ受ケタル任務ノ實行ニ關シ駐在地ヲ離ルル七英里以上ノ地ニ派遣若ハ移轉スルノ必要ヲ認ムルトキハ事由ヲ具シ旅費豫算書ヲ添ヘテ申請スヘシ、但シ豫メ許可ヲ請フノ暇ナ

キトキハ駐在員取締ノ指揮ヲ仰クヘシ

第八條 駐在員ハ本邦出發及歸朝ノ節又ハ駐在地ニ到著シタルトキ及宿所ヲ轉シタルトキハ出發歸朝、到著及轉宿等ヲ差出スヘシ

第九條 駐在員任務上乗馬ヲ必要トスルトキハ事由ヲ具シ官馬貸與ヲ申請スヘシ但シ特別ノ事情ニ由リ豫メ申請スルノ暇ナキトキハ駐在員取締ノ指揮ヲ仰クヘシ

第十條 官馬貸與ヲ受ケタルトキハ官馬牽入届ヲナシ又貸與ノ官馬不用トナリタルトキハ直ニ駐在員取締ヘ返納シ官馬手放届ヲ差出スヘシ

第十一條 調査修學上必要ノ圖書器械等ハ駐在員ノ自辨ニ屬スト雖トモ若シ高價ニシテ購得シ難キトキハ品目代價ヲ詳記シ官費購入ヲ申請スヘシ官費購入ノ圖書器械等ヲ貸與セラレタルトキハ借用證書ヲ出シ歸朝ノ上該物件ヲ返納スヘシ

第十二條 駐在員調査又ハ修學ニ關シ功勞多キ外人ニ對シ敍勳ヲ請フヘキ必要ヲ認ムルトキハ事由ヲ具シ稟申スヘシ

第十三條 駐在員ハ毎年一月、七月ノ初旬ニ於テ過去六箇月間ノ事業ト將來豫期ノ事業トヲ記載シタル簡單ナル學業報告ヲナスノ外前期間ニ於テ研究調査セシ事項ヲ詳細ニ記述シタル調査報告書ヲ送呈スヘシ

第十四條 前項ノ他軍事上有益ナル事項及臨時調査ヲ命セラレタル事項ハ時々速ニ詳報スヘシ

第十五條 最後ニ於ケル學業報告及終末調査報告書ハ駐在員歸朝届ト同時ニ差出スヘシ

第二章 駐在員取締

第十五條 駐在員取締ハ公使館附陸軍武官ヲ以テ之ニ充テ總務長官ニ隸ス

第十六條 駐在員取締ハ駐在員ヲ督勵シテ其ノ訓令任務ヲ果サシムルヲ以テ任トス之ヲ爲メ總務長官ハ右訓令ヲ取締ニ通告ス

第十七條 取締事故アリテ任地ヲ離ルルトキ或ハ費用ニシテ止ヲ得サルトキハ駐在員中適任ノ者ヲ指定シ之ヲシテ其事務或ハ事務ノ一部ヲ代理セシムルコトヲ得然ルトキハ其ノ氏名ヲ届出ツヘシ

第十八條 毎年二回駐在員ヨリ出ス所ノ學業報告ニ駐在員ノ勤怠、學業進歩ノ程度及將來ニ於ケル見込等ヲ附記シテ進達スヘシ

第十九條 駐在員中任務ヲ達スルノ目的ナキ者アルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ具申スヘシ

第二十條 駐在員ヲ指名セスシテ訓令以外ノ事項ノ調査ヲ命セラレタルトキハ取締ハ駐在員中適任ノ者ヲ選ヒ之ヲ命スヘシ

第二十一條 駐在員固有ノ訓令ニ可成妨害ヲ與ヘサルコトニ注意スヘシ  
但シ駐在員ヨリ差出ス所ノ願届申請等ノ書類ハ精密ニ之ヲ調査シ自己ノ意見ヲ附シテ進達スヘシ但シ事急ヲ要シ指令ヲ待ツノ暇ナキ時ハ自ラ責ニ任シテ處分シ然ル後速ニ報告スヘシ

第二十二條 駐在員ノ事ニ關シ出張ヲ要スルトキハ旅費豫算書ヲ添ヘ其ノ事由ヲ申請スヘシ

第二十三條 駐在員ノ任務實行ニ關シ特ニ盡力教導ノ功勞アル外人ニ對シ招待及贈與ノ必要アリト認ムルトキハ深ク其ノ事由ヲ調査シ費用概算書ヲ添ヘテ申請スヘシ

第二十四條 前條ト同一ノ旨趣ニ據リ外人ニ對シ敍勳ヲ請フヘキ必要ヲ認ルトキハ事由ヲ具シ總務長官ニ稟申スヘシ  
又駐在員ヨリ外人ニ敍勳ノ稟申アルトキハ精確ニ調査シ意見ヲ附シ進達スヘシ但シ此等敍勳ニ關シテハ豫メ我駐在公使ニ稟議シ其ノ同意ヲ得ルヲ要ス

第二十五條 駐在員取締ハ駐在員ヘ貸與セシ馬匹及圖書器械等ノ監守ノ責ニ任シ常ニ其ノ所在ヲ詳ニシ毎年三月三十一日現在關ヲ報告スヘシ

第三章 經費

第二十六條 駐在員ニ係ル經費ハ俸給、宅料、外國駐在員費、出役手當、歸朝手當、旅次手當、駐在手當、圖書及印刷費、通信運搬費、雜費トス

第二十七條 俸給及宅料ハ六月九月十二月及三月ノ下旬ニ於テ過去三箇月分ヲ本人駐在地ヘ送附ス但シ留守宅ニ於テ受領セントスル者ハ出發前受領人ヲ定メテ出願スヘシ然ルトキハ毎月定日之ヲ支給ス

第二十八條 駐在手當馬飼料ハ年三回ニ分チ駐在員取締又ハ駐在員ニ送附ス即チ四月乃至七月ノ四箇月分ハ一月下旬前渡金ヲ以テ八月乃至十一月ノ四箇月分ハ五月下旬ニ十二月乃至三月ノ四箇月分ハ九月下旬ニ於テ前金渡ヲ以テ發送ス

第二十九條 駐在員取締又ハ駐在員金額ヲ受領スルトキハ直ニ其ノ爲替ヲ發送シタル金庫ヘ宛テ領收證ヲ送附スヘシ

第三十條 駐在員第七條ノ派遣若クハ移轉ヲナシタルトキハ派遣手當及汽車、船舶、車馬料ノ實費ヲ精算シ仕拂請求書書式第二號ヲ、其ノ他ノ費用ハ原證書外國文ナレヲ以テ請求スヘシ但シ年度末ニ係ル分ハ必ス四月初旬ニ於テ發送スヘシ

駐在員取締ノ旅行ニ關スル費用ノ請求モ亦同上ノ手續ニ依ル  
汽車賃船賃ハ佐官以上一等、尉官二等ノ割ヲ以テ支給スルヲ例トス但シ各國ノ狀況ニ由リ此例ニ準據シ難キトキハ其ノ事由ヲ具シテ請求スヘシ

第三十一條 駐在員取締ノ職務ニ要スル郵便電信料ハ數箇月分ヲ取纏メ仕拂請求書<sup>書式第 四號</sup>ヲ以テ其ノ他ノ費用ハ原證書<sup>外國文ナレバ翻譯英文共</sup>ヲ以テ請求スヘシ但シ年度末ニ係ル分ハ必ス四月初旬ニ於テ發送スヘシ

第四章 前渡金及收入金ノ取扱

第三十二條 駐在手當馬飼料其ノ他ノ金額ニシテ年度開始前又ハ其ノ費額豫メ確定シ難キモノニシテ臨時送附ノ必要アルモノハ豫定金額ヲ前渡金トシテ駐在員取締若クハ駐在員ニ送附ス

第三十三條 駐在員取締又ハ駐在員ヲシテ前渡金及收入金ノ取扱ヲ爲サシムル場合ニ於テハ總務長官ハ駐在員取締又ハ駐在員ニ臨時出納官吏ヲ命スルモノトス

第三十四條 前渡金ヲ受タル駐在員取締又ハ駐在員ハ其ノ出納ニ關シ會計法及會計規則ニ於ケル出納官吏ノ責任ヲ有ス又會計検査院達仕拂證明規程ニ據リ其ノ仕拂ヲ證明スヘキモノトス

第三十五條 駐在員取締又ハ駐在員ハ前渡金ノ出納ヲ登記スル爲メ豫メ現金出納簿ヲ受領シ置キ前渡金ヲ受ケタルトキ其ノ出納ヲ詳記スヘシ

第三十六條 駐在員取締又ハ駐在員前渡金ノ仕拂ヲ終リタルトキハ仕拂計算書<sup>書式第 五號</sup>ニ證書類ヲ添ユルノ外受拂計算表<sup>書式第 六號</sup>ヲ調製シ仕拂後一週日以内ニ機密課長ニ宛發送スヘシ但シ仕拂計算書受拂計算表ノ用紙ハ必要ノ都度之ヲ送附ス

駐在員ニ支給スル所ノ手當等ノ金額ハ各本人ノ受領證書<sup>捺印ヲ要スルモノトス</sup>前渡金ニ殘餘ヲ生シタルトキハ直ニ返納ノ手續ヲナスヘシ

第三十七條 駐在員ニ貸與セシ馬匹不用ナルヲ認ムルトキハ駐在員取締ハ賣却ノ旨ヲ總務長官ニ申請シ認可ヲ得テ之ヲ賣却シ收入官吏ノ資格ヲ以テ其ノ代價ヲ收納シ陸軍省所管歲入收納取扱

規程ニ據リ處分スルモノトス

不用トナリタル馬匹ニシテ若干日ノ後更ニ入用ノ見込アルトキハ駐在員取締ニ於テ引續飼養スルコトヲ得但シ其ノ趣ヲ報告スヘシ

書式第一號

勳何等何章

本人所有勳章

自國ノ部

1. .... (原文)

2. .... (同上)

3. .... (同上)

外國ノ部

1. .... (原文若クハ片假名)

2. .... (同上)

3. .... (同上)

右云々(印章ニ關シテ特別ノ規定)頭書ノ通叙勳ノ御證據相成度此段及真申候也

年月日

何國駐在員取締(駐在員)

陸軍總務長官爵氏名殿

官 氏 名 印



書式第二號

派遣手當仕拂請求書

旅行ノ性質		年月日	發著	經路	旅日	行帶	數在
何年何月何日	何地出發		何地何地	何地何地			
何年何月何日	何地到著						
自何年何月何日							
至何年何月何日							
何年何月何日	何地出發		何地何地	何地何地			
何年何月何日	何地到著						
合計					三		四
右派遣手當何日分請求候也							
何國駐在員							
官 氏 名 印							
年月日							

書式第三號

汽車(汽船)(馬車)料仕拂請求書

旅行ノ性質		年月日	經路	金額	限
何年何月何日	至自	何何	何地	何等汽車料獨貨何麻何布	

備考 駐在地ヲ離ル、コト七英里以内ナルトキハ支給スルヲ得ス

書式第四號

郵便電信料仕拂請求書

發信地宛名	年	月	金額
何地ヨリ 駐在員へ	何年	何月分	郵便料獨貨何布
何地ヨリ 陸軍省へ	何年	何月分	郵便料獨貨何布
何地ヨリ 中央金庫へ	何年	何月分	郵便料獨貨何布
何、	何年	何月分	郵便料獨貨何布
何、	何年	何月分	電信料獨貨何麻何布

備考 旅行中各種ノ貨幣ヲ仕拂タルトキハ現駐在國ノ貨幣ヲ以テ送金スルモノトス 駐在地ヲ離ル、コト七英里以内ナルトキハ支給スルヲ得ス

右請求候也

何國駐在員

官 氏 名 印

年月日

書式第五號

合計 獨資何種何布  
但シ一時私金ヲ以テ仕拂ノ分  
右請求候也

年月日

何國駐在員取締

官 氏名印

明治 何 年度

何年何月(自何月日至何月日)

歳出經常部

軍事費

仕 拂 計 算 書

證憑書何册

陸軍省總務局

前月迄 仕 拂 額	本月仕拂額		本月回収額		計		残 額		備 考
	圓	銭	圓	銭	圓	銭	圓	銭	
0		0		0		0		0	
0		0		0		0		0	
0		0		0		0		0	
0		0		0		0		0	

明治何年度何月 (自何月日至何月日) 仕拂證明候也

職官氏名印

會計検査院長宛

明治何年何月何日

前月迄		本 月		本 月		計		摘 要
領 收 額		領 收 額		返 納 額				
圓	銭	圓	銭	圓	銭	圓	銭	經 常 部
0		0		0		0		軍 事 費
0		0		0		0		何々(項)
								何々(目)
								何々(目)
								計
								合計

書式第六號

明治 年度	受拂計算表		名
	元	角	
項 目	預收月高	預收月高	返納高
	預收月高	預收月高	
計	計	計	殘高
	計	計	
合 計	計	計	

右前渡金受拂ノ通相違無之候也

年 月 日

官 氏 名 印

○陸軍第六百六號

外國留學生規則別冊ノ通定ム

明治三十三年十月四日

陸軍大臣子爵桂 太郎

(別冊)

外國留學生規則

- 第一條 陸軍在職武官ニシテ私費ヲ以テ外國ニ留學セント欲スル者ハ目的並留學ノ年限等ヲ詳記シ所管長官ヲ經テ陸軍大臣ニ願出ヘシ
- 第二條 所管長官ハ前條出願者ノ學術性行體力及財產等ヲ調査シテ能ク留學ノ目的ヲ達シ得ヘシト確認スルトキハ狀ヲ具シテ留學願書ヲ陸軍大臣ニ進達スヘシ
- 第三條 陸軍大臣ハ前條ノ手續ニ由リ留學ノ願書ヲ受理スルトキハ更ニ本人ノ性行學術等ヲ考査シ然ル後許否ヲ決裁ス
- 第四條 留學ヲ許可セラルルト同時本人ハ原所管定員外ニ置カレ又ハ休職ヲ命セララルルモノトス
- 第五條 陸軍休職武官ニシテ私費ヲ以テ外國留學ヲ出願スル者アルトキハ前條ノ手續ニ準據スヘシ但シ留學ヲ許可スル時休職ノ位地ヲ變スルコトナシ
- 第六條 在職武官ニシテ留學許可ノ際休職ヲ命セラレタル者ノ留學年月ハ休職年限年ニ算入セサルモノトス
- 第七條 休職武官ニシテ留學ヲ許可セラレタル者ノ留學年月ハ休職年限年ニ算入スルモノトス
- 第八條 原所管定員外ノ留學生ニハ職務俸ヲ支給セス但シ實役停年ノ計算ハ定員内ノ在職者ニ異ルコトナシ

- 第七條 留學生ハ原所管定員外ニ置カルル者ト休職者タルトニ拘ラス修學上ノ事ニ關シテハ總テ陸軍省總務局ノ管理ニ屬スルモノトス
- 總務長官ハ留學生ノ出發前之ニ所要ノ訓令ヲ與フ
- 第八條 駐在員取締ヲ置カルル國ニ留學スル武官ハ駐在員同様諸事同取締ノ指揮ヲ受クヘシ
- 第九條 留學中ハ毎年一月及七月ニ於テ學術調査報告ヲ駐在員取締ヲ經テ(取締ヲ置カサル國ニ於テハ本人ヨリ直ニ)總務長官ニ宛テ發送スヘシ
- 其他必要ノ事項ハ臨時速カニ同長官ニ報告スヘシ
- 第十條 留學ヲ出願スルトキハ必ス財產アル者ニ名ヲ保證人ト爲シ保證狀、旅費及學資金支出明細書並ニ留學保護金證書ヲ願書ニ添ヘテ差出スヘシ
- 第十一條 學資ハ武官タルノ體面ヲ保チ修學スルカ爲少ナクモ一箇年金千貳百圓(清國及韓國ニ在テハ金六百圓)ヲ要スルヲ以テ前條旅費及學資金支出明細書ニハ必ス之ヨリ少ナカラサル金額ヲ支辨シ得ルコトヲ明記スヘシ
- 第十二條 留學保護金ハ金千圓(清國及韓國ニ在テハ金五百圓以上)トシ現金又ハ公債證書ヲ以テ納メシム
- 但シ公債證書ヲ以テ納ムルトキハ出納官吏身元保證金代用價格ニ依リ之ヲ算出スルモノトス
- 第十三條 前條ノ手續ヲ爲スカ爲メ本人ハ留學ヲ許可セラレタル後經理局ヨリ寄托通知書ヲ受領シ此ノ通知書ト共ニ現金又ハ公債證書ヲ中央金庫ニ納付シ而同金庫ノ保管證書ヲ更ニ經理局ニ差出シ同局ヨリ之ニ對スル預リ證ヲ受領スヘシ
- 前項中央金庫ノ保管證書ハ陸軍省經理局ニ於テ保管シ本人歸朝ノ後返付スルモノトス
- 第十四條 留學保護金ハ家族又ハ保證人記名ノ公債證書ヲ以テ之ニ充ツルモ妨ケナシ此場合ニ於

- テハ其ノ記名者ヨリ本人ニ該證書ヲ處分スルコトヲ許ス旨ヲ明記セル證書ヲ留學保護金證書ニ添付スルヲ要ス而其ノ證書ハ中央金庫ノ保管證書ト共ニ經理局ニ於テ保管スルモノトス
- 第十五條 留學生ハ何等ノ事情アルモ其ノ所在地ニ於テ官ノ支給補助ヲ請フコトヲ得ス
- 第十六條 留學中病氣其ノ他萬已ムヲ得サル事故ノ爲メ歸朝セサルヲ得サルトキハ其ノ趣ヲ詳記シ駐在員取締(駐在員取締ヲ置カサル國ニ於テハ公使館附武官)ヲ經テ陸軍大臣ノ許可ヲ請フヘシ
- 第十七條 學業成熟ノ目途ナク又其ノ所爲武官ノ體面ヲ汚シ永ク留學セシムヘカラスト認ムル者ハ留學中ト雖歸朝ヲ命セラルルコトアルヘシ
- 第十八條 願書、保證狀、旅費及學資金支出明細書並ニ留學保護金證書ハ左ノ書式ニ準據スヘシ

外國留學願(正副三通用紙半紙郵紙)  
今般何學(學科ヲ明記ス)研究ノ爲メ何國ニ向フ何箇年間私費留學仕度候ニ付御許可被成下度別紙保證狀旅費及學資金支出明細書留學保護金證書相添此段奉願上候也

年月日

職官 氏 名印

陸軍大臣爵氏名殿

保證狀(正副三通用紙半紙郵紙)

職官 氏 名

右今般何學研究ノ爲メ何國ニ向フ何箇年間私費留學御許可相成候上ハ留學中學資ハ勿論本人身上ニ付テハ何事ニ依ラス拙者共ニ於テ引受處辨可仕候仍テ保證狀如斯ニ候也

年月日

住所族籍

保證人 氏

名印

住所族籍

同

陸軍大臣爵氏名殿

旅費及學資金支出明細書(正副三通用紙半紙野紙)

一金何圓 但シ往復旅費

所有現金

歸路

所有現金(公債證書利子或ハ何々ノ所得)ヲ以テ之ニ充ツ

一金何圓 但シ一箇年ノ學資

第一年 留學地(留學)ノ日ヨリ翌年

所有現金(公債證書利子或ハ何々ノ所得等)ヲ以テ之ニ充ツ

第二年 同前

第三年 同前

同前

前書ノ通旅費及學資引當金準備有之候間爲監據明細書差出候也

年月日

職官 氏 名印  
住所族籍  
保證人 氏  
住所族籍 同

陸軍大臣爵氏名殿

留學保護金證書(正副三通用紙半紙野紙)

一金千圓也

内 陸

金五百五拾貳圓四拾錢

金九拾圓五拾錢

現金  
五分 陸軍公債證書百圓券  
符號、番號、記名

一枚

職官 氏 名印  
住所族籍  
保證人 氏  
住所族籍 同

- 五分 整理公債證書百圓券 符號、番號、記名、無記名 一枚
  - 五分 海軍公債證書百圓券 符號、番號、記名、無記名 一枚
  - 五分 軍務公債證書百圓券 符號、番號、記名、無記名 一枚
  - 五分 日本帝國政府五分利公債證書百圓券 符號、番號、記名、無記名 一枚
  - 六分 東京市公債證書百圓券 符號、番號、記名、無記名 一枚
  - 勸業債券五拾圓券 符號、番號、記名、無記名 一枚
  - 勸業債券貳拾圓券 符號、番號、記名、無記名 一枚
  - 勸業債券拾圓券 符號、番號、記名、無記名 一枚
  - 勸業債券伍圓券 符號、番號、記名、無記名 一枚
- 右ハ今般私費留學奉願候ニ付御計可ノ上ハ留學保護金トシテ可差出候也
- 年月日

職官 氏 名印  
住所族籍  
保證人 氏 名印  
住所族籍 同

陸軍大臣爵氏名殿

○陸軍第七百七號

明治二十六年陸軍第七十三號及同第七十四號中「陸軍召集旅費」ヲ「陸軍召集諸費」ニ改ム

明治三十三年十月八日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍第百八號

今回ノ復員ニ際シ歸郷セシムヘキ下士以下ニハ左ノ通時服一著ヲ付與スヘシ

明治三十三年十月十二日

陸軍大臣子爵桂 太郎

第二種帽(第二種帽ヲ給セサ)徵章付ノ儘

冬(夏)衣袴徵章付ノ儘

繻袴袴下

靴

○陸軍第百九號

兵器取扱規則第三表中戸山學校用作業器具別紙ノ通改正ス (別紙略ス)

明治三十三年十月十八日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍第百十號

軍馬補充部釧路支部ヲ設置シ其ノ等級及位置左ノ通定ム

明治三十三年十月十八日

陸軍大臣子爵桂 太郎

等級	名	稱	位	置
二、等	軍馬補充部釧路支部			北海道釧路國白糠郡白糠村

○陸軍第百十一號

目下動員シアル諸部隊ニ屬シ士官ノ勤務ニ服スル豫備役後備役ノ見習士官見習醫官見習藥劑官見習獸醫官見習軍吏ハ陸軍補充條例第百五十二條ニ據リ本官ニ任スルコトヲ得

明治三十三年十月十九日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍第百十二號

明治二十四年陸軍第百三十二號陸軍武官家計保護金取扱手續左ノ通改正ス

明治三十三年十月二十九日

陸軍大臣子爵桂 太郎

陸軍武官家計保護金取扱手續

第一條 陸軍武官結婚條例第七條ニ據リ家計保護金ヲ納メントスルトキハ明治二十六年大藏省令第二十號保管物取扱規程ニ依リ其ノ所屬廳ヨリ寄託通知書ヲ得之ニ現金又ハ公債證書ヲ添ヘ金庫ニ出シ其ノ保管證書ヲ得之ヲ以テ所屬部隊長ニ納付シ預リ券ヲ領置スヘシ

公債證書ヲ以テ納付スルトキハ出納官吏身元保證金代用價格ニ依リ之ヲ算出スルモノトス但シ納付スヘキ金額ニ超過スルハ妨ケナシ

第二條 前條ニ依リ納付スル所ノ保管證書ハ部隊長其ノ保管ノ責ニ任スヘシ

保管證書ハ鐵庫又ハ堅牢ナル函内ニ收藏シ其ノ鎖鑰ハ部隊長之ヲ管守スルモノトス

部隊長ハ一名ノ出納主任ヲ命シ鐵庫又ハ函ノ開閉ヲ掌ラシメ別ニ一名ノ立會員ヲ命シ之ニ立會ハシムヘシ

第三條 家計保護金ヲ納メタル者其ノ所屬廳ヲ轉スルトキハ一旦保管證書ヲ付與シ更ニ第一條ノ規定ニ依リ新所屬部隊長ニ納メシムヘシ此ノ場合ニ在テハ舊ニ交付シタル預リ券ヲ返納セシメ又本人ノ預リ證書ヲ徵シテ之ヲ新所屬廳ニ送付スヘシ

新所屬廳ニ在テハ本人ヨリ保管證書ヲ受タルトキハ預リ券ヲ交付シ舊所屬部隊長ヨリ送付シタル預リ證書ヲ返付スヘシ

第四條 家計保護金ヲ納メタル者陸軍武官結婚條例第十一條ニ該リ本人ヨリ下戻ヲ申出ルトキハ

之ヲ調査シ預リ券ヲ返納セシメ保管證書ヲ返付スヘシ

第五條 公債證書ヲ以テ家計保護金ヲ納メタル者其ノ證書當籤シタルトキハ他ノ公債證書若ハ現金ト交換セシムヘシ但シ當籤ノ金額受領ノ上相當ノ保護金ヲ納メント欲シ又ハ事故ニ依リ一時下付ヲ願出ルトキハ調査ノ上囊ニ交付シタル預リ券ヲ返納セシメ預リ證書ヲ出サシメテ之ヲ下付スヘシ

公債證書ノ利札ハ每渡シ期ニ於テ本人ヨリ其ノ交付ヲ金庫ニ請求スヘシ

第六條 家計保護金ハ結婚當時ノ官階ニ應スル金額ヲ納メシメ爾後官等ニ異動アルモ之レカ爲増減スルコトナシ

第七條 保管證書ハ保管證書出納簿ヲ設ケ出納ニ關スル一切ノ計算ヲ登記スヘシ

保管證書ノ出納ハ保管證書出納簿ニ證書ノ種類券面ノ金額並出納ノ事由等ヲ明細ニ登記シ部隊長檢印ヲ爲シタル後之ヲ執行スヘシ

部隊長ハ毎月末日保管證書出納簿殘高ト保管證書ト對查點檢スヘシ

第八條 監督部長ハ必要ト認ムルトキハ保管證書ノ出納ヲ臨時檢査スヘシ

第九條 部隊長ハ會計檢査院ノ要求アルトキハ保管證書出納計算書ヲ同院ニ送付スヘシ

○陸軍部百十三號

三十一年式速射野(山)砲砲煩履歴編纂規則左ノ通定ム

明治三十三年十月二十九日

陸軍大臣子爵桂 太郎

三十一年式速射野(山)砲砲煩履歴編纂規則

第一條 三十一年式速射野(山)砲砲煩履歴表ハ砲身各部檢査ノ景況及各砲ノ發射員數其ノ他種々

ノ事故ニテ發生シタル損傷及修理ヲ登記シ砲ノ存廢ヲ決スル參考ニ供スルモノナリ故ニ平戰兩時ノ別ナク發射ノ員數ハ勿論砲身各部ニ就テ注意ヲ要スル件ハ遺漏ナク登錄スルヲ要ス

第二條 履歴表ハ後ニ例示セル別表ニ準シテ調製シ二種ニ區別ス一ヲ第一類砲煩履歴表ト名ケ一ヲ第二類砲煩履歴表ト名ケ

第三條 履歴表編纂ノ爲メ實施スヘキ項目左ノ如シ

其一 製造完成ノトキ各部ノ檢査及竣工試驗射擊

其二 竣工試驗射擊後ノ腔中檢査

其三 移轉修理及發射數ノ調査

其四 射擊演習後ノ腔中檢査

其一共二ハ第一類砲煩履歴表其共四ハ第二類砲煩履歴表ノ編纂ニ要スルモノトス

第四條 竣工試驗射擊ハ定量裝藥ヲ用ヒ六發乃至十發ヲ發射スルモノトス此ノ試驗ニ於テ砲身砲架等各部ノ抗堪力及機能ヲ實驗ス

第五條 毎年射擊演習ヲ終リタルトキ腔中檢査ヲ施行シ檢査表ヲ製スヘシ若射擊演習ヲ施行セサルトキハ一年一回腔中檢査ヲ行フモノトス

第六條 第一類砲煩履歴表ハ兵器監部派出檢査官之ヲ調製シ第二類砲煩履歴表ハ其ノ砲ノ所屬中隊長之ヲ調製ス

第七條 兵器監部派出檢査官ハ第一類砲煩履歴表一通ヲ製シテ表裝ニ綴シ之ヲ當該兵器本廠ニ送付スヘシ

第八條 兵器本廠ニ在リテハ某ノ砲煩ヲ野戰砲兵隊或ハ其ノ他ニ支給スルトキハ該砲ニ屬スル履



歴表ヲ騰寫シテ之ヲ同廠ニ留メ本紙ハ砲煩ニ添テ交付スヘシ

第九條 總テ砲煩履歴表ハ美濃紙ヲ用ヒ表紙ノ中央ニ左ノ如ク記載スヘシ

明治何年製

號 三十一年式速射野(山)砲第一(二)類砲煩履歴表

第十條 野戰砲兵隊ニ於テ第二類砲煩履歴表ノ記註ヲ行フニ方テ取扱ノ順序ハ左ノ方法ニ從フヘシ

第十一條 中隊附下士ハ平戰兩時ニ係ハラス發射ノ月日彈ノ種類發數及藥量ハ勿論砲身各部ニ發生

シタル損傷ノ景況砲ノ移轉方向里數修理日數等荷モ砲煩ノ維持保存ニ關スル件々ハ遺漏ナク點

檢シ之ヲ假表ニ筆記シ中隊附士官ニ呈スヘシ

第十二條 砲煩檢査ハ中隊長立會ノ上中隊附士官之ヲ指揮シ中隊附下士ヲシテ之ヲ行ハシメ所要

ノ諸件ヲ假表ニ筆記セシムヘシ

第十三條 中隊附士官ハ中隊附下士ヨリ差出ス處ノ假表ニ基キ尙共ノ原由ヲ審查シ意見アレハ其

ノ顛末ヲ記入シテ之ヲ中隊長ニ呈スヘシ

第十四條 中隊長ハ中隊附士官ヨリ差出ス處ノ假表ニ依リ詳細復審ヲ遂ケ取捨折衷シテ之ヲ第二

類砲煩履歴表ニ記載スヘシ

第十五條 中隊長ハ毎年十二月ニ至レハ第二類砲煩履歴表ニ調印シ之ニ副一通ヲ副ヘ大隊長ニ呈

ス大隊長ハ尙之ヲ復審シ要スレハ自己ノ意見ヲ記入シテ聯隊長ニ呈スヘシ

第十六條 戰時ニ在リテ一役終ルノ後ハ期日ニ係ハラヌ第二類砲煩履歴表ヲ調製シ前條ノ手續ヲ

爲スヘシ

第十七條 聯隊長ハ大隊長ヨリ出ス處ノ履歴表ニ檢印シ一通ヲ中隊ニ留メ第一類砲煩履歴表ニ層

綴レ一通ハ師團長(旅團下ノ聯隊ニ在リテハ旅團長ヲ經テ)ニ進呈スヘシ

第十八條 師團ニ在リテハ聯隊長ヨリ出ス處ノ履歴表ヲ年報差發ト同時ニ兵器本廠ニ送付スヘシ  
第十九條 野戰砲兵隊或ハ其ノ他ニ在リテ砲煩ノ引換或ハ返納等ヲ要スルトキハ第十五條ノ例ニ  
準シ該砲ニ屬スル前年度後ニ係ハル第二類砲煩履歴表ヲ進達書類ニ添フルモノトス  
第二十條 腔中檢査ニ於テ各部腔徑ノ平均開大量一密米ニ達スルトキハ該砲ハ引換ヲ要スルモノ  
トス

第二十一條 學校其ノ他ニ於テモ此表ノ取扱ハ前條ニ準スルモノトス

第二十二條 第二類砲煩履歴表用ノ界紙ハ豫メ之ヲ印刷シテ備フヘシ

(第一類第二類砲煩履歴表略ス)

○陸軍部百十四號

陸軍平時備人定員表中陸軍兵器監部、陸軍砲工學校、陸軍士官學校、陸軍戸山學校、陸軍中央幼年學  
校、陸軍騎兵實施學校、陸軍野戰砲兵射擊學校ノ區畫ヲ左ノ通改正ス

明治三十三年十月三十日

陸軍大臣子爵桂 太郎

陸軍兵器監部					七	三	一〇
陸軍砲工學校	二		二		三〇	二	三六
陸軍士官學校	二	四		七	七〇	二	八五
陸軍戸山學校	二	三			三〇	一	三六
陸軍中央幼年學校	二	四			五〇	二	六五
陸軍騎兵實施學校		二		五	一三	一	二一
陸軍野戰砲兵射擊學校	六	六	一	二			二四

〔參照〕

陸軍省第七號陸軍平時備人定員表(明治三十一年十一月十四日)抄録

陸軍平時備人定員表

區分	名	稱	法政科	文書科	看病人	廚工	工師	鐵工	守衛	警備	小使	使給	仕	計
----	---	---	-----	-----	-----	----	----	----	----	----	----	----	---	---

○海軍省達第五百十九號

臺灣島及澎湖島駐在海軍軍人軍屬給與規則施行細則中左ノ通改正ス

明治三十三年十月五日

海軍大臣山本權兵衛

第四條ニ左ノ一項ヲ加フ

海軍戰時給與規則ニ依リ増俸ヲ受クルトキハ其ノ増俸支給ノ日ヨリ停止ノ日マテ規則第三條ノ増俸ヲ停止ス

第七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第七條ノ二 海軍戰時給與規則第九條第一項ノ手當金ヲ受ケタル者一箇年以内ニ在テ更ニ駐在地勤務ヲ命セラレタルトキハ手當金ヲ給セス但シ該手當金ノ半額ヲ受ケタル者ニ在テハ規則第五條ノ手當金半額ヲ支給ス

○海軍省達第六十號

海軍戰地給與規則施行細則中第八條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加ス

明治三十三年十月五日

海軍大臣山本權兵衛

第八條ノ二 臺灣島及澎湖島駐在海軍軍人軍屬給與規則第五條ニ依リ手當金ヲ受ケタル者一箇年

以內ニ在テ戰地若ハ臨戰合圍地境ニ派遣セララルトキハ手當金ヲ支給セス但シ手當金ノ半額ヲ受ケタル者ニ在テハ規則第九條第一項ノ手當金半額ヲ支給ス

○海軍省達第六十一號

明治二十四年達第八十四號貸與品表中左ノ追加フ

明治三十三年十月十二日

海軍大臣山本權兵衛

水雷發射標的 驅逐艦ニ於テ要スル時

○海軍省達第六十二號

吳海軍造船廠ニ於テ製造スヘキ一等水雷艇六隻ヘ左ノ通命名ス

明治三十三年十月十五日

海軍大臣山本權兵衛

- 第六號百二十噸水雷艇
- 第七號百二十噸水雷艇
- 第八號百二十噸水雷艇
- 第九號百二十噸水雷艇
- 第十號百二十噸水雷艇
- 第十一號百二十噸水雷艇

○海軍省達第六十三號

明治三十年達第九十號演習費支出規程中第二條ヲ左ノ通改メ第四條ノ次ニ左ノ二條ヲ追加ス

明治三十三年十月三十一日

海軍大臣山本權兵衛

第二條 前條ノ各事項中演習費支辨ノ費途ニ屬スル概目ハ左ノ如シ

- 一 豫備役後備役准士官以上及下士卒召集中ノ俸給食料
- 二 豫備役後備役下士卒召集中ノ被服修補料
- 三 特ニ演習ノ爲メ直接使用ヲ要スル左記ノ備品及消耗品

備品ノ部

- 旗類 鍋類 滑車類 火鉢類 湯沸類 五徳類 桶類 柄杓類 搥棒類 庖丁類 笊類 筵
- 蓆類 千突類 箸類 罐切類 播鉢類 播木類 皮剝類 杓子類 騰寫版附屬品共 筆榻版附屬品共
- 刷毛類

消耗品ノ部

- 諸帳簿及用紙類 筆墨印肉類 薪炭油類 雜用品類

四 通信運搬費

五 臨時特ニ演習ノ爲メ要スル家屋營造物ノ假設材料

六 從來備付アル品種數量ノ外臨時特ニ演習ノ爲メ使用ヲ要スル防禦材料

七 田畑林苑若ハ垣柵其他物件ノ損害ニシテ一物件五拾圓未滿ノ賠償費

八 豫備役後備役軍人ノ召集歸郷旅費及演習ノ爲メ特ニ旅行ヲ要スル軍人軍屬ノ旅費

九 臨時備人料

十 臨時使用ヲ要スル馬匹船車家屋其ノ他物件ノ借料

十一 臨時仕拂ヲ要スル舍營料諸謝金印刷費其ノ他ノ雜費

第五條 鎮守府ニ於テ施行スヘキ小演習ニ要スル物件ノ購買等ハ總テ經理部ニ於テ之ヲ處辨シ演

習終了後將來使用ニ適スル材料物品ニシテ他ノ主管ニ屬スヘキモノハ保管轉換ノ手續ヲ爲シ使

用ニ適セサルモノハ直ニ賣却處分ノ手續ヲ爲スヘシ  
第六條 鎮守府經理部長ハ小演習終了後一箇月以内ニ別表様式ニ基キ演習費支出顛末報告書ヲ作

某年度小演習費支出顛末報告書

何 鎮守府

科目	支出ノ目的	金額	物件ノ名稱	數量	内	
					演習費	其他
俸給		五九一五〇〇〇				
食料		五〇〇〇〇〇				
被服修補料		五〇〇〇〇				
備品		一〇〇〇〇〇				
炊事場用		五〇〇〇〇				
糧食運搬用		一〇〇〇〇				
兵器運搬用		二〇〇〇〇				
何々用		二〇〇〇〇				

消 耗 品	二、五〇〇〇〇	何々	一、〇〇〇	九〇〇	一〇〇	〇	〇
通 信 費	一〇〇〇〇						
運 搬 費	二〇〇〇〇						
假 設 材 料	二五〇〇〇〇	何々	一〇〇	〇	〇	五〇	五〇
防 禦 材 料	二五〇〇〇〇	何々	一〇〇	〇	一〇〇	〇	〇
賠 償 金	二〇〇〇〇						
召 集 旅 費	五〇〇〇〇						
歸 郷 旅 費	五〇〇〇〇						
出張旅費	二〇〇〇〇						
臨時傭人料	五〇〇〇						
馬 匹 借 料	〇						
船 車 借 料	〇						
家 屋 借 料	〇						
前 三 件 ニ ア ラ サ ル 物 件 借 料	〇						
舎 營 料	〇						
諸 謝 金	〇						
印 刷 費	〇						
以下 諸 費 名 稱 下 掲 ぐ 事 項 下 記 入 せ ば 可 也							

右及報告候也

明治 年 月 日

海軍省經理局長宛

何鎮守府經理部長

印

備考

一 一 小波習ニシテ兩會計年度ニ跨ルトキハ金額ノ欄中「某年度支出額」、「某年度支出額」、「合計」ノ三欄ヲ設置シ各金額ヲ區分掲記スルモノトス

一 支出ノ目的タル消耗品通信費運搬費假設材料防禦材料賠償金臨時傭人料及馬匹借料以下ハ備品ニ準シ使用ノ目的ヲ區分シ其内際ヲ掲記スルモノトス

○海軍省達第百六十四號

明治二十四年達第八十八號ヲ廢ス

明治二十三年十月三十一日

海軍大臣山本權兵衛

〔参照〕

明治二十四年十月ニ海軍省達第八十八號ハ演習費支辨ニ係ル物品ハ主計部材料課ニ於テ出納シ演習終リタルトキ後來使  
用ニ適スルモノアレハ貯蔵又ハ適宜保管ノ轉換ヲ爲シ使用ニ適セサルモノハ同課ニ於テ賣却處分セシムル件ナリ

○陸達第百十五號

聯隊區司令部服務規則中左ノ通改正ス

明治三十三年十一月七日

陸軍大臣子爵桂 太郎

第九條第十條第十九條ヲ削除ス

第十二條 書記中軍吏部下士ハ上官ノ指揮ヲ受ケ専ラ會計ノ事務ニ服ス

第十三條第十一號及第十八條中「充員名簿」ヲ「充員召集名簿」ニ改ム

第二十條中「兵卒」ノ下ニ「歸休兵」ヲ加フ

第二十一條中「下士兵卒」ヲ「將校同相當官下士兵卒歸休兵」ニ許可シタル者ヲ「許可ノ者」ニ改ム

第二十二條 前條ノ通牒ヲ爲シタル後勤務演習召集又ハ簡閱點呼ヲ免除セラレ若ハ充員召集ニ應

シ其ノ他勤務演習召集又ハ簡閱點呼ノ施行ヲ要セサル者ヲ生スルトキハ其旨更ニ寄留地聯隊區

司令部又ハ警備隊司令部ニ通牒スヘシ

第二十三條中「要スレハ」ヲ「時宜ニ由リ」ニ改ム

第二十八條中第十條第十二條ハ警備隊區司令部ニヲ削除ス

〔參照〕

陸達第六十七號聯隊區司令部服務規則(明治二十九年四月二十二日)抄録

第九條 軍醫ハ徵兵志願兵及諸生徒志願者ノ身體検査ニ關スル事務ヲ管理シ豫備役後備役下士兵卒歸休兵及補充兵ノ服役

免除ニ關スル調査ニ任ス

第十條 軍吏ハ司令部一般ノ會計事務ニ服シ物品保管ノ責ニ任ス

第十二條 書記中軍吏部下士ハ軍吏ニ屬シ記註計算ノ事務ニ服ス

第十三條 聯隊區司令部ニ備置クヘキ簿册左ノ如シ

- 第十八條 充員名簿待命員名簿ハ動員計畫年度經過後棄却シ抽籤名簿ハ三箇年間保存スヘシ
- 第十九條 豫備役後備役下士ニシテ服役延期ヲ願フ者ハ年齢滿五十歳迄之ヲ許スコトヲ得
- 第二十條 豫備役後備役下士兵卒及第一補充兵中勤務演習召集ノ猶豫若クハ簡閱點呼免除ヲ願出ル者アルトキハ其事實ヲ審察シ確實ト認ムルモノハ其許可狀ヲ付與スヘシ
- 第二十一條 豫備役後備役下士兵卒及第一補充兵中寄留地師管ニ於テ勤務演習ヲ爲サンコトヲ許可シタル者アルトキハ之ヲ寄留地聯隊區司令部又ハ警備隊司令部ニ通報スヘシ寄留地ニ於テ簡閱點呼ヲ受クルコトヲ許可シタル者聯隊區外ニ係ルトキ亦同シ
- 第二十二條 前條ノ願意ヲ許可シタル後勤務演習召集免除若クハ猶豫セラレタル者アルトキハ其旨更ニ寄留地聯隊區司令部又ハ警備隊司令部ニ通報スヘシ
- 第二十三條 豫備役後備役下士兵卒歸休兵及補充兵中永久服役ニ堪ヘサル旨届出ル者アルトキハ聯隊區司令官其事實ヲ審察シ確實ト認タルモノハ師團長ニ上申シ兵役免除ノ處分ヲ請フヘシ但シ疑ニ涉ルモノハ簡閱點呼若クハ徵兵検査ノ際之ヲ實査シ要スレハ軍醫ヲシテ診斷セシメ其意見ヲ徵シ然ル後本條ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第二十八條 本則ハ之ヲ警備隊司令部及警備隊區司令部ニ適用ス但第六條ハ警備隊司令部第二十條第十二條ハ警備隊區司令部ニ適用ノ限ニアラス

○陸達第百十六號

明治二十四年陸達第百四號同年陸達第百六十號及明治三十年陸達第六十九號ヲ廢シ更ニ各兵科隊附下士ヲ隊外ニ採用スルノ規定ヲ左ノ通定ム

明治三十三年十一月七日

陸軍大臣子爵桂 太郎

- 第一項 各兵科隊附下士ヲ除ク長ヲ隊外ニ採用スルニハ入隊後六箇年ヲ過キ品行方正勤務勉勵ノ者ヲ以テス
- 第二項 戶山學校教育部附騎兵實施學校教育部及厩舎部附並地方幼年學校訓育部附下士ハ第一項第四項ノ年限ニ拘ラス採用スルコトヲ得
- 第三項 鐵道大隊ニ於テ電信通信術修得證書ヲ受ケタル下士中技術優等ノ者及各工兵大隊ヨリ鐵

道大隊へ派遣ノ下士中教育助手トシテ次期派遣員教育期間殘留ヲ命セラレタルコトアル者ハ要塞司令部築城部兵器廠及臨時電信部ニ限リ第一項第四項ノ年限ニ拘ラス之ヲ採用スルコトヲ得

第四項 服役條例第七十二條ニ當ル下士ハ當分教導團及要塞砲兵射擊學校卒業者ニ在テハ任官後四箇年、上等兵出身者ニ在テハ入隊後五箇年ヲ過クルトキハ之ヲ隊外ニ採用スルコトヲ得

○陸達第百十七號

明治三十二年ハ陸達第八十一號別紙圖面中刀緒ノ鋸齒截目九箇ヲ六箇ニ總ノ上線部並壓口ノ細革條編組ヲ一枚ノ平革條ニ改正ス

但既製ノ分ハ其儘使用スヘシ

明治三十三年十一月九日

陸軍大臣子爵桂 太郎

〔参照〕

明治三十二年ハ三三陸達第八十一號ハ三十二年式軍刀制式ナリ

○陸達第百十八號

明治二十四年陸達第七十二號陸軍物品會計規程中左ノ通改正ス

明治三十三年十一月二十日

陸軍大臣子爵桂 太郎

第五條 各官衙各所各隊ニ於テ物品會計官吏及其代理官若ハ分任官ヲ要スル時ハ當該官衙各所各隊ノ長官其所屬官吏ニ之ヲ命スヘシ

前項物品會計官吏及其代理官若ハ分任官ヲ定メタル時又ハ該官吏交替事務引繼ノ時ハ其官氏名並年月日及常時保管物品ノ價格ヲ各順序ヲ經テ陸軍省ニ報告シ尙當該監督部長ニ通報スヘシ

第十二條第一項割註「總務局」ニ在リテハ庶務課長ノ十二字ヲ削リ「高級理事」トアルヲ「上席局員」ニ改ム

第十五條第一項ヲ左ノ如ク改ム

第十五條 物品會計規則第十條ノ二第十一條第十二條ノ検査ハ毎年一回ニ在リテハ物品會計官トキ共陸軍省ニ在リテハ總務局庶務課長各官衙各所各隊ニ在リテハ當該監督部長製絨所ニ在リテハ經理局被服課長中央極絨廠ニ在リテハ經理局極絨之ヲ執行スヘシ但場合ニ依リ當該官衙ノ長ニ其検査ヲ委任スルコトヲ得

第十六條ノ次ニ左ノ三條ヲ加ヘ第十七條ヲ第二十條トス

第十七條 各官衙（陸軍省ヲ除ク）各所各隊ニ於テ物品ノ備付ヲ要スルトキハ當該監督部長ト協議シ執行スヘシ

第十八條 各官衙（陸軍省ヲ除ク）各所各隊ニ於ケル物品ノ保管轉換ハ所管長官當該監督部長ト協議執行スヘシ

第十九條 政府ノ保管ニ屬スル物品ニシテ特ニ指定スルモノハ本規程ニ準シ取扱フヘシ

前項ノ物品ハ政府所屬ノモノト別整理ヲナスヘシ

○陸軍部百十九號

理科大學陸軍員外學生ハ來明治三十四年ニ限り九月ニ於テ入學セシム

明治三十三年十一月二十一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍部百二十號

二十六年式拳銃携帶革ニ現在穿孔ト同徑同距離ニ管鑲ニ反スル方向へ更ニ穿孔六箇ヲ增加ス

但シ本文ニ要スル費用ハ各管理ノ軍事費兵器彈藥費定額内ヨリ支辨スヘシ

明治三十三年十一月二十四日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍部百二十一號

三十年式歩兵銃同騎銃ノ尾筒及用心鐵ニ支鐵ヲ設ケ其ノ尾端ヲ延長シテ銃把ノ保持ニ充ツ

明治三十三年十一月二十四日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍部百二十二號

明治三十三年陸軍部百二十二號陸軍武官家計保護金取扱手續中左ノ通追加ス

明治三十三年十一月二十九日

陸軍大臣子爵桂 太郎

第一條第一項中「部隊長」ノ下ニ「金櫃委員ヲ組織セル部隊ニ在テハ金櫃委員首坐又歩兵聯隊要部砲兵聯隊ニ在テハ當該聯隊長ノ指定セル大隊ノ金櫃委員首坐以テ下同ヲ加フ

第二條第三項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ金櫃委員ヲ組織セル部隊ニ於ケル出納主任及立會員ハ委員ニ之ヲ命シ又金櫃委員ヲ組織セサル部隊ニ在テ該長官自ら立會ヲ爲ストキハ別ニ立會員ヲ置カサルコトヲ得

〔參照〕

陸軍部百二十二號陸軍武官家計保護金取扱手續（明治三十三年十月二十九日抄録）

第一條 陸軍武官結婚條例第七條ニ據リ家計保護金ヲ納メントスルトキハ明治二十六年大藏省令第二十號保管物取扱規程

ニ依リ其ノ所屬ヨリ寄託通知書ヲ得之ニ現金又ハ公債證書ヲ添ヘ金庫ニ出シ其ノ保管證書ヲ得之ヲ以テ所屬部隊長ニ納付シ預リ券ヲ領置スヘシ

第二條第三項

部隊長ハ一名ノ出納主任ヲ命シ鐵庫又ハ函ノ開閉ヲ掌ラシメ別ニ一名ノ立會員ヲ命シ之ニ立會ハシムヘシ

○海軍省達第六十五號

艦艇機關取扱教範追加トシテ「ベルビル」式汽罐取扱法假リニ別冊ノ通り定ム (別冊略ス)

明治三十三年十一月二日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第六十六號

艦船損害事實査問規則ニ左ノ二條ヲ追加ス

明治三十三年十一月十四日

海軍大臣山本權兵衛

第九條 司令長官ハ事實ノ調査上麾下ノ將校同相當官ヲ以テ査問ヲ行フヲ不便ト認ムルトキハ之

ヲ他ノ司令長官ニ委託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ直ニ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第十條 前條ニ依リ委託ヲ受ケタル司令長官、査問委員ノ報告ヲ得タルトキハ直ニ之ヲ委託セシ

司令長官ニ送附シ委託セシ司令長官ハ第四條ニ依リ之ヲ處理スヘシ

○宮内省達乙第七號

和歌山縣有田郡湯淺町ニ於テ「ベスト」病發生ニ付宮城東宮御所及府下各離宮御殿御用邸へ參入ノ  
輩及物品差出方ハ本年五月宮内省達乙第五號ニ依ルヘシ

明治三十三年十二月十四日

宮内大臣子爵田中光顯

○陸達第二百二十三號

本年陸達第二百二十三號經理學校へ入校セシムヘキ監督學生ノ人員八十名ト改ム

明治三十三年十二月七日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸達第二百二十四號

馬術教範別冊ノ通改正セラル (別冊略ス)

明治三十三年十二月十二日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸達第二百二十五號

陸軍平時備入定員表中左ノ通改正ス

明治三十三年十二月十七日

陸軍大臣子爵桂 太郎

備考(七)中増加シ五等ノ内嚴原鷄知ニハ磨工一名ヲ加フヲ四等ノ内鷄知ニハ看病人、磨工、小使、廚  
夫各一名ヲ増加スニ改メ五等ノ内嚴原ニハ看病人一名ヲ削ル

○陸達第二百二十六號

戰時若ハ事變ノ際ニ於ケル一年志願兵ノ取扱方左ノ通定ム

但シ明治二十七年送乙第二二八號ハ之ヲ廢止ス

明治三十三年十二月二十六日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎



- 一 一年志願兵ハ野戰部隊ニ屬セシムル必要ヲ生シタルトキ及留守部隊ニ於テ下士以上ノ要員ニ充ツルトキヨリ一年志願兵條例第三十條ヲ適用ス
- 二 前項ニ該當スル者ノ外徵兵令第七條ニ依リ服役ヲ延期セラレタル者ハ服役滿一箇年ヲ經過シタル日ヨリ一年志願兵條例第三十條ヲ適用ス
- 三 第一項ニ該當スル者ト雖留守部隊ニ在テハ成ルヘク特別ノ教育ヲ繼續シ常例ノ期ニ於テ終末試験ヲ行フヘシ
- 四 一年志願兵終末試験及第證書ヲ得タル者ハ現役延期ノ儘補充條例第一百五十四條ニ依リ士官ノ勤務ニ服セシムルコトヲ得
- 五 一年志願兵條例第三十條ヲ適用シタルトキハ其ノ日ヨリ階級相當ノ給料ヲ給シ服役ニ關スル費用ハ總テ官費トス

○陸軍部第六十七號

兵器取扱規則第三表鐵道隊車載器具工兵隊作業器具、鐵道隊作業器具、臺灣守備工兵隊作業器具、臺灣兵器廠歩工兵補給器具中並第四表鐵道隊車載材料工兵隊作業材料、鐵道隊作業材料（電信之部）、臺灣守備工兵隊作業材料、臺灣兵器廠歩工兵補給材料中別紙ノ通改正加除ス（別紙略ス）

明治三十三年十二月二十七日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

○海軍省達第六十七號

明治二十四年達第六十八號貸與品表中釣床一號帆布以下四廉ニ對スル所要記事「練習兵乘艦又ハ豫備後備兵召集ノ時」トアル之候補生實地演習ノ爲メ及練習兵乘艦又ハ豫備後備兵召集ノ時」ト改

明治三十三年十二月五日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第六十八號

三等筆記教育規則左ノ通定ス

明治三十三年十二月六日

海軍大臣山本權兵衛

三等筆記教育規則

- 第一條 新ニ任用シタル三等筆記ハ海兵團ニ於テ教育スルモノトス
- 第二條 海兵團長ハ本則ニ基キ三等筆記教育ニ關スル細則及教程ヲ定メ鎮守府司令長官ノ認可ヲ經テ之ヲ實施スヘシ但シ鎮守府司令長官ハ之ヲ認可スルニ先チ海軍教育本部長ニ合議スルヲ要ス
- 第三條 海兵團長ハ三等筆記教育主任ヲ定メ細則及教程實施ノ責ニ任セシムヘシ
- 第四條 新ニ任用シタル三等筆記入團シタルトキハ先ツ左ノ諸項ニ就キ嚴格ナル教育ヲナスヘシ但シ現役海軍主厨ヨリ任用シタル者ニ在テハ之ヲ省略スルコトヲ得
  - 一 勅諭奉讀及講話
  - 二 體勢ノ整正
  - 三 上官ノ官氏名武官ノ階級、服制、勳章徽章ノ種類及其ノ起因、其他各兵種ノ識別及性能等
  - 四 敬禮式、海兵團内則ノ摘要其ノ他紀律ニ關スル須要ノ事項等
  - 五 衣服ノ著裝、釣床ノ取扱及衣囊手箱ニ關スル心得等
- 第五條 三等筆記ノ教育期限ハ約六箇月ニシテ其教育科目左ノ如シ
  - 一 海軍諸官麻組織ノ概要
  - 二 會計法規大意

- 三 現金出納事務
- 四 金錢給與事務
- 五 庶務
- 六 被服經理
- 七 糧食經理
- 八 需品經理

別科

- 一 武科(徒手教練)端舟機漕
- 二 海軍刑法及治罪法ノ摘要懲罰令、善行章條例、准士官、下士任用進級條例、服裝規則、並軍艦內規ノ摘要、海軍任務ノ大要
- 第六條 海兵團長ハ三等筆記教育ノ進歩ヲ檢スル爲メ便宜小試験ヲ行ヒ且其ノ教育ノ終リニ於テ卒業試験ヲ行フヘシ
- 試験ノ及第點數ハ各學科全點數ノ十分ノ四以上ヲ得其ノ點數ヲ合算シ總點數ノ十分ノ五以上トス
- 小試験點數ハ之ヲ卒業試験ニ合算シ卒業試験ノ點數トス
- 第七條 卒業試験ニ及第シタル者ハ直ニ補缺員ニ編入スヘシ
- 第八條 卒業試験ニ落第シタル者ニハ若干日間落第シタル科目ヲ復習セシメ其科目ニ就キ再試験ヲ行フヘシ
- 第九條 卒業試験ノ成績ハ海兵團長之ニ意見ヲ附シテ鎮守府司令長官ニ報告シ鎮守府司令長官ハ之ヲ教育本部長ニ移牒スヘシ

卒業試験ノ成績ハ之ヲ履歷ニ記入スヘシ

第十條 三等筆記ニシテ技藝優等ナル者及現役海軍主廚ヨリ任用シタル者ハ所定ノ期間修業セスト雖臨時卒業試験ヲ行ヒ及第シタル者ハ直ニ補缺員ニ編入スルコトヲ得

○海軍省達第六十九號

雇員備人規則中左ノ通改正ス

明治三十三年十二月七日

海軍大臣山本權兵衛

第二條 雇員ノ職名及使役場所ハ左ノ如シ

職名	使役場所
筆生	本省及其他各廳
技生	本省(軍令部、艦政本部、水路部、技術會議、臨時建築部、同支部、諸學校、機關術練習所、探炭所、下瀬火藥製造所、鎮守府機關部、鎮守府經理部、建築科、兵器廠、測器庫)
器手	本省、諸學校、機關術練習所、水路部、測器庫
守衛	本省及其他各廳
工手	要港部
坑内取締	探炭所

第三條

備人ノ職名及使役場所並定限ハ左ノ如シ

職名	使役場所及定限
研摩手	病院
海關彫刻手	水路部

海圖印刷工	同
裁縫手	鎮守府經理部衣糧科
麵包手長	鎮守府經理部衣糧科
兵器保護手	造兵廠、兵器廠
兵器丁	同
別 蒸	艦隊及要港部ニ於テ使役スル定員ハ別表ニ依ル 鎮守府司令長官兵學校機關學校
從 機	艦隊及要港部ニ於テ使役スル定員ハ別表ニ依ル 鎮守府司令長官砲術練習所、水雷術練習所
刺 夫	艦隊及要港部ニ於テ使役スル定員ハ別表ニ依ル 砲術練習所、水雷術練習所、機關術練習所
舟 夫 長	港務部、要港部
舟 夫	同
印刷工	軍令部、教育本部、鎮守府司令長官幕僚、諸學校、砲術練習所、水雷術練習所、機關術練習所、造船工練習所
倉庫丁	造兵廠、兵器廠、鎮守府經理部衣糧科、藥品庫、測器庫、下燭火藥製造所
便 丁	本省及其他各廳
電 話 丁	本省、軍令部、艦政本部、水路部、鎮守府司令長官幕僚、鎮守府經理部
給 仕	艦隊及要港部ニ於テ使役スル定員ハ別表ニ依ル 本省及其他各廳
番 人	望樓、射的場、用水場、埋葬地
大 工	本省、鎮守府經理部
賄 夫	兵學校、機關學校、軍醫學校、主計官練習所、病院、監獄

定 夫	本省及其他各廳
洗濯夫	病院
經 師	本省、軍令部
工 夫	要港部
傳書僱傭夫	鎮守府、要港部
電機工夫	本省、鎮守府、下燭火藥製造所
柔道教員	別表ニ依ル
水栓番人	佐世保鎮守府經理部

第五條ヲ削除ス

第七條中但書ヲ削除ス

別表備考第四號ヲ左ノ通改ム

四 軍艦候補生練習艦ニ充テラレタルトキハ必要ニ應シ給仕二名刺夫一名ヲ増置スルコトヲ得

〔参照〕

海軍省達第五十二號雇員備人規則(明治三十年五月十八日抄録)

第五條 技工ハ前條ノ年齡定限ニ關セテ投手續習所者クハ舊海軍造船工學校ノ卒業證書ヲ有スル者ヨリ之ヲ採用ス

第七條 雇員備人ヲ採用スルニハ各廳其ノ他艦隊部隊ノ長ニ於テ確實ト認定シタル保證人ヲ定メ本人第四條及第六條ニ照

開セサルコトヲ保證セシメ且身元ヲ引受ケシムヘシ但技工ニ限り本條ノ手續ヲ要セス

○海軍省達第七十號  
海軍大學校規則第十三條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ戰時若ハ事變ニ際シテハ適宜之ヲ變更スルコトヲ得

明治三十三年十二月十三日

海軍大臣山本權兵衛

〔參照〕

海軍省第六十六號海軍大學校規則(明治三十二年三月三十一日)抄錄

第十三條 海軍大學校ノ學年ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ルモノトス

○海軍省達第七十一號

恩給扶助料取扱手續左ノ通定ム

明治三十三年十二月二十二日

海軍大臣山本權兵衛

恩給扶助料取扱手續

第一條 軍人恩給法官吏恩給法及官吏遺族扶助法ニ依リ恩給並扶助料請求ニ關スル取扱手續ハ各恩給法施行規則及官吏遺族扶助法施行規則ニ依ルノ外本規定ニ依ル

第二條 恩給並扶助料請求ニ關スル書類ハ別紙(第一乃至第十六)書式ニ依ル

第三條 軍人恩給法施行規則第二條及官吏遺族扶助法施行規則第一條ニ依リ死者ノ履歷書ヲ遺族

ニ下付スルハ准士官以上及文官ニ在テハ本省下士以下ニ在テハ在籍鎮守府ニ於テ取扱フモノトス

第四條 鎮守府司令長官前條ノ履歷書ヲ下付シタルトキハ兵事官ヲシテ直ニ其ノ兵籍寫ヲ人事局ニ送附セシムヘシ

第五條 軍人恩給法第十二條及同恩給法施行規則第二條第二項ニ掲グル書類ハ左ノ各號ニ依リ取扱フヘシ

一 海軍軍人ニシテ公務ノ爲傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者アルトキハ所屬長ハ現認證書及負傷證書若ハ罹病證書ヲ所屬長官ニ進達シ所屬長官ハ審査ノ後准士官以上ニ在テハ之ヲ海軍大臣ニ進達シ下士以下ニ在テハ之ヲ本人在籍ノ鎮守府司令長官ニ送附スヘシ

二 前號ニ該當シ現役ニ堪ヘ難キ者若ハ永久服役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ診斷證書ヲ同號ノ例ニ依リ取扱フヘシ但シ入院中ナルトキハ海軍病院長ニ於テ所屬長ニ準シ取扱フヘシ

三 第一號ニ該當シ現役中死亡シタル者アルトキハ同號ノ例ニ依リ死亡證書ヲ海軍大臣若ハ鎮守府司令長官ニ進達若ハ送附スヘシ

四 前號ニ該當スル者治療ヲ俟タズ死亡シタル者アルトキハ現認證書及死亡證書若ハ死體檢按書ヲ第一號ノ例ニ依リ海軍大臣若ハ鎮守府司令長官ニ進達若ハ送附スヘシ但シ或ル事由ニ依リ其ノ死體ヲ收容スル能ハサルトキハ死亡證書若ハ死體檢按書ニ代フルニ事實證明書ヲ以テス

五 第一號ニ該當シ現役ヲ離レ若ハ死亡シタル者アルトキハ本省若ハ鎮守府ニ於テ前諸號ニ依リ受領シタル書類ヲ必要ニ應シ本人若ハ本人ノ遺族ニ下付スルモノトス

第六條 官吏恩給法施行規則第四條及官吏遺族扶助法施行規則第三條ニ掲グル書類ハ左ノ各號ニ依リ取扱フヘシ

一 海軍文官ニシテ公務ノ爲傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者アルトキハ所屬長ハ現認證書負傷證書若ハ罹病證書(診察ヲナサシメタルトキ)ヲ所屬長官ニ進達シ所屬長官ハ審査ノ後之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

二 前號ニ該當シ退官シタル者若ハ在官中死亡シタル者アルトキハ本省ニ於テ前號ニ依リ受領

明治三十三年十二月 達 海軍省第七十一號 恩給扶助料取扱手續

シタル書類ヲ本人若ハ本人ノ遺族ニ下付スヘシ

第七條 軍人恩給法第十一條ニ依リ検査ヲ要スル者ハ准士官以上ハ海軍大臣ニ下士以下ハ在籍鎮守府司令長官ニ願出ツヘシ

海軍大臣若ハ鎮守府司令長官前項ノ出願ヲ受ケタルトキハ軍醫官ヲシテ其症狀實査ノ上診斷證書ヲ作ラシメ鎮守府司令長官ハ審査ノ後之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

前項ノ場合ニ於テ軍醫官ヲシテ診斷セシムル能ハサル場合ニ在テハ其原因經過療法及現症ヲ詳記シタル醫師二名以上速署ノ診斷證書ヲ差出サシメ鎮守府司令長官ハ審査ノ後之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

第八條 候補生ニ在テハ准士官以上ニ準シ生徒ニ在テハ下士ニ準シ取扱フヘシ但シ鎮守府司令長官ノ爲メニ定メタル事項ハ所屬校長ニ於テ取扱フモノトス

第九條 前諸條ニ規定スルモノ、外恩給並ニ扶助料請求ニ要スル證據書類ハ前諸條ニ準シ取扱フヘシ

附則

明治二十三年七月達第二百五十九號同年十二月達第四百十四號及二十七年五月達第六十八號ハ之ヲ廢止ス

第一書式

服役停年ニ基ク退職及免除恩給請求書但シニ通差出スヘシ(以下執レモニ通ラ差出スヘシ)

(用紙美濃紙)

恩給請求書

某 儀

何年何月何日(被任何官)(何々被申付)爾來何箇年服役何年何月何日何々ニ依リ(養備)(後備)(退役)

(免官)(免役) 何年何月何日候ニ就テハ軍人恩給法ニ據リ相當ノ恩給下賜證據書類相添此段請求仕候也

元(軍艦何々)(某何々)(林何々)

何府何市何町何番地(平民)

何府何市何町何番地(寄留)

職官位勳爵氏 名 印

年月日

海軍大臣爵氏名殿

卒ハ書所管長官ニ宛ツヘシ(以下之)

附屬スヘキ證據書類

履歴書(第十書式)

第二書式 傷疾疾病ニ基ク恩給請求書

(用紙美濃紙)

恩給請求書

某 儀

何年何月何日(被任何官)(何々被申付)爾來何箇年服役何年何月何日(傷疾)(疾病)ノ故ヲ以テ(退役)(免官)(免役) 何年何月何日候ニ就テハ軍人恩給法ニ據リ相當ノ恩給下賜證據書類相添此段請求仕候也

肩書第一書式ニ同シ

職官位勳爵氏 名 印

年月日

海軍大臣爵氏名殿

附屬スヘキ證據書類

第三書式

恩給請求書

傷疾疾病重症ニ趨キ恩給ノ増加ヲ請  
求シ若ハ其ノ恩給ヲ更ニ請求ノトキ

某 儀

何年何月何日ヨリ(傷疾)(疾病)ノ故ヲ以テ(恩給及負傷増加恩給下賜)(現役ヲ離レ)候處爾來何々ニ依  
リ遂ニ重症ニ趨キ別紙診斷書ノ通りニ候間御検査ノ上軍人恩給法ニ據リ相當ノ恩給下賜度證據書類相  
添此段請求仕候也

肩書第一書式ニ同シ

官位勳爵氏

名 〇

年月日

海軍大臣爵氏名殿

附屬スヘキ證據書類

診斷證書 (第八書式) 限リ原簿ニ記載シテ檢査官ノ地方官ノ取付シタルモノ  
更ニ恩給ヲ請求スルモノ

現職證書 (第十書式)

現職證書 (第五書式若ハ公文ノ寫若ハ口供書)

負傷證書 若ハ傷病證書(第七書式)

診斷證書 (同右)

(用紙美濃紙)

第四書式

給助金請求書

某 儀

何年何月何日被任何官爾來何箇年動續何年何月何日現役ヲ離レ候ニ就テハ軍人恩給法ニ據リ相當ノ給  
助金下賜度證據書類相添此段請求仕候也

肩書第一書式ニ同シ

官位勳爵氏

名 〇

年月日

海軍大臣爵氏名殿

附屬スヘキ證據書類

現職證書 (第十書式)

遺族ヨリ請求ノトキ

給助金請求書

故官位勳爵氏 名

右現役中何年何月何日死亡仕候ニ就テハ軍人恩給法ニ據リ相當ノ給助金下賜度證據書類相添此段請求  
仕候也

肩書第一書式ニ同シ

故官位勳爵氏名遺族

氏 名 〇

年月日

海軍大臣爵氏名殿

(用紙美濃紙)

附屬スヘキ証據書類

履歴書 (第十書式)

備考 死者ニ對スル給助金ハ遺產相續人ヨリ請求スヘシ

第五書式

(用紙美濃十三行罫紙)

現認證書

右者明治何年何月何日何時何分何所ニ於テ俱ニ砲撃ノ際(何々演習ノ際何々ニ由リ何々ニ觸レ)(何々ニ由リ何物ノ爲メニ)何部ニ何傷ヲ受タルヲ現認ス

所轄 職官氏 名  
所轄 職官氏 名  
職官氏 名

罹病ニ係ル現認證書ノ書式ハ本證書ニ準ス

備考 本證書ハ姓名ヲ現認ヲ得ルニシテ一ニシテ之ヲ作ルヘシ又現認者一名ノ場合ニ在テハ一名ニテ之ヲ作ルヘシ

第六書式

(用紙美濃十三行罫紙)

負傷證書

右者何年何月何日何時何處(地)ニ於テ何々ノ際何々ノ爲メ(例之ハ砲撃ノ際何々ノ爲メ)負傷シタルニ因リ診スルニ何ノ部ニ長サ(大サ)幾許深サ幾許ノ何創アリ何々ノ症狀ヲ呈ス(例之ハ右頸部ニ長サ幾許深サ幾許ノ創アリ)

所轄職官氏 名  
年齢

トシテ何部ニ傷ヲ受ケタルニ依リテ何々ノ處置ヲ施ス(例之ハ止血処置)トシテ何部ニ傷ヲ受ケタルニ依リテ何々ノ處置ヲ施ス(例之ハ止血処置)

年月日

職官氏 名

第七書式

(用紙美濃十三行罫紙)

罹病證書

所轄職官氏 名  
年齢

右者何年何月何日何處(地)ニ於テ何某虎列刺ニ罹リ送院ノ後艦内消毒ニ從事セシ處何月何日ヨリ何々ノ症狀ヲ發シ同症(或ハ右者本艦打狗港碇泊中何年何月何日風雨ヲ冒シテ戰術操練ニ從事セシ處何月何日ヨリ何々ノ症狀ヲ發シ麻刺里亞熱)ニ罹リタルニ因リ公務ノ爲感染セシモノト認ム

年月日

職官氏 名

第八書式

(用紙美濃十三行罫紙)

診斷證書

所轄職官氏 名  
年齢

右者何年何月何日何處(地)ニ於テ何ノ際何ノ爲ニ何ノ部ニ何ノ傷痕ヲ負ヒ(或ハ何ノ疾病ニ罹リ)何年何月何日ヨリ治療(或ハ入院治療)ノ處何年何月何日何ノ手術ヲ行ヒ(或ハ何ノ療法ヲ施シ)何年何月何

日傷痕(或ハ疾病)治療スト雖モ何ノ部位ヲ失ヒ(或ハ何ノ機能ヲ廢シ或ハ大ニ妨ケ或ハ妨ケタルニ由リ)永久服役(或ハ現役)ニ堪ヘ難キ者ト診斷ス

年月日

病院長官氏 名 ㊟

第九書式

(用紙美濃十三行郵紙)

死亡證書

所轄職官氏 名

年 齡

右者何年何月何日何時何處(地名)ニ於テ何ノ際何ニ由リ何ノ部ニ何ノ傷痕ヲ負ヒ(或ハ何ノ疾病ニ罹リ)醫療ヲ俟タヌ即時死去ス

年月日

職官氏 名 ㊟

死亡證書

所轄職官氏 名

年 齡

右者何年何月何日何時何處(地名)ニ罹リ(或ハ何ニ因テ何傷ヲ受ケ)(例之ハ、火傷、刀傷、墮落等シテ)何年何月何日ヨリ治療(或ハ入院治療)ノ處何年何月何日何時何處ニ於テ何種ノ症ヲ發シ(或ハ何種ノ症ヲ發シタルニ由リ)何種ノ手術ヲ行ヒタルモ若ハ何種ノ手術ヲ行ヒタルモ何種ノ症ヲ發シ(遂ニ何種ノ症ヲ發シタルニ由リ)何種ノ手術ヲ行ヒタルモ何種ノ症ヲ發シ(遂ニ何種ノ症ヲ發シタルニ由リ)

例之ハ、火傷、刀傷、墮落等シテ、何種ノ症ヲ發シタルニ由リ、何種ノ手術ヲ行ヒタルモ何種ノ症ヲ發シ(遂ニ何種ノ症ヲ發シタルニ由リ)右證明ス

年月日

職官氏 名 ㊟

備考 本證書ニハ疾病傷痕ノ經過中ニ生シタル主要ノ症狀併發症續發症及死因ヲ簡單ニ記シ又重要ノ手術ヲ行ヒタルトキハ之ヲ記入スヘシ

第十書式

(用紙美濃紙)

履歷明細書

明治何年	何月何日	海軍何等卒申付(任官官) (任官ノ次官ニ任官シタルモノハ其ノ任官シタル)	何種ノ地土(平民)
同	同	何種ノ科海軍刑法第何條ニ依リ重(輕)禁錮何日	何種ノ地土(平民)
同	同	任海軍三等兵曹	何種ノ地土(平民)
同	同	某國(外) 航海但シ軍艦何乘組(客員)ニ任官シタルモノハ其ノ任官シタル)	何種ノ地土(平民)
同	同	某地從軍 又ハ何種ノ職	何種ノ地土(平民)
同	同	某地へ歸著	何種ノ地土(平民)
同	同	任海軍上等兵曹	何種ノ地土(平民)
同	同	任海軍少尉	何種ノ地土(平民)
同	同	敘正八位	何種ノ地土(平民)





給法ニ據リ相當ノ恩給下賜度別紙證據書類相添此段請求仕候也

何所何市何町何番地士族(平民)  
何縣何市何町何番地寄留

年月日

海軍大臣爵氏名殿

元官位勳爵氏 名 ㊦

附屬スヘキ證據書類

履歷書 (第十書式ニ據ル)

戸籍謄本

傷疾ニ因ル者

履歷書 (同右)

戸籍謄本

診斷證書 (第八書式)

公務ノ爲受ケタル傷疾ニ因ル者

履歷書 (同右)

戸籍謄本

現認證書 (第五書式若ハ公文ノ寫若ハ口供書)

負傷證書 若ハ罹病證書 (第七書式)

診斷證書 (同右)

第十四書式 文官恩給請求書式

傷疾疾病重症ニ趨キ恩給ノ増加ヲ請  
求シ若ハ其ノ恩給ヲ更ニ請求ノトキ

(用紙美濃紙)

恩給請求書

某 儀

何年何月何日ヨリ(傷疾)(疾病)ノ故ヲ以テ(恩給及負傷増加恩給下賜)(依願被免本官)候處爾來何々ニ

依リ遂ニ重症ニ趨キ別紙診斷書ノ通ニ候間官更恩給法ニ據リ相當ノ恩給下賜度證據書類相添此段請求仕候也

年月日

海軍大臣爵氏名殿

肩書第十三書式ニ同シ  
元官位勳爵氏 名 ㊦

名 ㊦

附屬スヘキ證據書類

診斷證書 (第八書式) 原因經過保狀及現病  
更ニ恩給ヲ請求スルモノ

履歷書 (第十書式ニ據ル)

現認證書 (第五書式若ハ公文ノ寫若ハ口供書)

負傷證書 若ハ罹病證書 (第七書式)

診斷證書 (同右)

第十五書式

遺族ニ下付スヘキ履歷  
書ニ添付スヘキモノ

(用紙美濃半葉罫紙)

故(官)(職)(位)(勳)(爵)氏 名

遺 族

右(氏名)在官中ノ履歷下付候也

年月日

海軍大臣爵氏 名

(下士以下ニ在テハ所管領  
守府司令長官記名捺印ス)

海軍大臣之印

第十六書式

扶助料或給助金ヲ受クヘキ者ハ二通

(用紙美濃十三行野紙)

兵籍簿寫

何 <sup>海軍士</sup> 族(平民)		海軍官(職)氏 名	何年何月何日生
父	名	何年何月何日生	
母	名	何年何月何日生	
妻	名	何年何月何日生	
長男	名	何年何月何日生	
右證明ス			
年月日			
海軍省人事局長氏		名	印
(下士以下ニ在テハ所管領守府兵事官記名捺印ス)			

〔參照〕

明治二十三年七月海軍省達第百五十九號ハ官吏遺族扶助法施行規則第一條及軍人恩給法施行規則第二條ニ依リ死者ノ  
 履歷書ヲ其遺族ニ下付スルハ其履歷書主管ノ職ニ於テ取計ハシムル件同年十二月同第四百十四號ハ軍人恩給法施行規則  
 第二條ニ依リ死者ノ履歷ヲ遺族ヘ下付スルトキ添書雛形ノ件同二十七年五月同第六十八號ハ軍人恩給法ニ據リ恩給請  
 求ニ要スル書式ナリ

○海軍省達第百七十二號

本年八月達第百四十號少尉候補生及少機關士候補生乘艦中供用品表貸與品中ニ左ノ通追加ス

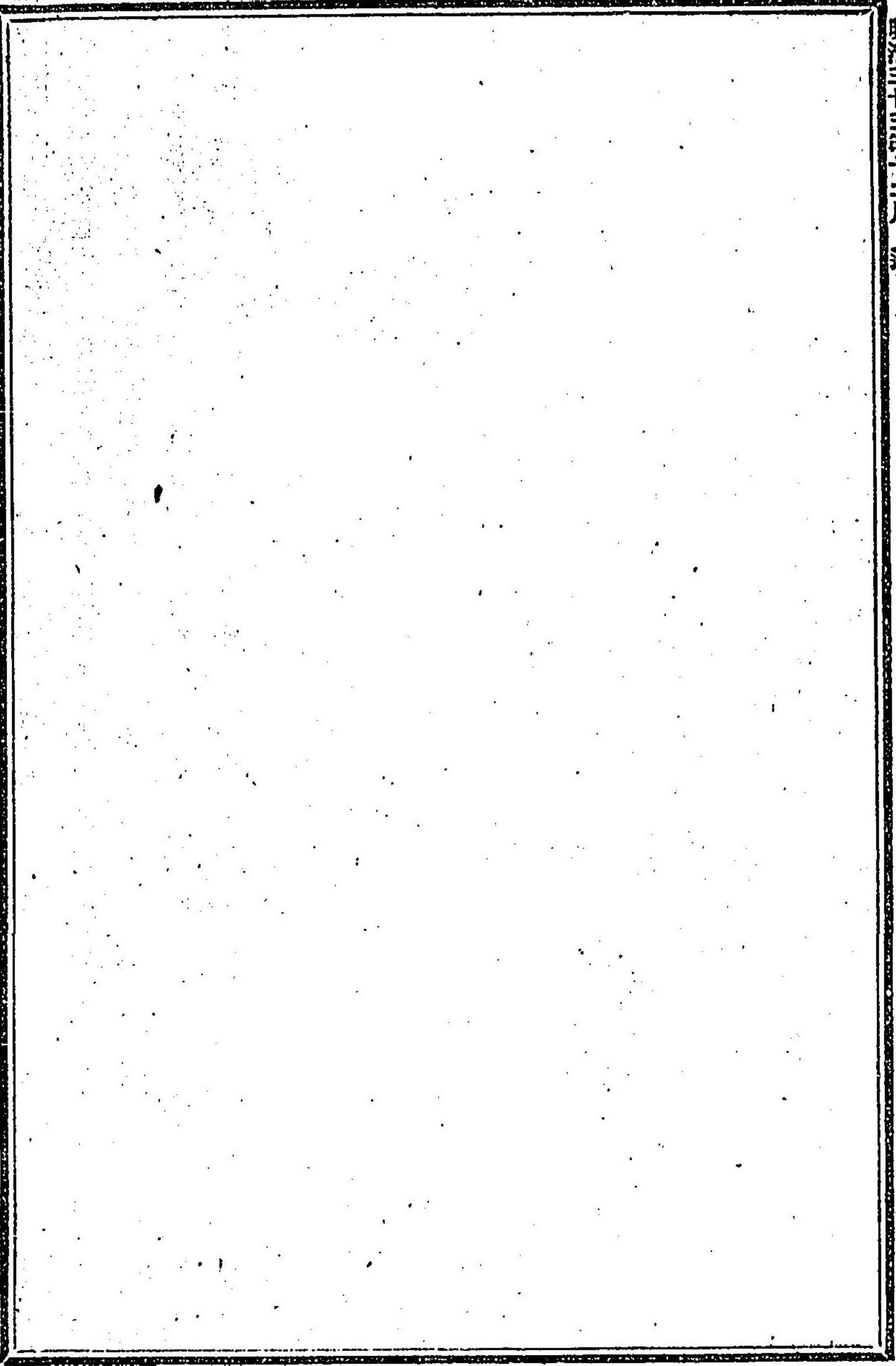
明治三十三年十二月二十七日

海軍大臣山本權兵衛

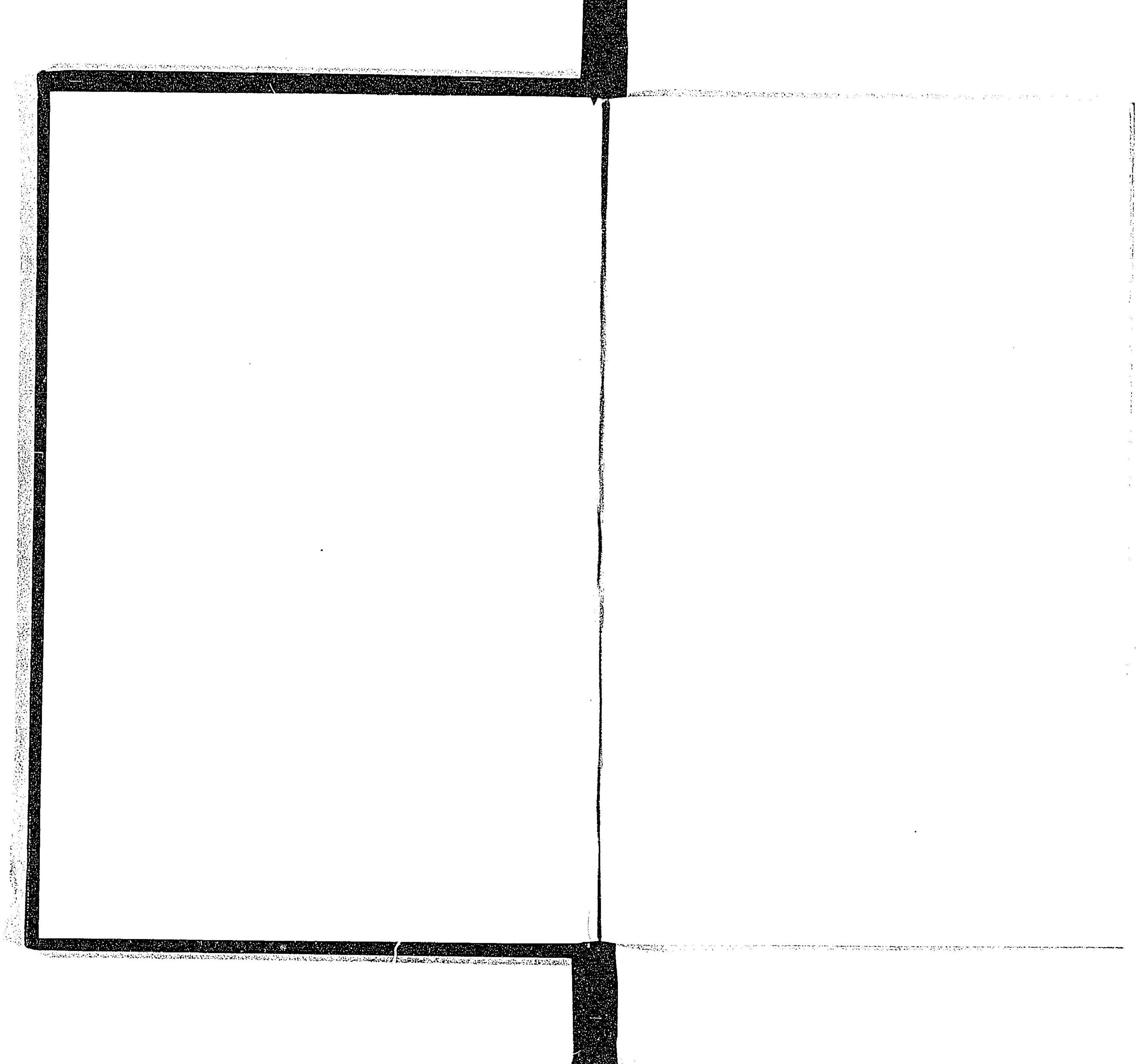
新式發光信號燈	二十六年形	二箇	一艦ニ付	同	要具箇	共	具	二箇	一艦ニ付
白函入	同	二箇	一艦ニ付	同	燃料罐格納箇	同	二箇	一艦ニ付	
赤函入	同	二箇	一艦ニ付	同					

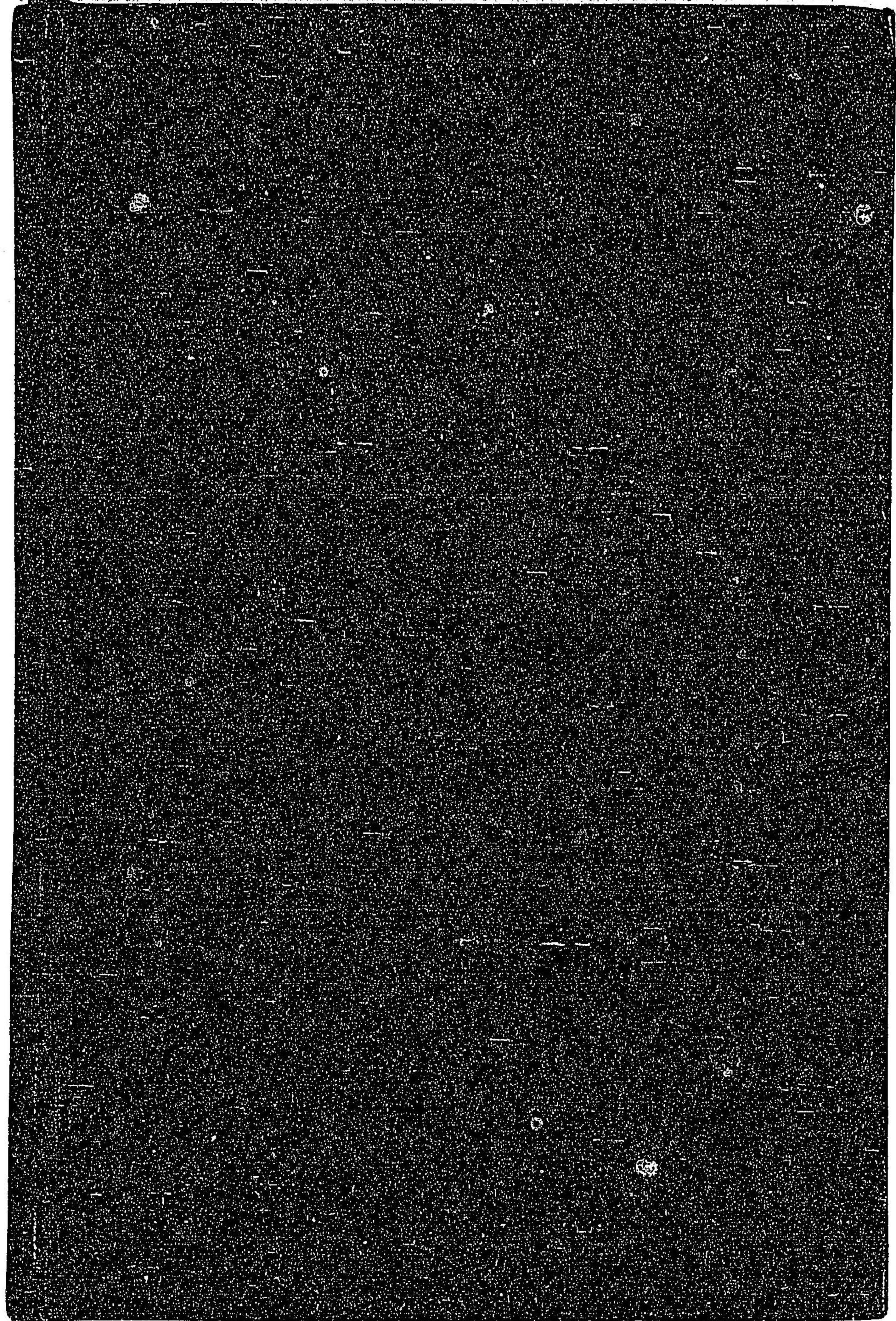
18

國海山子山遊子山遊



山水





031130-073-5

CZ-4-1

法令全書 慶応3年10月-明治45年7月

内閣官報局

M20-45

BBC-1032



